

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	経営学総論Ⅰ (Principle of Management Ⅰ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小 柏 喜 久 夫								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 環境の複雑性と変化速度が増すビジネスの世界で起きている事象を理解し、社会の中での企業経営のあり方を考えていきます。経営戦略の具体的な事例を取り上げ、その理解を通して、経営とは何か、経営学の体系はどのように構成されているのか、を学習していきます。									
授業目標： ①経営学、特に経営戦略論の基礎概念を理解します ②経営学の体系を理解します ③経営とは何か、を考える力を養います									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	ガイダンス				事前：シラバスの通読 事後：シラバスに沿って要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
2	経営学の特徴を述べる				事前：教本序章を通読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
3	事例：フォードと GM の競争の歴史を概観する				事前：教本56-64頁通読 事後：ノート・教本により経緯をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
4	環境・戦略・組織の関係を考える				事前：教本64-70頁通読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
5	課題学習				事前：教本56-70頁精読 事後：課題学習の自己チェック			講義 45分小テスト 45分	
6	事例：コマツのビジネス・システム革新の過程を解説する				事前：教本110-123頁通読 事後：ノート・教本により経緯をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
7	ビジネス・システムの進化について考える				事前：教本123-129頁通読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
8	課題学習				事前：教本110-129頁精読 事後：課題学習の自己チェック			講義 45分小テスト 45分	
9	事例：マクドナルドとモスバーガーの競争の歴史を概観する				事前：教本71-82頁通読 事後：ノート・教本により競争の仕方の違いをまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
10	いかに競争するか（競争戦略論）について解説する				事前：教本83-88頁通読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
11	課題学習				事前：教本71-88頁精読 事後：課題学習の自己チェック			講義 45分小テスト 45分	
12	事例：サムスン電子のグローバル戦略を説明する				事前：教本169-181頁通読 事後：ノート・教本により経緯をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
13	「統合と適応のジレンマ」の解決過程を解説する				事前：教本181-189頁通読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
14	課題学習				事前：教本169-189頁通読 事後：課題学習の自己チェック			講義 45分小テスト 45分	
15	経営とは何か				事前：印刷資料の通読 事後：ノート・印刷資料により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
教本： 東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学（第3版）』有斐閣、¥2,700＋税					参考文献： 授業の中で随時提示します。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20％）、小テスト・レポート等（20％）、定期試験（60％）等で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 欠席しないことが大前提です。粘り強く自己学習能力を高めるよう期待します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経営学総論 I （Principle of Management I）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	清水 健太								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他								
授業概要： 本講義では、19世紀末から現在まで多種多様な展開をみせているアメリカ経営学を中心に「経営学の生成と展開」について解説する。経営理論を単なる学説史的な知識として習得するだけでなく、それらが企業の実践的要請にどのように応えてきたのか、現実の企業経営にどのような影響を与えてきたのか、そして現在の経営課題とどのように関連づけることができるかについて、理解し思考することが本講義の目標である。									
授業目標： 【知識・理解】経営学の生成と展開をわかりやすく説明できる。【思考・判断】経営に関する諸理論・諸学説がどのように生成し展開したかを述べることができる。【関心・意欲】現実の企業経営のケースを経営理論と結び付けて考えることができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション；経営学の学び方					事前：参考書の確認 事後：配布資料の確認		講義 90分	
2	生産と管理の合理化 (1) 科学的管理法：テイラー					事前：労働者の怠業問題 事後：科学的管理法について		講義 60分・小テスト 30分	
3	生産と管理の合理化 (2) 大量生産体制：フォード					事前：大量生産体制 事後：科学的管理法との関係		講義 60分・小テスト 30分	
4	生産と管理の合理化 (3) 管理過程と管理原則：ファヨール					事前：管理過程とは何か 事後：科学的管理法との相違		講義 60分・小テスト 30分	
5	人間の理論 (1) 人間性への着目：人間関係論					事前：人間関係論の背景 事後：科学的管理法の問題点		講義 60分・小テスト 30分	
6	人間の理論 (2) 行動科学的思想：マズローとマクレガー					事前：経済仮説との関係 事後：欲求階層説について		講義 60分・小テスト 30分	
7	組織の理論 (1) 公式組織論：バーナード					事前：組織の定義 事後：人間協働の意味		講義 60分・小テスト 30分	
8	組織の理論 (2) 意思決定論：サイモン					事前：最適化原理 事後：満足化原理		講義 60分・小テスト 30分	
9	組織の理論 (3) 組織の環境適合：コンティンジェンシー理論					事前：環境変化とは何か 事後：理想の組織は何か		講義 70分・小テスト 20分	
10	戦略の理論 (1) 戦略計画学派：アンゾフ ① アンゾフの成長マトリックス					事前：戦略論の背景 事後：多角化戦略の意味		講義 70分・小テスト 20分	
11	戦略の理論 (2) 戦略計画学派：アンゾフ ② 多角化戦略					事前：多角化の様々な形態 事後：多角化とリスクの関係		講義 70分・小テスト 20分	
12	戦略の理論 (3) ポジショニング・ビュー：ポーター ① 5つの競争要因					事前：ポーターの基礎理論 事後：5つの競争要因		講義 70分・小テスト 20分	
13	戦略の理論 (4) ポジショニング・ビュー：ポーター ② 競争戦略					事前：競争戦略全般 事後：ポーターの基礎理論		講義 70分・小テスト 20分	
14	戦略の理論 (5) リソース・ベースト・ビュー：ハメル&ブラハラード					事前：資源ベース論 事後：模倣困難性の意味		講義 70分・小テスト 20分	
15	全体のまとめ					事前：全体の内容 事後：		講義 90分	
教本： 佐久間信夫編(2023)『入門企業論』法律文化社					参考文献： ①北野利信編『経営学説入門』有斐閣 ②渡辺峻・角野信夫・伊藤健市編『やさしく学ぶマネジメントの学説と思想』ミネルヴァ書房、他				
成績評価の方法、評価基準： 下記の基準を満たしているのかについて総合的に判断する。 小テスト（6点×13回：78%）、定期試験（22%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 意欲を持って参加すれば、学ぶことが楽しくなるような講義を目指します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経営学総論Ⅱ（Principle of Management Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小 柏 喜 久 夫								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 環境の複雑性と変化速度が増すビジネスの世界で起きている事象を理解し、社会の中での企業経営のあり方を考えていきます。企業論、事業論、組織論及び管理論の各領域における具体的な事例を取り上げ、その理解を通して、経営とは何か、経営学の体系はどのように構成されているのか、を学習していきます。									
授業目標： ①経営学の基礎概念を理解します ②経営学の体系を理解します ③経営とは何か、を考える力を養います									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	ガイダンス				事前：シラバスの通読 事後：シラバスに沿って要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
2	経営学の体系				事前：印刷資料の読み取り 事後：ノート・印刷資料により全体観をつくる			講義 70分質疑応答 20分	
3	事例：メルカリのビジネス・モデルを説明する				事前：教本10-20頁通読 事後：ノート・教本によりモデルを理解する			講義 70分質疑応答 20分	
4	企業を起こす、起業のプロセスを解説する				事前：教本20-31頁精読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
5	課題学習				事前：教本10-31頁精読 事後：課題学習の自己チェック			講義 45分小テスト 45分	
6	事例：カゴメのファン株主拡大戦略を説明する				事前：教本32-45頁通読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
7	コーポレート・ガバナンスを解説する				事前：教本45-54頁通読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
8	課題学習				事前：教本32-54頁精読 事後：課題学習の自己チェック			講義 45分小テスト 45分	
9	事例：破壊的技術への富士フィルムの対応を説明する				事前：教本130-144頁通読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
10	製品開発と新規事業創造を解説する				事前：教本144-150頁通読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
11	課題学習				事前：教本130-150頁精読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 45分小テスト 45分	
12	事例：サントリーの新飲料開発を説明する				事前：教本253-263頁通読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
13	成熟市場における商品開発について解説する				事前：教本263-270頁通読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
14	課題学習				事前：教本253-270頁精読 事後：課題学習の自己チェック			講義 45分小テスト 45分	
15	再び、経営とは何か、を考える				事前：印刷資料の精読 事後：ノート・教本により要点と自分の意見をまとめる			講義 45分質疑応答 45分	
教本： 東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学（第3版）』有斐閣、¥2,700+税					参考文献： 随時提示します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 欠席しないことが大前提です。粘り強く自己学習能力を高めるよう期待します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	経営学総論Ⅱ（Principle of ManagementⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	清水 健太								
履 修 条 件	前提科目	経営学総論Ⅰを履修していることが望ましい							
	そ の 他								
授業概要： 経営学総論Ⅱでは、経営学総論Ⅰで経営学の基礎理論を学んだ学生を前提として、企業の実態を学ぶ企業論に近い内容に重点を置き、企業の行動原理や企業の仕組みを理解することを目的にする。									
授業目標： ①企業の行動原理について説明できる。②日本企業の課題や特徴について説明できる。③経営学の専門科目を学ぶ基礎的知識や学習方法を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	オリエンテーション：経営学の学び方				事前：参考図書の確認 事後：講義計画の確認			講義 90分	
2	企業の行動原理①株式会社の成立				事前：企業と株主の関係 事後：株主の有限責任			講義 70分・小テスト 20分	
3	企業の行動原理②起業と資金調達				事前：企業と銀行の関係 事後：株主からの資金調達			講義 70分・小テスト 20分	
4	企業の行動原理③投資家と株式公開				事前：株主の行動原理 事後：株式公開とは何か			講義 70分・小テスト 20分	
5	コーポレート・ガバナンス①企業統治の仕組み				事前：所有と経営の分離 事後：企業統治の形態			講義 70分・小テスト 20分	
6	コーポレート・ガバナンス②経営者報酬の仕組み				事前：所有と経営の分離 事後：経営者報酬の形態			講義 70分・小テスト 20分	
7	企業グループの形成①持株会社の成立				事前：独占禁止法との関係 事後：全社戦略と事業戦略			講義 70分・小テスト 20分	
8	企業グループの形成②多角化経営と事業ポートフォリオ				事前：PPM分析 事後：金のなる木の衰退			講義 70分・小テスト 20分	
9	企業グループの形成③選択と集中の戦略				事前：シナジーとは何か？ 事後：長期の戦略との関係			講義 70分・小テスト 20分	
10	イノベーション①経営環境の変化とイノベーションシステム				事前：イノベーションの定義 事後：イノベーションの定義			講義 70分・小テスト 20分	
11	イノベーション②オープン・イノベーションへの変化				事前：オープン・イノベーションとは何か？ 事後：オープン・イノベーションとは何か？			講義 70分・小テスト 20分	
12	イノベーション③大企業からの新事業創造				事前：現代のイノベーションシステム 事後：現代のイノベーションシステム			講義 70分・小テスト 20分	
13	企業の戦略①成長戦略				事前：アンゾフの成長マトリクス 事後：アンゾフの成長マトリクス			講義 70分・小テスト 20分	
14	企業の戦略②競争戦略				事前：5つの競争要因 事後：5つの競争要因			講義 70分・小テスト 20分	
15	全体のまとめ				事前：全体の内容 事後：全体の内容			講義 90分	
教本： 佐久間信夫編(2023)『入門企業論』法律文化社					参考文献： ①忽那憲治他『ベンチャーキャピタルハンドブック』、②柿崎洋一『企業論』、③井上善海・大杉奉代『経営戦略入門』				
成績評価の方法、評価基準：下記の基準を満たしているのかについて総合的に判断する。 小テスト（6点×13回：78%）、定期試験（22%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 意欲を持って参加すれば、学ぶことが楽しくなるような授業を目指します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経営管理論Ⅰ（Business ManagementⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	佐久間 信夫								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	そ の 他								
授業概要： アメリカ経営学は管理論を中心に発展してきた。アメリカの理論を十分に理解し、事例研究を行うことにより、管理の理論と実践をより深く学ぶ。LTD（討論による学習法）やプレゼンテーションも実施する。									
授業目標： (1) 学生が、経営管理の理論について、事例を用いながら説明することができる。 (2) 学生が、企業の事例を用いてディスカッションすることができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 授業の進め方、到達目標、成績評価基準などについて説明する。授業の基礎となる導入部分について、企業の事例を取り上げながら解説する					事前：テキストの確認 事後：講義計画の確認		講義 90分	
2	現代企業の諸形態①					事前：企業の法律形態の下読み 事後：企業経済形態をまとめる		講義 45分、LTD 45分	
3	現代企業の諸形態②					事前：プレゼンの準備 事後：プレゼンのまとめ		講義 90分	
4	日本の会社機関とコーポレート・ガバナンス①					事前：会社機関の下読み 事後：取締役会をまとめる		講義 90分	
5	日本の会社機関とコーポレート・ガバナンス②					事前：プレゼンの準備 事後：プレゼンのまとめ		プレゼンテーション 90分	
6	アメリカの会社機関とコーポレート・ガバナンス①					事前：会社機関の下読み 事後：機関投資家のまとめ		講義 45分、LTD 45分	
7	アメリカの会社機関とコーポレート・ガバナンス②					事前：企業統治活動の下読み 事後：企業改革法をまとめる		講義 90分	
8	現代企業とステークホルダー①					事前：ステークホルダーを学習 事後：企業不祥事をまとめる		講義 45分、LTD 45分	
9	現代企業とステークホルダー②					事前：プレゼンの準備 事後：プレゼンのまとめ		プレゼンテーション 90分	
10	現代企業の社会的責任①					事前：CSR の概念の下読み 事後：各国の CSR をまとめる		講義 90分	
11	現代企業の社会的責任②					事前：CSR の新動向の下読み 事後：SRI をまとめる		講義 90分	
12	現代の企業倫理①					事前：プレゼンの準備 事後：プレゼンのまとめ		プレゼンテーション 90分	
13	現代の企業倫理②					事前：企業の実践例を下読み 事後：企業倫理の制度化		講義 45分、LTD 45分	
14	現代企業の環境経営①					事前：プレゼンの準備 事後：プレゼンのまとめ		プレゼンテーション 90分	
15	現代企業の環境経営②					事前：環境経営の類型を下読み 事後：環境経営の方法のまとめ		LTD 90分	
教本： 佐久間・大平編『新 現代経営学』学文社									
参考文献： 佐久間信夫責任編集『増補版 現代経営用語の基礎知識』学文社									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20％）、小テスト・レポート等（10％）、定期試験（70％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 組織における管理の重要性を身近な事例を通して考えて行きましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	経営管理論Ⅰ（Business ManagementⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	清水 健太								
履 修 条 件	前提科目	経営学総論Ⅰを履修していることが望ましい							
	そ の 他								
授業概要： 経営管理論では、経営管理論の学説史的な発展を理解することを目的にしている。講義内容についての理解度を問う小テストを毎回行うことにより、基礎的な理解力を高めることを目的にする。									
授業目標： ① 経営管理論の基本的な理論を説明できる。 ② 経営管理論の史的発展過程を説明できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：経営管理論の学び方					事前：参考書の確認、 事後：講義スケジュールの確認		講義 90分	
2	経営管理論の発展の概観					事前：経営管理論の背景 事後：経営管理論の流れ		講義 70分・小テスト 20分	
3	経営管理者の仕事：ドラッカー					事前：経営管理者の役割 事後：ドラッカーの経営学		講義 70分・小テスト 20分	
4	テイラーの科学的管理：①課業管理					事前：動作研究等 事後：差別的出来高給制度		講義 70分・小テスト 20分	
5	テイラーの科学的管理：②職能別職長制					事前：専門的組織の意義 事後：職能別職長制の課題		講義 70分・小テスト 20分	
6	ファヨールの経営管理過程論：①管理過程					事前：管理過程の流れ 事後：管理原則と管理論		講義 70分・小テスト 20分	
7	ファヨールの経営管理過程論：②管理原則					事前：管理原則の内容 事後：大量生産方式との関連		講義 70分・小テスト 20分	
8	フォードの大量生産方式					事前：科学的管理の関係 事後：専門化の原則		講義 70分・小テスト 20分	
9	メイヨーらの人間関係論：ホーソン実験					事前：古典的管理の問題点 事後：人の感情と管理論		講義 70分・小テスト 20分	
10	人間関係論と近代管理論					事前：欲求階層説 事後：科学的管理との関係		講義 70分・小テスト 20分	
11	近代管理論と目標管理					事前：X理論の限界 事後：Y理論と目標管理		講義 70分・小テスト 20分	
12	バーナードの組織論					事前：組織と共通目的 事後：組織の3要素		講義 70分・小テスト 20分	
13	サイモンの意思決定論					事前：満足化原理 事後：満足化原理		講義 70分・小テスト 20分	
14	事例研究					事前：全体のまとめ 事後：全体のまとめ		講義 70分・小テスト 20分	
15	全体のまとめ					事前：全体のまとめ 事後：全体のまとめ		講義 90分	
教本：佐久間信夫『経営管理要論』創成社(2022) 参考文献：渡辺峻 他『やさしく学ぶマネジメントの学説と思想』、佐久間信夫・壽永欣三郎編『現代経営学の基礎』他									
成績評価の方法、評価基準：下記の基準を満たしているのかについて総合的に判断する。 小テスト（6点×13回：78%）、定期試験（22%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 意欲を持って参加すれば、学ぶことが楽しくなる講義を目指します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経営管理論Ⅱ（Business ManagementⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	佐久間 信夫								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	そ の 他								
授業概要： アメリカ経営学は管理論を中心に発展してきた。アメリカの理論を十分に理解し、事例研究を行うことにより、管理の理論と実践をより深く学ぶ。									
授業目標： (1) 学生が、経営管理の理論について、事例を用いながら説明することができる。 (2) 学生が、企業の事例を用いてディスカッションすることができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 授業の進め方、到達目標、成績評価基準などについて説明する。授業の基礎となる導入部分について、企業の事例を取り上げながら解説する					事前：テキストの確認 事後：講義計画の確認		講義 90分	
2	今日の企業制度① 企業形態の発展過程、現代企業への発展、制度的私企業形態と公私企業					事前：企業形態の発展過程 事後：私企業形態と公私企業		講義 45分、LTD 45分	
3	今日の企業制度② 株式会社の結合形態、現代企業のコーポレート・ガバナンス					事前：株式会社の結合形態 事後：株式会社のガバナンス		講義 90分	
4	現代の企業経営とマネジメント 現代社会の変化と企業経営、企業組織のマネジメント機能					事前：マネジメントの下読み 事後：マネジメント機能		講義 90分	
5	管理の主体と権限・責任① 現代における経営者の機能と責任、管理者の機能と責任					事前：プレゼンの準備 事後：プレゼンのまとめ		プレゼンテーション 90分	
6	管理の主体と権限・責任② 権限の源泉についての3つの理論上位権限説					事前：上位権限説の下読み 事後：権限職能説のまとめ		講義 45分、LTD 45分	
7	テイラーの科学的管理論① テイラーの生涯と業績、科学的管理論の背景、課業管理					事前：科学的管理論 事後：課業管理をまとめる		講義 90分	
8	テイラーの科学的管理論② 精神革命論、科学的管理法への批判と労働組合、科学的管理法の継承者たち					事前：精神革命論の下読み 事後：科学的管理法の継承者		講義 45分、LTD 45分	
9	ファヨールと管理過程学派① ファヨールの生涯と業績、企業管理と管理教育、管理原則					事前：プレゼンの準備 事後：プレゼンのまとめ		プレゼンテーション 90分	
10	ファヨールと管理過程学派② 経営管理の要素、ファヨール管理論の特質、管理過程学派					事前：経営管理の要素の下読み 事後：管理過程学派をまとめる		講義 90分	
11	人間関係論① 人間関係論の成立背景、ホーソン実験 照明実験 面接プログラム					事前：ホーソン実験の下読み 事後：インフォーマル組織		講義 90分	
12	人間関係論② 人間関係論の思想的・理論的基盤、人間関係論の意義および限界					事前：プレゼンの準備 事後：プレゼンのまとめ		プレゼンテーション 90分	
13	フォレットの経営管理論 プロセス観の基礎 組織化のプロセス 管理者の役割とリーダーシップ					事前：状況の法則を下読み 事後：管理者の役割をまとめる		講義 45分、LTD 45分	
14	経営計画の機能とその策定プロセス 企業における経営計画の諸機能 経営計画の策定プロセス					事前：プレゼンの準備 事後：プレゼンのまとめ		プレゼンテーション 90分	
15	組織デザインと調整、統合 組織デザインの考え方 組織形態とその具体的活用					事前：組織原則を下読み 事後：動態的組織をまとめる		LTD 90分	
教本： 佐久間信夫・犬塚正智編著『現代経営管理要論』創成社									
参考文献： 佐久間信夫責任編集『増補版 現代経営用語の基礎知識』学文社									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 専門用語と理論を正確に理解し、説明できるようにしましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 営 社 会 学 I （Sociology of Business I）						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	沈 瑛								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本講義は超高齢化社会の中、社会で起きている様々な事象が企業に与える影響について論じる。①若者の考え方・価値観の変化、②女性労働者の意識や価値観、働き方、③外国人労働者の意識や価値観について焦点を当てる。									
授業目標： ① 企業を取り巻く経営環境について理解し、経営活動に参加する際に必要とする基礎知識を身につける。 ② 企業の経営活動と、企業活動を担う人に関する事柄を幅広く学ぶ。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
◎				○					
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：特になし 事後：テキストの精読		講義	
2	現代社会における企業の経営活動					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
3	現代社会における企業の役割					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
4	グローバリゼーションと経営戦略の展開					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
5	多様化する労働の場					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
6	情報化・技術革新と労働者					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
7	ミニテスト（前半のまとめをする）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説	
8	若年層世代の考え方と価値観					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
9	女性労働者の働き方					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
10	女性労働者の意識と価値観					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
11	外国人労働者の雇用					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
12	外国人労働者の就労意識・価値観①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
13	外国人労働者の就労意識・価値観②					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
14	ミニテスト（後半のまとめをする）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説	
15	全体のまとめ					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
教本：上林憲雄・奥林康司・團泰雄他『経験から学ぶ経営学入門「第2版」』有斐閣、2018年。上林千恵子編著『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房、2012年。必ず2つ購入してください。購入しない場合は受講できません。 参考文献：授業中に適宜紹介する。									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 自分なりの意見を持てるようにするための講義です。少しでも関心を持てそうでしたら講義に参加してみてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 営 社 会 学 Ⅱ （Sociology of Business Ⅱ）						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	沈 瑛								
履 修 条 件	前提科目	担当教員による経営社会学Ⅰを履修していること。							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本講義は超高齢化社会の中、社会で起きている様々な事象が企業に与える影響について論じる。①若者の考え方・価値観の変化、②女性労働者の意識や価値観、働き方、③外国人労働者の意識や価値観について焦点を当てる。事例研究をしながら、学生同士の意見交換を行う。									
授業目標： ① 企業を取り巻く経営環境について理解し、経営活動に参加する際に必要とする基礎知識を身につける。 ② 企業の経営活動と、企業活動を担う人に関する事柄を幅広く学ぶ。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
◎				○					
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：特になし 事後：テキストの精読		講義	
2	現代社会における企業の経営活動					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
3	現代社会における企業の役割					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
4	情報化・技術革新と労働者					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
5	労働者に求められる異文化コミュニケーション①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
6	労働者に求められる異文化コミュニケーション②					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
7	ミニテスト（前半のまとめをする）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説	
8	女性労働者の雇用①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
9	女性労働者の雇用②―事例研究―					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
10	外国人労働者の活用①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
11	外国人労働者の活用②―事例研究―					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
12	高年齢者の就労意識と職業能力①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
13	高年齢者の就労意識と職業能力②―事例研究―					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
14	ミニテスト（後半のまとめをする）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説	
15	全体のまとめ					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
教本：上林憲雄・奥林康司・團泰雄他『経験から学ぶ経営学入門「第2版」』有斐閣、2018年。上林千恵子編著『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房、2012年。必ず2つ購入してください。購入しない場合は受講できません。									
参考文献：授業中に適宜紹介する。									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 学生へのアドバイス：自分なりの意見を持てるようにするための講義です。少しでも関心を持てそうでしたら講義に参加してみてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 営 組 織 論 I （Management Organization I）						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	清 水 健 太								
履 修 条 件	前 提 科 目	経 営 学 総 論 I を 履 修 し て い る こ と が 望 ま し い							
	そ の 他								
授 業 概 要： 経 営 組 織 論 に お け る 理 論 的 発 展 を 学 習 す る こ と を 目 的 に す る。									
授 業 目 標： 【知識・理解】 経 営 組 織 論 の 基 本 的 な 理 論 を わ か り や す く 説 明 で き る。【思考・判断】 経 営 組 織 論 に 関 す る 諸 理 論 ・ 諸 学 説 が ど の よ う に 生 成 し 展 開 し た か を 述 べ る こ と が で き る。【関心・意欲】 現 実 の 企 業 経 営 の ケ ー ス を 経 営 組 織 論 と 結 び 付 け て 考 え る こ と が で き る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 （ 最 重 要 に ◎、 重 要 に ○ 1 つ）									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成				学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養		
			◎				○		
授 業 計 画、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （ 詳 細 に 記 入 ）			事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題）				授 業 形 態	
1	オリエンテーション：組織論の学び方			事前：組織論を学ぶうえで重要な点を理解する。 事後：組織論を学ぶうえで重要な点を理解する。				講義 90分	
2	組織とは何か？			事前：組織の定義・概念について理解する。 事後：組織の定義・概念について理解する。				講義 70分・小テスト 20分	
3	組織構造の設計			事前：組織構造の様々な形態を理解する 事後：組織構造の様々な形態を理解する				講義 70分・小テスト 20分	
4	官僚制組織の発展			事前：官僚制組織の意義 事後：官僚制組織の課題				講義 70分・小テスト 20分	
5	外部の不確実性への対応と経営組織			事前：外部環境と組織の関係を理解する 事後：外部環境と組織の関係を理解する				講義 70分・小テスト 20分	
6	コンティンジェンシー理論：環境変化への適応			事前：環境変化と組織の関係 事後：環境変化と組織の関係				講義 70分・小テスト 20分	
7	事例分析：コーエーテクモホールディングス（コンティンジェンシー理論：環境変化への適応）			事前：事例の企業の概略を理解してくる 事後：				講義 70分・小テスト 20分	
8	資源ベース論（リソース・ベースド・ビュー）			事前： 事後：資源ベース論における組織の役割を理解する				講義 70分・小テスト 20分	
9	コア・コンピタンス経営			事前： 事後：コア・コンピタンスとは何か？				講義 70分・小テスト 20分	
10	事例分析：サンリオ（資源ベース論）			事前：事例の企業の概略を理解してくる 事後：				講義 70分・小テスト 20分	
11	合併・買収と大規模企業グループの形成			事前：企業グループの形成における合併・買収の意味を理解する 事後：企業グループの形成における合併・買収の意味を理解する				講義 70分・小テスト 20分	
12	組織文化の統合と合併・買収			事前：合併・買収における組織文化の問題を理解する 事後：合併・買収における組織文化の問題を理解する				講義 70分・小テスト 20分	
13	ダイナミック・ケイパビリティ・アプローチ			事前：3つの研究分野からなる経営組織の考え方を理解する 事後：3つの研究分野からなる経営組織の考え方を理解する				講義 70分・小テスト 20分	
14	事例分析：京セラ（ダイナミック・ケイパビリティ・アプローチ）			事前：事例の企業の概略を理解してくる 事後：				講義 70分・小テスト 20分	
15	全体のまとめ			事前：全体のまとめ 事後：全体のまとめ				講義 90分	
教 本： 佐久間信夫・小原久美子『現代経営組織要論』創成社					参 考 文 献： 柿崎洋一『企業論』、井上善海・大杉奉代『経営戦略入門』、萩原俊彦『多角化戦略と経営組織』、他				
成 績 評 価 の 方 法、 評 価 基 準： 下 記 の 基 準 を 満 た し て い る の か に つ い て 総 合 的 に 判 断 す る。 小テスト（6点×13回：78%）、定期試験（22%）等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 意 欲 を 持 っ て 参 加 す れ ば、 学 ぶ こ と が 楽 し く な る 講 義 を 目 指 し ま す。									
オ フ ィ ス ア ヱ ー： 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	経営組織論Ⅱ（Management OrganizationⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	清水 健太								
履 修 条 件	前提科目	経営学総論Ⅰを履修していることが望ましい							
	そ の 他								
授業概要： 後期の経営組織論は多角化経営などにより複雑に変化した企業組織の問題を理解することを目的にしている。									
授業目標： 【知識・理解】経営組織論の基本的な理論をわかりやすく説明できる。【思考・判断】経営組織論に関する諸理論・諸学説がどのように生成し展開したかを述べることができる。【関心・意欲】現実の企業経営のケースを経営組織論と結び付けて考えることができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
				◎			○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）				授業形態
1	オリエンテーション：組織論の学び方				事前：講義スケジュールの確認 事後：講義スケジュールの確認				講義 90分
2	組織とは何か？				事前：前期の復習 事後：前期の復習				講義 70分・ 小テスト 20分
3	産業資本主義の発展と企業成長				事前：企業成長と産業資本主義の関係 事後：企業成長と産業資本主義の関係				講義 70分・ 小テスト 20分
4	単一事業の限界と多角化戦略				事前：企業成長と多角化経営の関係 事後：企業成長と多角化経営の関係				講義 70分・ 小テスト 20分
5	多角化戦略と事業ポートフォリオの最適化				事前：事業ポートフォリオに関する理解 事後：事業ポートフォリオに関する理解				講義 70分・ 小テスト 20分
6	事業ポートフォリオの最適化とPPM分析				事前：PPM分析における金のなる木の意味 事後：PPM分析における金のなる木の意味				講義 70分・ 小テスト 20分
7	事例分析1：カプコン （企業成長と多角化戦略）				事前：事例企業の概略を理解してくる 事後：				講義 70分・ 小テスト 20分
8	事例分析2：ソフトバンク （事業ポートフォリオの最適化とPPM分析）				事前：事例企業の概略を理解してくる 事後：				講義 70分・ 小テスト 20分
9	組織における経営者の役割				事前：経営者と経営理念 事後：				講義 70分・ 小テスト 20分
10	持株会社形態の発展と企業グループの形成				事前：持株会社形態の意義を理解する 事後：持株会社形態の意義を理解する				講義 70分・ 小テスト 20分
11	全社戦略と事業戦略				事前：持株会社形態における戦略レベルの違いを理解する 事後：持株会社形態における戦略レベルの違いを理解する				講義 70分・ 小テスト 20分
12	オープン・イノベーションと組織を超えたネットワーク				事前：企業という組織を超えたイノベーションシステムを理解する 事後：企業という組織を超えたイノベーションシステムを理解する				講義 70分・ 小テスト 20分
13	事例分析1：株式会社バンダイナムコホールディングス （持株会社形態と経営戦略）				事前：事例企業の概略を理解してくる 事後：				講義 70分・ 小テスト 20分
14	事例分析2：KDDI （オープン・イノベーションと組織を超えたネットワーク）				事前：事例企業の概略を理解してくる 事後：				講義 70分・ 小テスト 20分
15	全体のまとめ				事前：全体のまとめ 事後：全体のまとめ				講義 90分
教本： 佐久間信夫・小原久美子『現代経営組織要論』創成社					参考文献： 柿崎洋一『企業論』、井上善海・大杉奉代『経営戦略入門』、 萩原俊彦『多角化戦略と経営組織』、他				
成績評価の方法、評価基準： 下記の基準を満たしているのかについて総合的に判断する。 小テスト（6点×13回：78%）、定期試験（22%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 意欲を持って参加すれば、学ぶことが楽しくなる講義を目指します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	経営文化論Ⅰ（Business CultureⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小 柏 喜 久 夫								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 経営と文化の関係づけを通して現実の経営の諸問題について学習していきます。この学習は、企業活動の国際化の進展・深化ならびに社会関係の複雑化とともに重要性をより増しています。そこで、この授業では、経営と文化の関係づけの基礎となる見方・考え方・感じ方・決め方を検討し、授業計画に示した各課題をひとつずつ解説していきます。									
授業目標： 経営を文化の視座からアプローチすることにより、経営の諸問題に対応可能な実践知を身につけていきます。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	経営文化論と松蔭大学：経営文化学部の講義としての経営文化論のあり方を考える					事前：シラバスを通読 事後：シラバスに示されているストーリーを復習		講義 70分質疑応答 20分	
2	経営文化論の背景を三点説明する					事前：参考文献の読み取り 事後：三点の確認		講義 70分質疑応答 20分	
3	経営の見方と文化の見方、またその関係を考える					事前：教本1.の読み取り 事後：特に二者の関係を確認		講義 70分質疑応答 20分	
4	経営と文化の諸問題を列挙し、経営学と人類学の交わりを追う					事前：参考文献の読み取り 事後：経営学と人類学との交流の事例をまとめ、なぜかを考える		講義 70分質疑応答 20分	
5	経営の統合原理としての文化基準を考える					事前：教本1.の読み取り 事後：なぜ経営文化なのか、をまとめる		講義 70分質疑応答 20分	
6	二つのアプローチ：エティックとイーミックによる文化理解の方法を解説する					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献のまとめ		講義 70分質疑応答 20分	
7	日米比較経営論と日本的経営論：二つのアプローチから日本の経営の把握を行う					事前：印刷資料の通読 事後：ノート・印刷資料のまとめ		講義 70分質疑応答 20分	
8	経営文化の変容モデル：四つのモデルを説明する					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献のまとめ		講義 70分質疑応答 20分	
9	多文化組織の経営：ダイバーシティ・マネジメントの諸問題を解説する					事前：印刷資料の通読 事後：ノート・印刷資料のまとめ		講義 70分質疑応答 20分	
10	国際経営組織の心理と文化：C.A.パートレット & S.ゴシャルの仮説を検討する					事前：印刷資料の通読 事後：ノート・印刷資料のまとめ		講義 70分質疑応答 20分	
11	事例学習 1 —— 小糸製作所のコーポレート・ガバナンス：日本の経営者 vs 米国の株主 (1)					事前：印刷資料の通読 事後：ノート・印刷資料のまとめ		講義 70分質疑応答 20分	
12	事例学習 1 —— 小糸製作所のコーポレート・ガバナンス：日本の経営者 vs 米国の株主 (2)					事前：印刷資料の通読 事後：ノート・印刷資料のまとめ		講義 70分質疑応答 20分	
13	事例学習 2 —— ソニーの海外事業買収と経営文化(1)					事前：印刷資料の通読 事後：ノート・印刷資料のまとめ		講義 70分質疑応答 20分	
14	事例学習 2 —— ソニーの海外事業買収と経営文化(2)					事前：印刷資料の通読 事後：ノート・印刷資料のまとめ		講義 70分質疑応答 20分	
15	経営文化学の構想					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献のまとめ		講義 70分質疑応答 20分	
教本： 1. 宮森千嘉子・宮林隆吉『経営戦略としての異文化適応力』日本能率協会マネジメントセンター、¥1,800+税 2. 印刷資料も用います。					参考文献： 1. 村山元英・小柏喜久夫『経営文化論序説』文眞堂、¥3,800+税 2. 東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学』有斐閣、¥2,500+税				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価します。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 欠席しないことが大前提です。粘り強い学習努力を期待しています。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経営文化論Ⅰ（Business CultureⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	清水 健太								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 企業が経営を行うことにより、その組織における長い習慣などから経営文化や企業文化が成立する。こういった経営文化や企業文化が経営行動にどのような影響を与えるのか学習する。									
授業目標： 経営組織における経営文化の成立などについて理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：講義資料の確認		講義 90分	
2	経営文化論の背景を理解する					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
3	経営文化と経営組織の関係					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
4	ドメインと経営文化					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
5	経営理念と経営文化					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
6	事例研究1：松蔭大学					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
7	事例研究2：任天堂					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
8	事例研究3：カプコン					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
9	事例研究4：コロブラ					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
10	経営文化の変容					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
11	経営文化とグローバル化					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
12	ダイバーシティと経営文化(1)					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
13	ダイバーシティと経営文化(2)					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
14	期末試験の説明と前期講義のまとめ					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
15	前期講義のまとめ					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
教本： 特になし					参考文献： 特になし				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（65%）、定期試験（25%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 欠席すると単位の取得は難しくなります。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経営文化論Ⅰ（Business CultureⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	仲 伯 維								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 現代企業を取り巻く環境の変化は加速度を高め、その展開対象たる場の範囲、内容、質等の多岐にわたる高度化が一層進展する状況にある。企業活動は、企業内共有された価値観である経営文化から強い影響を受けるとされている。内容としては、現代企業における実践的活動課題としての国際経営に関する諸検討を主たる構成とし、これまでの経営学に文化を重視した視点を取り込む。これらに鳥瞰的検討と分析を通じて本講義の主たる目的への到達を図る。									
授業目標： 日本、アメリカおよび中国の経営を考察することによって、経営文化の本質が理解できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	イントロダクション：講義の目的と全体像					事前：なし 事後：ノート整理して復習		講義 90 分	
2	経営理念とビジョン：松蔭大学の建学精神「知行合一」から					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 60 分＋ ディスカッション 30 分	
3	株式会社の形成と日本における近代企業の展開と発展					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 90 分	
4	日本経営の特徴					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 90 分	
5	日本経営の諸機能					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 60 分＋ ディスカッション 30 分	
6	中国の経営文化の形成：「秦始皇帝の中央集権」と「経営戦略（孫子兵法）」					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 90 分	
7	日中企業の経営比較：理論とケーススタディ					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 60 分＋ ディスカッション 30 分	
8	アメリカ経営文化とアングロ・サクソン文化の変質					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 90 分	
9	日米企業の経営比較：キャピタリスト・キャピタリズム（株主中心資本主義）とカンパニー・キャピタリズム（会社中心型資本主義）					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 60 分＋ ディスカッション 30 分	
10	エネルギー革命——環境経営文化：CSR 経営の評価：環境・CSR 報告書、SRI（社会的責任投資）の評価基準、ESG					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 90 分	
11	日本式経営海外での展開					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義＋小レポート	
12	経営文化の変容と融合：海外日系企業の現地社員の育成					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 90 分	
13	伝統的な経営文化——事業継承における経営文化の統合					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 90 分	
14	新経営文化の形成——ビッグ・テック：GAFA(米)、BAT(中) Google, Apple, Facebook, Amazon; Baidu, Alibaba, Tencent					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 60 分＋ ディスカッション 30 分	
15	レポート作成指導と全体のまとめ					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 90 分	
教本： 特に指定しない。プリントを配布。					参考文献： 授業中に適宜、参考図書及び参考ウェブサイトを提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 出席重視。授業参加状況等（30%）、小テスト・小レポート（10%）、レポート（60%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 知的好奇心の幅をちょっと広げて見てください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経営文化論Ⅱ（Business Culture Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小 柏 喜 久 夫								
履 修 条 件	前提科目	経営文化論Ⅰ							
	そ の 他	なし							
授業概要： 経営文化論Ⅰの理解を基礎にして、日本の経営文化を表層にとどまることなく深層から理解すべく、これまでのフィールドワークの成果に基づき、日本の経営文化の諸問題の現在と今後の課題について考えていきます。経営理念および思考方式、意思決定方式、人事・教育・開発・養成、財務・経営報告の諸領域に及ぶ日本の経営文化の諸問題を体系的に認識したうえで、事例学習によりその理解を確かめていきます。									
授業目標： 日本の経営文化を理解し、経営を文化との関係において考察する手法を身につけ、時代の変化のなかで経営のパラダイムシフトの方向について考える力をつけていきます。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	日本の経営文化——理解の枠組みを考える				事前：シラバスの通読 事後：シラバスに沿って要点をまとめる			講義70分質疑応答20分	
2	——経営理念および経営思考様式				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献のまとめ			講義70分質疑応答20分	
3	——組織と意思決定方式				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献のまとめ			講義70分質疑応答20分	
4	——人事・能力開発および経営者教育				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献のまとめ			講義70分質疑応答20分	
5	——マーケティング構造と生産方式				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献のまとめ			講義70分質疑応答20分	
6	事例1 日立製作所：「日本的経営」とは何だったのか、を考える(1)——事例の通読				事前：印刷資料の通読 事後：ノート・印刷資料のまとめ			講義70分質疑応答20分	
7	事例1 日立製作所：「日本的経営」とは何だったのか、を考える(2)——事例の解説				事前：印刷資料の通読 事後：ノート・印刷資料のまとめ			講義70分質疑応答20分	
8	事例1 日立製作所：「日本的経営」とは何だったのか、を考える(3)——課題学習				事前：印刷資料の精読 事後：課題学習の自己チェック			講義45分小テスト45分	
9	事例2 トヨタ自動車：日本的生産システムの特徴を理解し、「日本的」の根拠を考える(1)——事例の通読				事前：教本の通読 事後：ノート・教本のまとめ			講義70分質疑応答20分	
10	事例2 トヨタ自動車：日本的生産システムの特徴を理解し、「日本的」の根拠を考える(2)——事例の解説				事前：教本の通読 事後：ノート・教本のまとめ			講義70分質疑応答20分	
11	事例2 トヨタ自動車：日本的生産システムの特徴を理解し、「日本的」の根拠を考える(3)——課題学習				事前：教本の精読 事後：課題学習の自己チェック			講義45分小テスト45分	
12	事例3 双日：「日本的経営」変革の方向と人事管理制度の進化を考える(1)——事例の通読				事前：教本の通読 事後：ノート・教本のまとめ			講義70分質疑応答20分	
13	事例3 双日：「日本的経営」変革の方向と人事管理制度の進化を考える(2)——事例の解説				事前：教本の通読 事後：ノート・教本のまとめ			講義70分質疑応答20分	
14	事例3 双日：「日本的経営」変革の方向と人事管理制度の進化を考える(3)——課題学習				事前：教本の精読 事後：課題学習の自己チェック			講義45分小テスト45分	
15	パラダイム・シフトの方向				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献により要点をまとめる			講義70分質疑応答20分	
教本： 1. 東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学（第3版）』有斐閣、¥2,700＋税 2. 印刷資料も用います。					参考文献： 1. 村山元英・小柏喜久夫『経営文化論序説』文真堂、¥3,800＋税 2. 宮森千嘉子・宮林隆吉『経営戦略としての異文化適応力』日本能率協会マネジメントセンター、¥1,800＋税				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価します。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 欠席しないことが大前提です。積極的に取り組み、自己学習能力を高めるよう期待します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 営 文 化 論 Ⅱ （Business Culture Ⅱ）						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	清 水 健 太								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要： 企業が経営を行うことにより、その組織における長い習慣などから経営文化や企業文化が成立する。こういった経営文化や企業文化が経営行動にどのような影響を与えるのか学習する。									
授 業 目 標： 経営組織における経営文化の成立などについて理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （詳 細 に 記 入）					事 前 ・ 事 後 学 習 （学 習 課 題）		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：講義資料の確認		講義 90分	
2	日本の経営文化を理解する					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
3	トヨタ生産方式					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
4	京セラのアメーバ経営					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
5	日本型経営と経営文化論					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
6	日本型経営とアメリカ型経営					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
7	コーポレートガバナンスと経営文化					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
8	経営文化と企業倫理					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
9	経営文化とコンプライアンス					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
10	グループ経営と経営文化					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
11	グローバル化と経営文化					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
12	事例研究1：トヨタ自動車					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
13	事例研究2：ソニー					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
14	期末試験の説明と前期講義のまとめ					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
15	前期講義のまとめ					事前：講義資料の確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
教 本： 特になし					参 考 文 献： 特になし				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準：到達目標が達成できたかを評価します。 授業参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（65%）、定期試験（25%）等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 欠席すると単位の取得は難しくなります。									
オ フ ィ ス ア ワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 営 文 化 論 Ⅱ （Business Culture Ⅱ）						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	仲 伯 維								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要： 古今東西を問わず、歴史上、転換期は激動の時代であった。地球温暖化による気候変動や、世界を一変させた新型コロナのパンデミックは、社会・経済・環境にまたがる複合的な変革に突きつけている。現在、企業経営は大きな変容のなかにある。特に価値観や社会文化の変化は、企業経営の基盤を根本的変革させる。内容としては、変化しない文化と変化する文化を統合する日本的経営文化の特質について言及する。次に、春学期に引き続き基本テーマは、経営学に文化を重視した視点を取り込む。グローバル化の現在、国によりコア文化が違うことから異国経営文化の理解した上で、ケーススタディを通じて日本企業の諸現象を論理的考える能力を高め、日本の経営文化の特質分析を行う。									
授 業 目 標： 皆さんの一人一人は、この講義で得た知識と技術を、是非社会で実践してください。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授 業 計 画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （ 詳 細 に 記 入 ）					事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題 ）		授 業 形 態	
1	イントロダクション：講義の目的と全体像、成績の評価					事前：なし 事後：ノート整理して復習		講義 90 分	
2	日本の底部文化と上部文化：集団主義と個人主義					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 90 分	
3	JIT（Just in Time）——トヨタ生産方式					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 60 分＋ ディスカッション 30 分	
4	人的資産管理の全体最適：シェアード・サービス					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 90 分	
5	小売・流通業界に向けたグループ化と経営文化融合					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 60 分＋ ディスカッション 30 分	
6	日本の経営文化の特質：コーポレート・ガバナンス 日本の経営者とアメリカの株主					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 90 分	
7	企業、社員の再教育とBSC（バランスド・スコア・カード）					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 90 分	
8	WACC（平均加重資本コスト）の考え方と責任管理システム					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 60 分＋ ディスカッション 30 分	
9	MPC：(Micro Profit Center)：京セラのアメーバ経営とハイアールの「班組」					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 90 分	
10	分権性組織の業績管理					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 90 分	
11	事業部制とカンパニー制					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 60 分＋小レポート	
12	天然資源枯渇問題と関連企業の環境経営					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 90 分	
13	環境経営の評価と環境パフォーマンス：環境と経済と経営・会計との関わり。持続可能な経済社会の実現（SDGs）					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 60 分＋ ディスカッション 30 分	
14	経営文化と企業倫理・コンプライアンスの新展開：ECS2000					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 90 分	
15	レポート作成指導と全体のまとめ					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート整理して復習		講義 90 分	
教 本： 特になし。プリントを配布。					参 考 文 献： 勝山進(2004)『環境会計の理論と実態』中央経済社。 村山元英・小柏喜久夫『経営文化論序説』文真堂。				
成 績 評 価 の 方 法、評価基準： 授業参加状況等（30％）、小テスト（10％）、レポート（60％）で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 知的好奇心の幅をちょっと広げて見てください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経営分析論Ⅰ（Business AnalysisⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高橋 琢也								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 経営分析論Ⅰ・Ⅱでは、企業が作成する財務諸表（連結財務諸表）を用いて、安全性分析、収益性分析、成長性分析等の分析手法について学修する。そして、求められた指標数値からそれが何を表すのか理解できるようにする。経営分析論Ⅰでは、分析対象である財務諸表（連結財務諸表）の特徴からそれを用いる基本的な分析について学修する。									
授業目標： 財務諸表（連結財務諸表）の特徴と基本的な経営分析を理解することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	財務諸表分析の基礎 財務諸表分析の意義や方法等について解説する。					事前：シラバスを読む 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
2	貸借対照表1（資産） 貸借対照表と資産の特徴について解説する。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		講義 70分 問題演習 20分	
3	貸借対照表2（負債） 貸借対照表の負債と純資産について解説する。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		講義 70分 問題演習 20分	
4	損益計算書・包括利益計算書 損益計算書を中心に特徴について解説する。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		講義 70分 問題演習 20分	
5	キャッシュ・フロー計算書 キャッシュ・フロー計算書の特徴について解説する。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		講義 70分 問題演習 20分	
6	問題演習 1 第1回から第4回までの理解度をみる。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
7	安全性分析1（短期の安全性分析） 連結貸借対照表を用いて短期の安全性分析を解説する。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
8	安全性分析2（長期の安全性分析） 連結貸借対照表を用いて長期の安全性分析を解説する。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
9	安全性分析3（安全性と効率性） 安全性分析と効率性分析について解説する。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
10	問題演習 2 第6回から第9回までの理解度をみる。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
11	収益性分析1（実数分析と構成比） 連結損益計算書の実数分析と構成比について解説する。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
12	収益性分析2（ROA） ROAによる収益性分析について解説する。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
13	収益性分析3（ROE） ROEによる収益性分析について解説する。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
14	収益性分析4（ROAとROEの分解） ROE・ROAと分解による要因分析について解説する。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
15	問題演習 3 第11回から第14回までの理解度をみる。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
教本： 新田忠親 他『安心・安全な人生のための決算書分析の方法と論理』（最新版）、ネットスクール出版。									
参考文献： 乙政正太『財務諸表分析』（最新版）、同文館。									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 試験（70%）とレポート（30%）で評価する。									
学生へのアドバイス： 必ず電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 営 分 析 論 Ⅱ （Business Analysis Ⅱ）						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 橋 琢 也								
履 修 条 件	前 提 科 目	経 営 分 析 論 Ⅰ							
	そ の 他	な し							
授業概要： 経営分析論Ⅰ・Ⅱでは、企業が作成する財務諸表（連結財務諸表）を用いて、安全性分析、収益性分析、成長性分析等の分析手法について学修する。そして、求められた指標数値からそれが何を表すのか理解できるようにする。経営分析論Ⅱでは、経営分析論Ⅰの内容を踏まえて、より専門的な分析について学修する。									
授業目標： 経営分析論Ⅱでは、経営分析論Ⅰの内容を踏まえて、応用的な経営分析を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （ 詳 細 に 記 入 ）					事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題 ）		授 業 形 態	
1	経営分析論Ⅰのおさらい 前期までの経営分析について改めて解説、復習する。					事前：シラバスを読む 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
2	成長性分析 1（基本的な成長性分析） 前年度比率、対基準年度比率について解説する。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
3	成長性分析 2（上場企業の成長性） 上場企業の成長性の分析について解説する。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
4	付加価値分析 労働生産性、労働分配率等の分析について解説する。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
5	問題演習 1 第 1 回から第 4 回までの理解度をみる。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
6	キャッシュ・フロー計算書の区分間の関係 キャッシュ・フロー計算書による実数分析について解説する。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
7	キャッシュ・フロー計算書の分析 キャッシュ・フロー計算書を使った分析について解説する。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
8	損益分岐点分析 1（損益分岐点・利益図表） 損益分岐点の分析と営業レバレッジについて解説する。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
9	損益分岐点分析 2（勘定科目法、総費用法、最小 2 乗法） 変動費と固定費に分解した分析について解説する。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
10	問題演習 2 第 6 回から第 9 回までの理解度をみる。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
11	ファンダメンタルズ分析 1（株式価値評価） 株式価値評価、配当割引モデルについて解説する。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
12	ファンダメンタルズ分析 2（DCF による分析と価値） 割引キャッシュ・フロー・モデルについて解説する。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
13	会計利益と価値評価 1（残余利益アプローチ） 残余利益と株式価値評価モデルについて解説する。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
14	会計利益と価値評価 2（将来キャッシュ・フローの予測） 価値関連性分析と株価説明力について解説する。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
15	問題演習 3 第11回から第14回までの理解度をみる。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
教本： 新田忠親 他『安心・安全な人生のための決算書分析の方法と論理』（最新版）、ネットスクール出版。									
参考文献： 乙政正太『財務諸表分析』（最新版）、同文館。									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価します。 試験（70％）とレポート（30％）で評価する。									
学生へのアドバイス： 必ず電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	経営リスクマネジメント論 (The Risk and Crisis Management for Business Administration)							科目分類	専門科目
担 当 教 員	宮林 正恭								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： ビジネスには、リスクはつきものである。また、大きな収益を狙おうとすれば、より高いリスクを許容せざるを得ないのが通常である。リスクは発現し危機となる可能性であるから、ビジネスにおいては、時には危機となることもありうる。この授業では、ビジネスに於ける、リスク・コントロールなどリスクの取り扱いの仕方、リスクのある状況の中での組織の運営、そして、万一、危機が発生したときの経営の仕方であり方ならびにその関連事項について学ぶ。 学生が経営とは何か、どのように経営が行われているか、経営の基礎理論などについて十分知識を有していない場合はそのような経営の基礎にまで遡って授業を行う予定である。その場合は必ずしも下記のスケジュールにこだわらず授業を行うことになる。									
授業目標：①経営におけるリスクと危機の概念を理解する。 ②経営におけるリスクや危機はどのようなものがあり、それらがどのような特性を持っているか理解する。 ③経営におけるリスクや危機をどのようにコントロールするかを理解する。 ④リスクを低減するためのマネジメント手法および危機になった時の行動の仕方について理解する。 ⑤リスクコミュニケーション、クライシスコミュニケーションなどリスクや危機に際しての対外関係のあり方の理解をする。 ⑥その他、経営におけるリスクや危機に関する関連事項を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	オリエンテーション 経営におけるリスクおよび危機の存在				事前：なし 事後：授業に臨む態度の確認 授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分	
2	経営の際のリスクマネジメント 事業継続マネジメント				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分	
3	不況、経営不振、ガバナンスリスク				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分	
4	コーポレートガバナンス（内部統制、監査システム）				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分	
5	人に絡むリスク				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分	
6	市場リスク				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分	
7	投資リスク				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分	
8	投資リスクへの金融手法の活用、供給リスク				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分	
9	技術関連リスク 環境・社会関連リスク				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分	
10	災害リスク、将来迎えるであろう環境変化のリスク				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分	
11	リスクの取り扱いに関する考え方				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分	
12	リスクの取り扱いの方法論				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分	
13	リスクへの備え（危機マニュアル、リスクファイナンス、リスクコミュニケーション、リスク監視）				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分	
14	企業（組織）の危機時の行動のあり方、				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分	
15	全体のまとめ				事前：なし 事後：授業に臨む態度の確認 授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分	
教本： なし	参考文献： リスク危機マネジメントのすすめ（宮林正恭、丸善出版）								
成績評価の方法、評価基準： 中間レポート、期末レポートを含む授業への参加度合いで60(%)、期末試験40(%)等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： ビジネスの世界は常に動いている。それを題材にするので、社会の経済ニュースに常に関心を持って新聞、テレビ、SNS、雑誌などにより、情報を入手し、理解するように努めてほしい。									
オフィスアワー： 別途掲示される予定になっているのでその時間帯に来てください。可能な限り、電話またはショートメールで事前に連絡をくれるとありがたい。 連絡先：080-4732-3423 メールドレス：mmiyabas@shoin-u.ac.jp、研究室 3810室。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	景観論Ⅰ（Landscape StudiesⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	飯島 祥二								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 景観研究の学際性を検討し、観光学領域から景観学を概観する。そして、観光学における景観現象の「理解と解釈」を理論と実践を通し具体的に説明する。観光領域に関わる「景観環境」はアトラクション認知に深く関わる重要な要素であり、観光学において体系的に説明する。そして、景観整備等への応用と共に、観光学の枠組みにおける景観環境の役割を考察する。講義は「ディスカッション」、「ディベート」を通し実施する。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。									
授業目標： ①景観の構造について理解する。 ②観光学の枠組みにおける景観の意味を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義 90分	
2	景観概念とそのタームの歴史的理解 （景観という語の誕生とその変遷）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、 小レポート 10分	
3	景観学領域の学際性 （地理学、土木・建築学等の研究領域からのアプローチ）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、 小レポート 10分	
4	感性工学から検討した景観（1） （五感における視覚の優位性について）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、 小レポート 10分	
5	感性工学から検討した景観（2） （サウンドスケープ等、その他の感覚における環境認識と景観環境）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 60分、 ディスカッション、ディベート 20分	
6	観光学からのアプローチの特性 （観光対象を提示するという意味での景観環境）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、 小レポート 10分	
7	観光資源学からの景観（1） （地理的領域からの景観環境）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、 小レポート 10分	
8	観光資源学からの景観（2） （観光資源の分類と景観環境）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、 小レポート 10分	
9	観光資源学からの景観（3） （観光資源と観光対象(attraction)の類似と相違を巡って）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、 小レポート 10分	
10	「観光者がまなごしを向ける対象」としての景観 （眼差しと景観環境）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、 小レポート 10分	
11	「観光者がまなごしを向ける対象」としての景観 （ツーリストの attraction の認知と景観）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 60分、 ディスカッション、ディベート 20分	
12	景観学各論（1） （ヨーロッパの景観観）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、 小レポート 10分	
13	景観学各論（2） （中国の景観観）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、 小レポート 10分	
14	景観学各論（3） （わが国の景観観）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、 小レポート 10分	
15	纏め					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		前回の確認 10分、講義 80分	
教本： 授業ごとにプリントを配布する。					参考文献： 適宜指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 平常点（30％）、小テスト・レポート等（30％）、定期試験（40％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 観光学の立場から景観を分かりやすく説明します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習	
授業科目(英文)	景観論Ⅱ（Landscape StudiesⅡ）						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	飯島 祥二									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	そ の 他	なし								
授業概要： 景観学の学際性を検討し、景観現象に認知に関わる領域の理解を深める。当該講義は観光系の講義であるため、観光学における景観領域の構造的理解を促す。本講義は、森羅万象的な景観要素のうち、「景観色彩」に着眼し、「景観色彩の意味」、「景観色彩の計測・分析法」、「景観色彩の観光学への応用」などを通し、観光学的景観の意味と役割を学修する。また、本講義は、「色彩学」の基礎的内容を含み、色彩学の学習への糸口を提示する。当該講義は「実習」と「フィールドワーク」の時間を多く設定し、実際の調査手法を実地に学修する。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。										
授業目標： ①景観の構造について理解する。 ②観光学の枠組みでの景観現象を理解する。 ③景観色彩の計測法や分析法を理解する。 ④色彩学の基礎を学修してその他の領域への応用を考える。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義 90分		
2	景観環境と景観形成 （景観の分類、関連法規、景観計画の実際）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、 小レポート 10分		
3	景観環境の各構成要素と「景観色彩環境」の観光学における意味（建築・土木学、観光学、色彩学の学際性）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、 小レポート 10分		
4	景観学と色彩学 （景観色彩の研究史とその現在）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、 小レポート 10分		
5	景観色彩という環境 （身近な環境としての景観環境・景観色彩環境）(1)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、 小レポート 10分		
6	景観色彩の認知 (1) （景観色彩の認知に関わる人間・環境系）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 30分、 実習 50分		
7	景観色彩の認知 (2) （色彩認知から見た景観色彩）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、 小レポート 10分		
8	景観色彩の計測法 (1) （表色系の種類と内容）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 30分、 実習 50分		
9	景観色彩の計測法 (2) （マンセル表色系）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 30分、 実習 50分		
10	景観色彩の計測実習 (1) （室内での計測）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 30分、 フィールドワーク 50分		
11	景観色彩の計測実習 (2) （屋外（キャンパス）での計測）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 30分、 フィールドワーク 50分		
12	景観色彩の地域的差異 (1) （わが国に各都市における差異とその解釈）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、 小レポート 10分		
13	景観色彩の地域的差異 (2)（わが国とイギリスとの国際比較：その環境学的・歴史文化的意味）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、 小レポート 10分		
14	ツーリズムにおけるアトラクションとしての景観色彩要素（色彩の地域差とauthenticity との関係性）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認 10分、講義 70分、 小レポート 10分		
15	纏め					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		前回の確認 10分、講義 80分		
教本： 授業ごとにプリントを配布する。										参考文献： 適宜指示する。
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30％）、小テスト・レポート等（30％）、定期試験（40％）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 景観色彩を分かりやすく説明します。また、色彩学の基礎も説明し、色彩学への道筋を教示する。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	経済学 (Economics)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	宮崎 隆								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 私たちは誰もが日々経済活動をしています。ATMで現金を引き落としてモノを買い、消費すること。会社に行って仕事をする。CO ₂ の減少に貢献するために再生可能エネルギーによる電力を使ったり、その電力でスマホに充電したりすること。これらはすべて経済行為です。経済学はこうした経済行為を一消費者や生産者、あるいは企業・産業、国単位、世界、環境、福祉、エネルギーなどの観点で表現したものです。本講義では主に日常にある経済問題を取り扱います。									
授業目標： 先ず、専門用語と数字になれて下さい。次に経済の関連性についてイメージを作ってください。たとえば、所得と税金、消費と価格、環境保全と電気自動車、為替レートと輸入・輸出などです。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス：授業の進め方と取り扱う問題の範囲の説明。基本的な経済用語と数値の解説。情報収集の方法等。					事前：経済問題をメモ 事後：経済用語表を作成		講義	
2	世界の中の日本：日本はどのように成長・発展してきたか。世界の中で日本はどのようなポジションにあるかを解説。					事前：資料を読む 事後：講義内容の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
3	日本経済のしくみ その(1)：企業・産業 わが国にはどのような企業と産業があり、世界的にみて特徴はあるのか。					事前：資料を読む 事後：講義内容の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
4	日本経済のしくみ その(2)：政治と行政、経済 行政省庁と民間経済の関係。国と地方の関係性。経済政策の基礎を解説。					事前：資料を読む 事後：講義内容の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
5	日本経済のしくみ その(3)：人口問題 一極集中と過疎化、少子高齢化社会の実態、コロナ禍で地方移住は進むか。					事前：資料を読む 事後：講義内容の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
6	日本経済のしくみ その(4)：私たちの暮らしと税金 いわゆる「日本の借金問題」について。税金の基礎。					事前：資料を読む 事後：講義内容の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
7	日本経済のしくみ その(5)：デジタル経済論 アナログとデジタル、ネットワーク、デジタル産業について。					事前：資料を読む 事後：講義内容の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
8	エネルギー経済：電力 直流と交流、発電と送電、再生可能エネルギーとは。今後の電力政策。近未来の電力システム等					事前：資料を読む 事後：講義内容の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
9	環境経済について：IPCCと地球温暖化問題 IPCC「報告書」の概要。地球温暖化の実態、環境政策の概要。					事前：資料を読む 事後：講義内容の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
10	交通経済学：電気自動車 なぜ電気自動車か。電気自動車社会になると私たちの暮らしはどう変わるのか。					事前：資料を読む 事後：講義内容の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
11	商業経済：流通と物流、マーケティング 私たちの日常の経済生活を支える裏側を見る。成功した戦略と失敗した戦略。					事前：資料を読む 事後：講義内容の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
12	貨幣的経済学：銀行システムと為替レート 日本銀行と民間銀行。金融政策の基礎。為替レートはなぜ変動するのか。					事前：資料を読む 事後：講義内容の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
13	福祉と経済：幸せを考える 厚生経済学の歴史。介護問題の基礎。経済学は人を幸せにするか。					事前：資料を読む 事後：講義内容の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
14	医療の経済学 1：医療政策 わが国の行政と医療。新型コロナ禍にみる政策の展開。					事前：資料を読む 事後：講義内容の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
15	医療の経済学 2：医療資源（人的資源、医療施設・医療機器・医薬品など）と今後の動向。					事前：資料を読む 事後：講義内容の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
教本： なし。（適宜、資料を配布します。）					参考文献： なし。（関連情報源を随時提示します。）				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。なお、指定のレポートの他に追加の自主レポートの提出を認め、成績に加算します。									
学生へのアドバイス： 経済学の対象は多種多様ですが、皆さんが関係する問題、関心をもっている問題を取り上げます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	経済原論Ⅰ (Economics Theory Ⅰ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	宮崎 隆								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 経済学は社会科学の一分野ですが、歴史も長く、理論水準も高い学問です。その範囲も私たちの暮らしから国と国との取引までほとんどすべての領域が経済学のツールで分析されます。本講座はマクロ（巨視的）経済と呼ばれる国単位の経済を論じます。									
授業目標： メディアから出される経済情報を理解し、自ら考えられるようになって下さい。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス：経済学の範囲と方法 マクロ経済学とは何か。基本用語と数値の概説。					事前：経済用語表作成 事後：講義内容の要約		講義	
2	経済指標：GNP、GDP 他 代表的な経済指標とマクロと社会会計の説明。 わが国の経済と外国経済の比較。					事前：先進国のGDP 調査 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
3	経済学説史：アダム・スミスからフリードマンまで ケインズ主義や新自由主義とは何か。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
4	消費理論：ケインズの消費関数他 なぜ私たちは消費するのか。消費に与える影響因は何か。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
5	投資理論：資本の限界効率 なぜ企業は投資するのか。投資に影響を及ぼす要素は何か。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
6	乗数理論：消費と投資の相乗効果、国際貿易と政府支出がないと仮定した場合の国民所得の決定まで。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
7	政府の財・サービス購入：マクロ経済における政府の役割 政府支出の内訳。大きな政府と小さな政府。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
8	経済成長・循環論：なぜ景気は変動するのか 成長理論と循環理論の基礎。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
9	分配論：所得格差の問題 ローレンツ曲線とジニ係数					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
10	経済政策論 (1)：財政政策 政府の役割。ケインジアンとマネタリスト論争。失業対策					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
11	経済政策論 (2)：金融政策 中央銀行の役割。主な金融政策。利子論。合理的予想理論を導入したマクロ経済学。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
12	オープン・マクロ経済学：ケインズ理論からマンデル・フレミング理論へ 国際貿易を考慮した場合の経済政策の帰結。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
13	国際金融論：為替レート ブレトンウッズ体制から変動相場制まで。為替レートの決定。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
14	環境経済学：エネルギー問題、限られた資源と経済政策、地球温暖化に対する各国の対応他					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
15	経済学について考える：経済学者と経済理論 ノーベル経済学賞。経済学への批判。経済学の有効性。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
教本： 石橋春男『対話で学ぶ経済学「超」入門』税務経理協会 2020。 （適宜、資料を配布します。）					参考文献： なし。（関連情報源を随時提示します。）				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。なお、指定のレポートの他に追加の自主レポートの提出を認め、成績に加算します。									
学生へのアドバイス： 本講座の理解を深め、経済(学)的に社会をとらえるためにメディア情報にふれるようにしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	経済原論Ⅱ (Economics Theory Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	宮崎 隆								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本講座はミクロ(微視的)経済学の領域を講義します。「ミクロ」とは経済学の場合個別経済単位、すなわち消費者や企業、さらに同種の生産物を生産・販売する企業群(産業)の経済行動を分析します。したがって、消費数量や価格、所得、売上、利益などを説明することになりますが、ミクロ経済学の応用・拡張分野として、情報や教育の経済学も取り扱います。									
授業目標： (1) 経済学的思考ができるようになること。 (2) 身近な経済問題が解けるようになること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス：分析ツールとしてのミクロ経済学 基本用語の解説およびミクロ経済学の有効性を概説。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義	
2	需要と供給：経済学の基本ツール、需給均衡、曲線の傾き、弾力性、部分均衡理論と一般均衡理論。需要理論のトピックス					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
3	消費理論 (1)：効用理論 経済学者は消費による満足を計測できると考えていたが、やがて無差別曲線分析に発展した。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
4	消費理論 (2)：価格の理論 価格は消費にどう影響するか。予算戦と消費者均衡、需要曲線の導出、代替効果と所得効果。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
5	生産理論 (1)：生産関数 生産の3要素とは。効率的な生産量は存在するか。生産の規模と効率性。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
6	生産理論 (2)：費用の理論 生産に要する費用の分類と定義。生産・利潤の最大化。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
7	生産理論 (3)：長期費用曲線 経済学における短期と長期、超長期の定義と企業の成長。費用逓減産業と費用逓増産業等					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
8	市場と競争の理論 (1)：完全競争市場と不完全競争市場 市場の形態。競争市場と市場支配力。独占の弊害について解説。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
9	市場と競争の理論 (2)：コンテストابل市場の理論、埋没費用（サンク・コスト）と市場参入					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
10	厚生経済学：パレート最適 完全競争均衡。アダム・スミスの「(神の) 見える手」					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
11	情報の経済学 (1)：情報の非対称性（レモンの経済学） 情報の欠落による消費財購入の失敗（市場の失敗）。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
12	情報の経済学 (2)：シグナリング理論、契約の理論 モラルハザードと逆選抜。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
13	教育の経済学：G. ベッカーの「人的資本」の考え方 教育の経済的效果、教育投資論について概説。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
14	ゲームの理論：「ゲームの理論と経済行動」囚人のジレンマ。ナッシュ均衡。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
15	新しいミクロ経済学のトピックスについて					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
教本： なし。(適宜、資料を配布します。)					参考文献： なし。(関連情報源を随時提示します。)				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。なお、指定のレポートの他に追加の自主レポートの提出を認め、成績に加算します。									
学生へのアドバイス： 本講座の理解を深め、経済(学)的に社会をとらえるためにメディア情報にふれるようにしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義	
授業科目(英文)	経済法Ⅰ（Economic LawⅠ）						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	藤原 俊雄									
履 修 条 件	前提科目	ビジネス法Ⅰ・Ⅱ、企業組織法Ⅰ・Ⅱ								
	そ の 他	なし								
授業概要： 本講義では、経済活動を規律する経済法の核をなし基本法である独占禁止法（独禁法）の理解を深めることを主眼とする。資本主義経済原理の下で営まれる企業活動において、一定の競争原理が働くことは消費者適正価格での取引実現のためには望ましい。その一方で、価格操作などによる不利益を被ることもある。そのような一連の取引を適正に行うための法規則を本講義では学ぶ。										
授業目標： 1. 独占禁止法に関する基本的事項について、自らのことばで説明することができる。 2. 現実の経済活動において生じている経済法に関する諸問題の概要と課題を説明することができる。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	経済法を学ぶにあたって（導入） ・市場経済における競争原理の実態を知る。					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 90分		
2	競争の目的 ・競争政策の目的と効能について理解する。					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分		
3	独禁法の規制内容 ・不公正な取引の規制方法を理解する。					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分		
4	合併・株式保有等の規制（1） ・市場効果要件について理解する。					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分		
5	合併・株式保有等の規制（2） ・市場効果の判定基準について理解する。					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分		
6	不当な取引制限（1） ・カルテルの形態と規制について討議する。					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分		
7	不当な取引制限（2） ・具体的な行為者とその制限内容について理解する。					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分		
8	不当な取引制限（3） ・違反行為に対する制裁手段について理解する。					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分		
9	私的独占（1） ・どのような行為が私的独占となるのか理解する。					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分		
10	私的独占（2） ・支配と排除の実例から問題点を探る。					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分		
11	私的独占（3） ・違反行為に対する制裁方法について理解する。					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分		
12	不公正な取引方法（1） ・不公正な取引方法の規制の仕組みを知る。					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分		
13	不公正な取引方法（2） ・公正競争阻害の3つのタイプについて整理し討議する。					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分		
14	不公正な取引方法（3） ・共同取引拒絶の実態と課題を討議する。					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分		
15	本講義の総括とともに、浮かび上がってきた経済法上の課題について事例を基に検討する。					事前：これまでのノート整理 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分		
教本： 教科書は用いない。										参考文献： 川濱昇、瀬領真悟、泉水文雄、和久井理子『ベーシック経済法 第5版』（有斐閣、2020）。¥2,100＋税 ※学習用六法はできる限り携帯すること。
成績評価の方法、評価基準： 平常点（10％）、小テスト・レポート等（10％）、期末試験（80％）で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 経済法の全体像を理解するためには、1,2年次に学んできた経済学、法学、ビジネス関連科目の基礎知識が不可欠。これまでに学んできた知識を総動員して取り組まなければならないことを前提に受講すること。この授業は相当難しい。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	経済法Ⅱ (Economic Law Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	藤原 俊雄								
履 修 条 件	前提科目								
	そ の 他	経済法Ⅰを履修していないと、理解が困難かもしれない。							
授業概要： 本講義では、経済法Ⅰで習得した知識を基に、経済活動を規律する経済法の核をなす基本法である独占禁止法（独禁法）の理解を深めることを主眼とする。資本主義経済原理の下で営まれる企業活動における一連の取引を適正に行うための規則の概要と課題について、判例や事例を基に討論を重ねながら理解を深める予定。									
授業目標： 1. 独占禁止法に関する基本的事項について、自らのことばで説明することができる。 2. 現実の経済活動において生じている経済法に関する諸問題の概要と課題を説明することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	経済法Ⅱを学ぶにあたって（導入） ・経済法Ⅰで習得した内容を振り返る。					事前：経済法Ⅰの内容復習 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
2	不当対価 ・不当販売及び不当高価購入について検討する。					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
3	不当な顧客誘引・取引の強制／抱き合わせ販売等 ・不当な利益による顧客誘引の現状と課題を検討する。					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
4	事業活動の不当拘束 (1) ・排他条件付取引について理解する。					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
5	事業活動の不当拘束 (2) ・再販売価格の拘束について理解する。					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
6	事業活動の不当拘束 (3) ・拘束条件付取引について理解する。					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
7	取引上の地位の不当利用 ・優越的地位の乱用の態様について理解する。					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
8	競争者の事業活動の不当妨害 ・競争者に対する取引妨害及び内部干渉について理解する。					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
9	事業者団体制制の目的と意義 ・事業者団体の概念的特徴について理解する。					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
10	事業者団体の禁止行為 ・取引行為における禁止事項について整理する。					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
11	事業者団体による自主規制 ・標準化、環境保護及び安全確保などについて検討する。					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
12	国際取引 (1) ・競争政策の国際協力の実情と課題について理解する。					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
13	国際取引 (2) ・国際カルテル、国際合併などについて理解する。					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
14	独禁法のドメイン ・政府規制分野・知的財産など関連法について理解する。					事前：レジュメの精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
15	本講義の総括とともに、浮かび上がってきた経済法上の課題について事例を基に検討する。					事前：これまでのノート整理 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
教本： 教科書は用いない。			参考文献： 川濱昇、瀬領真悟、泉水文雄、和久井理子『ベーシック経済法 第5版』（有斐閣、2020）。¥2,100＋税 ※学習用六法はできる限り携帯すること。						
成績評価の方法、評価基準： 平常点（10％）、小テスト・レポート等（10％）、期末試験（80％）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 経済法の全体像を理解するためには、1、2年次に学んできた経済学、法学、ビジネス関連科目の基礎知識が不可欠です。これまでに学んできた知識を総動員して取り組まなければならないことを前提に受講すること。相当に難しい内容である。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	経済リスク (Economic Risks)							科目分類	専門科目
担 当 教 員	宮林 正恭								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 経済活動は、リスクと背中合わせです。マクロ経済においてもミクロ経済においても、過去や現在を分析するのは、現状は今後どのように変わるか、将来はどのようなようになるか、あるいは、現在の状況がどのように自分たちの身に降りかかってくるかを考えるためであることがほとんどです。そしてその潜在的な欲求は、何か悪いことが起こる、悪い方向に動くこと、あるいはなにかにも良いチャンスはないかを知りそれに対して対策を取りたい（つまりリスクを知りその対策を取りたい）ということにあります。このような観点から経済現象とリスクとの関係について一緒に考えたいと思います。したがってディスカッションによる授業が中心になります。 学生が経済活動とは何か、経済の基礎理論などについて十分知識を有していない場合はそのような経済学の基礎にまで遡って授業を行うことにならざるを得ません。その場合は必ずしも下記のスケジュールにこだわらず授業を行うことにします。									
授業目標：(1)経済におけるリスクと危機の概念を理解する。 (2)経済におけるリスクや危機はどのようなものがあり、それらがどのように分析するか、どのようにコントロールするかを理解する。 (3)経済危機およびその他経済のリスクおよび危機に関連する事項について学ぶ									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	オリエンテーション 経済におけるリスクおよび危機の存在				事前：なし 事後：授業に臨む態度の確認 授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分	
2	経済リスクマネジメント基本論				事前：前の授業で示された学習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分	
3	日本経済と経済不況				事前：前の授業で示された学習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分	
4	日本経済に存在するリスク				事前：前の授業で示された学習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分	
5	世界経済に存在するリスク				事前：前の授業で示された学習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分	
6	米中覇権争いに伴う経済リスク				事前：前の授業で示された学習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分	
7	先進国における経済リスクと国際政治				事前：前の授業で示された学習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分	
8	開発途上国の経済リスク				事前：前の授業で示された学習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分	
9	SDGs 及び環境問題と経済リスク				事前：前の授業で示された学習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分	
10	IOT 及 AI と経済リスク				事前：前の授業で示された学習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分	
11	人口構成の高齢化と経済リスク				事前：前の授業で示された学習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分	
12	地震等災害に伴う経済リスク				事前：前の授業で示された学習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分	
13	イノベーションと経済リスク				事前：前の授業で示された学習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分	
14	産業構造の変化および未来社会と経済リスク				事前：前の授業で示された学習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分	
15	全体のまとめ				事前：前の授業で示された学習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディスカッション 30分	
教本： なし	参考文献： リスク危機マネジメントのすすめ（宮林正恭、丸善出版）								
成績評価の方法、評価基準： 中間レポート、期末レポートを含む授業への参加度合いで60(%)、期末試験40(%)等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 経済の世界は常に動いている。また政治や社会活動とも密接に絡んでいる。それを題材にするので、経済ニュースや政治・社会ニュースに常に関心を持って新聞、テレビ、SNS、雑誌などにより、情報を入手し、理解するように努めてほしい。そしてディスカッションに置いて問題提起を行うとともに意見を積極的に述べてほしい。									
オフィスアワー： 別途掲示される予定になっているのでその時間帯に来てください。可能な限り、電話またはショートメールで事前に連絡をくれるとありがたい。 連絡先：080-4732-3423 メールドレス：mmiyabas@shoin-u.ac.jp、研究室 3810室。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	刑事法Ⅰ（Criminal Law and Criminal ProcedureⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	麻妻 みちる								
履 修 条 件	前提科目	履修条件は特に設けませんが、刑事事件に関心をもち、真摯に取り組む受講生の履修を希望します。							
	そ の 他	法律を初めて学ぶ方を対象に、わかりやすく「法学概論」を含め基本から理解できるよう説明しますのでご安心ください。							
授業概要：刑事法とは、犯罪と刑罰にかかわる法分野の総称を言います。 本講座は、「法学概論」に触れながら刑法や刑事訴訟法を学ぶ講座です。 最初の2、3回で法学の基礎を確認するとともに、『犯罪白書』を利用して日本の犯罪と刑罰の現状を知りましょう。 その後「刑事法Ⅰ」では主に、刑法の総則、犯罪の成立について学習します。犯罪とは何か、どのような理由で国家が個人に刑罰を科することができるのか考えてみましょう。具体的な問題を掲げて、刑法総論の概要を判りやすく解説します。 初めて聞く言葉も多いでしょうが、難解な概念や論点については、裁判例や事例問題を一緒に検討することで抽象的な議論を具体的に頭に描けるように努めます。									
授業目標：法律を初めて学ぶ方を対象に、「法学概論」やどのような要件(条件)が整うと犯罪が成立すると判断できるのか、「刑法総論」の基本知識を定着させ、体系的に理解することを目的とします。 たとえば、たとえ人を殺す行為をしても殺人罪とならない場合があります。刑法総論は、抽象的な学問で初学者には難解と言われますが、具体的な事例も織り交ぜて、犯罪とは何か、一見犯罪でありそうなのに犯罪とならない行為がどうしてありうるのか、ゆっくり楽しんで勉強しましょう。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 「正しい」エスカレーターの乗り方を説明してください、幹事として集めた飲み会の会費を使い込んだら犯罪か、社会生活における法と法律について考える					事前：身の周りの法律 事後：法と法律の違い		双方向対話型講義 講義 90分	
2	「六法」とは法律が6種類しかないことなのか、わが国の法体系、国家の法規範における刑事法の位置づけ					事前：六法とは 事後：公法と私法の違い		双方向対話型講義 講義 90分	
3	有罪率99.9%といわれる背後にはどういう意味があるのか、犯罪白書から犯罪と刑罰の現状を知る					事前：99.9%の意味とは 事後：犯罪の現状		双方向対話型講義 講義 90分	
4	日本では、妻や夫がいる人と不倫をしても犯罪ではなく、賭博や堕胎が犯罪であるのはなぜか、刑法の意義・機能					事前：姦通罪とは 事後：法益保護		双方向対話型講義 講義 50分 ディスカッション 40分	
5	患者の秘密を漏らしても、医者は処罰され、看護師は処罰されないのはなぜか、罪刑法定主義、法の適用と解釈					事前：秘密漏示罪とは 事後：罪刑法定主義が憲法の要請であること		双方向対話型講義 講義 90分	
6	たとえ人を殺したとしても殺人罪とは限らず、傷害致死罪、過失致死罪の可能性のあるのはなぜか、実行行為、行為論、構成要件該当性					事前：犯罪が成立するには何が必要か 事後：構成要件該当性		双方向対話型講義 講義 90分	
7	「何もしないこと」で殺人罪や放火罪や詐欺罪に問われることはあるのか、不作為犯					事前：実行行為とは 事後：不真正不作為犯		双方向対話型講義 講義 90分	
8	人に暴行を加え軽いけがをさせた。治療のため救急搬送されたがその途中交通事故で死亡してしまった場合、傷害致死罪に問われるのか、因果関係の判断の仕方					事前：因果関係とは 事後：我が国の裁判所の立場		双方向対話型講義 講義 90分	
9	「なんかやばそうなもの」という認識で持っていたただけで覚せい剤所持罪は成立するのか、故意					事前：故意と過失の違いとは 事後：犯罪成立要件の主観面		双方向対話型講義 講義 90分	
10	他人のポケットからティッシュ13枚をスリ取ることは窃盗罪という犯罪になるのか、違法性の意義と本質					事前：安楽死は犯罪か 事後：違法性の本質		双方向対話型講義 講義 50分 ディスカッション 40分	
11	日ごろから敵対する関係にあるグループが攻撃を仕掛けてくる準備をしているという情報があったので、やられる前にやってやろうと攻撃を加える行為は正当防衛になるか					事前：正当防衛とは 事後：違法性阻却事由		双方向対話型講義 講義 90分	
12	泥酔状態で人を殴っても犯罪とならないのか、責任の本質、責任能力、少年による犯罪					事前：子どもの犯罪行為は許すべきか 事後：責任主義		双方向対話型講義 講義 50分 ディスカッション 40分	
13	砂糖を飲ませて人を殺そうとした場合処罰されるのか、空のピストルで人を撃った場合はどうか、未遂犯					事前：不能犯とは 事後：未遂と既遂の区別		双方向対話型講義 講義 90分	
14	みんなで強盗をしようとして共謀して、Aは強盗を実行し、Bはリーダー格として電話で指示するだけ、Cは見張りをした。それぞれ何罪か、共犯の意義、共犯の種類					事前：共同で犯罪を行うことはなぜ悪いのか 事後：共同正犯		双方向対話型講義 講義 90分	
15	犯罪と刑罰、前期のまとめ					事前：刑法はなぜあるのか 事後：刑法の目的		双方向対話型講義 講義 90分	
教本： 教科書は特に指定しません。毎回レジュメを配布しますが、法律は本を読んで勉強するものですので、右記を参考に予習をして講義に臨んでください。						参考文献： 井田良「基礎から学ぶ刑事法（第6版）」有斐閣 ￥1,980			
成績評価の方法、評価基準：平常点（30％）、レポート（30％）、試験の成績（40％）で総合的に判断します。 ①平常点は、毎回の授業に取り組む姿勢（発言や議論を含む）などから判断いたします。 ②第2回授業でレポート課題を提示しますので、第10回授業で提出してください。 ③定期試験については、授業中に配布したレジュメと資料の持ち込みが可能です。									
学生へのアドバイス：ニュースなどの報道はもちろん、テレビの「警察24時」などの番組、あるいは刑事もの、法廷もののドラマでも結構です。世の中で起っている犯罪や事件、事故、あるいは裁判などに興味、関心をもってください。 また、お友達同士で誘い合って裁判の傍聴に行くこともお勧めします。									
オフィスアワー： 授業開始前30分程度非常勤講師室で待機。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	刑事法Ⅱ（Criminal Law and Criminal Procedure Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	麻妻 みちる								
履 修 条 件	前提科目	「刑事法Ⅰ」を履修済み、もしくは同時履修していることが望ましい。 刑事事件に関心をもち、真摯に取り組む受講生の履修を希望します。							
	そ の 他	法律を初めて学ぶ方を対象に、わかりやすく刑事法の基本から理解できるよう説明しますのでご安心ください。							
授業概要：刑事法とは、犯罪と刑罰にかかわる法分野の総称を言います。 本講座は、具体的な事件や裁判例に焦点をあてて刑法や刑事訴訟法を学ぶ講座です。 「刑事法Ⅱ」では、具体的な問題を解決する刑法各論や手続法である刑事訴訟法、立法論、政策論である刑事政策などを含めた広い意味での刑事法学を概観し、犯罪と刑罰に関する刑事手続きの流れや具体的事例について学びます。 犯罪が我々の社会に対する大変な脅威であることは言うまでもありませんが、同時に、国家による捜査活動や刑罰を科すための刑事手続が、日本国憲法が保障する個人の基本権を侵害することのないよう十分配慮する必要があります。 本講座の前半では、社会の脅威となる犯罪の具体的な類型を学習し、後半では、国家による適正な刑罰権の行使と人権保障のバランスをとることの難しさ、公正・公平な刑事手続とはいかなるものかについて一緒に勉強するため、主に捜査に重点を置いて進めて行きます。									
授業目標：個別の犯罪類型を定めた刑罰法規の解釈を通して、犯罪の具体的な内容、犯罪類型相互の関係性など「刑法各論」の基礎理論を修得するとともに、社会の脅威となる重大犯罪の本質を理解することを目標とします。加えて、刑事手続の全体構造や手続上の原理・原則を学習しながら、国家が刑罰を科すことは社会においてどのような意味をなすのかについて理解し、ひいては法的ものの考え方、いわゆるリーガルマインドの涵養を目指します。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイドランス ヒトはいつから人になるのか、人の始期、刑法における人とは、民事と刑事の違い、これから学習する範囲の認識					事前：犯罪とは 事後：法の分類		双方向対話型講義 講義 90分	
2	会社や大学は犯罪を犯すことができるのか、犯罪成立要件、犯罪主体、過失犯とは					事前：法人の犯罪能力 事後：業務上過失致死傷罪		双方向対話型講義 講義 90分	
3	被害者の同意があると、同じ殺人という行為でも処罰が軽くなるのはなぜか、自殺関与・同意殺人罪					事前：自殺が適法とは言えないわけ 事後：尊属殺人とは		双方向対話型講義 講義 50分 ディスカッション 40分	
4	朝起きると自宅の庭に知らない人が倒れていたが、時間がないのでそのままにした行為は遺棄罪となるか、保護責任者遺棄罪					事前：遺棄の罪とは 事後：保護責任者		双方向対話型講義 講義 90分	
5	ファストフード店のコンセントから無断で携帯電話の充電をする行為は犯罪か、なぜ情報を盗んでも窃盗罪にならないのか、窃盗罪、財物の意義、不法領得の意思					事前：無断で人の自転車を乗り回したら窃盗か 事後：壊すつもりで人の自転車を盗んだら窃盗か		双方向対話型講義 講義 90分	
6	窃盗犯人が盗んだ物を取り返されることを防ぐために被害者をナイフで脅した場合強盗罪か、事後強盗罪					事前：事後強盗罪とは 事後：強盗の本質		双方向対話型講義 講義 90分	
7	家人を皆殺しにしたのちその住居を放火しても一番刑の重い放火罪の適用がないのはなぜか、現住建造物等放火罪					事前：放火罪の類型 事後：放火罪の本質		双方向対話型講義 講義 90分	
8	大学入学試験の際に替え玉受験を行う行為はなぜ文書偽造罪になるのか、私文書偽造罪、公文書偽造罪、その他偽造の罪					事前：文書偽造とは、名義人を偽ることか、内容を偽ることか 事後：責任追及ができること		双方向対話型講義 講義 90分	
9	大岡裁きの「子争い」「三方一両損」は誤りか、法律上の3つの責任追及、刑事事件とは、裁判員制度					事前：「大岡裁き」は間違えか 事後：3つの法的責任追及の方法		双方向対話型講義 講義 50分 ディスカッション 40分	
10	「警察にお世話になる」ときとはどういうときか、法規範における刑事法の位置づけ、刑事手続に関与する者の役割(裁判官、検察官、弁護士、警察官、被疑者・被告人、被害者、裁判員)、刑事手続の流れ					事前：民事と刑事の違い 事後：刑事手続に関与する者の理解		双方向対話型講義 講義 90分	
11	駅前を歩いていると警察官に呼び止められた。質問に答える、バッグの中を見せる、交番へ移動するなどどこまで協力するべきなのか、強制採尿・採血、写真撮影など、憲法と刑事訴訟法					事前：捜査は任意か強制か 事後：市民として警察に協力すること		双方向対話型講義 講義 50分 ディスカッション 40分	
12	飲酒運転の疑いのある交通死亡事故で、現場で呼気検査を実施しようとしたが運転者は拒否することができるか、逮捕・勾留、捜索・押収					事前：被疑者になると何がかわるか 事後：令状主義		双方向対話型講義 講義 90分	
13	被疑者となった警察に何も協力しなくてもよいのか、黙秘することが刑事手続き上不利になるのか、黙秘権、被疑者取調べと可視化、被疑者段階の弁護権と接見交通権					事前：取調べは必ず受けなければならないのか 事後：被疑者・被告人の権利		双方向対話型講義 講義 90分	
14	警察官が熱意の余り組み伏せ、無理やり着衣を脱がせたところ覚せい剤を発見した。この覚せい剤は証拠となるのか、公訴手続、公判構造など、その他排除法則、正義とは					事前：ケーキの切り方 事後：正義を実現するいろいろな方法		双方向対話型講義 講義 90分	
15	18歳、19歳に死刑という刑罰を科すことは正しいか、裁判の執行、刑罰制度、犯罪者の処遇、死刑制度、まとめ					事前：死刑制度は正しいか 事後：国家の刑罰権の行使		双方向対話型講義 講義 60分 ディスカッション 30分	
教本：教科書は特に指定しません。毎回レジュメを配布しますが、法律は本を読んで勉強するものであるので、右記を参考に予習をして講義に臨んでください。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	契 約 概 論 (Introduction to Contract Law)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	新 城 将 孝								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他								
授 業 概 要 : 民法典の中に点在する個々の法制度および疑念を契約の成立から終了まで流れ沿って概説します。また、契約に関する基本的な知識等を修得できるようにし、契約実務等を強く意識したものとします。契約法総論の分野となります。									
授 業 目 標 : 契約法について、その概要の理解および法的ものの見方を身に付け、実務への応用を図りうることを目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）			事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）				授 業 形 態	
1	ガイダンス：開講にあたり、ガイダンスを行う。受講における約束、テスト、評価等の説明等を行う。契約法の特徴（概要）を示し、契約法Ⅱを学んでいくうえでの心構え等を説明する。			事前：事後：次回講義のための準備六法・テキスト等の購入、ビジネス法分野についての事前のチェックをする。契約法とは何かについて考える。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	
2	民法（債権法）のガイダンスを行う。民法の構成、債権の発生原因、諸制度の趣旨と目的について概説する。			事前：民法の構成、債権の発生原因、諸制度の趣旨と目的について確認する。 事後：民法の構成、債権の発生原因、諸制度の趣旨と目的について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	
3	契約法理解のため、物権と物権変動について概観する。物権の意義、物権の種類、物権変動、二重譲渡等について概説する。			事前：物権の意義、物権の種類、物権変動、二重譲渡等について確認する。 事後：物権の意義、物権の種類、物権変動、二重譲渡等について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	
4	民法の改正と契約現象について概観する。民法の諸改正、債権法の改正について概説する。			事前：民法の諸改正、債権法の改正、契約現象について確認する。 事後：民法の諸改正、債権法の改正、契約現象について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	
5	契約法の構成について概観する。契約総則、契約各則について概説する。			事前：契約総則、契約各則について確認する。 事後：契約総則、契約各則について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	
6	契約の種類について概観する。典型契約と非典型契約、双務契約と片務契約、有償契約と無償契約、諾成契約と要物契約、単発契約と継続契約、事業者契約と消費者契約、二当事者契約と多当事者契約等について概説する。			事前：典型契約と非典型契約、双務契約と片務契約、有償契約と無償契約、諾成契約と要物契約、事業者契約と消費者契約、二当事者契約と多当事者契約等について確認する。 事後：典型契約と非典型契約、双務契約と片務契約、有償契約と無償契約、諾成契約と要物契約、事業者契約と消費者契約、二当事者契約と多当事者契約等について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	
7	契約の意義と契約法の形成と思想について概観する。契約の意義、近代契約法の形成と思想、現代契約法の形成と思想について概説する。			事前：契約の意義、近代契約法の形成と思想、現代契約法の形成と思想について確認する。 事後：契約の意義、近代契約法の形成と思想、現代契約法の形成と思想について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	
8	契約の自由の原則とその制限について概観する。契約の自由の原則と現実のずれ、契約自由の原則と制限等について概説する。			事前：契約の自由の原則と現実のずれ、契約自由の原則と制限等について確認する。 事後：契約の自由の原則と現実のずれ、契約自由の原則と制限等について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	
9	意思自治の原理（契約の拘束力）について概観する。契約の意義と契約の拘束力、稀薄な意思による拘束（約款取引）、合意による拘束の限界（事情変更の原則）等について概説する。			事前：契約の意義と契約の拘束力、稀薄な意思による拘束（約款取引）、合意による拘束の限界（事情変更の原則）等について確認する。 事後：契約の意義と契約の拘束力、稀薄な意思による拘束（約款取引）、合意による拘束の限界（事情変更の原則）等について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	
10	契約の完結性について概観する。契約の完結性とその意義、契約の個別性、契約の固定性、契約成立段階における課題、契約成立後の課題、契約存続中の課題、契約終了段階での課題、契約と他の契約と関連性（個別性・相対性の例外）、契約の完結性の修正等について概説する。			事前：契約の完結性とその意義、契約の個別性、契約の固定性、契約成立段階・契約成立後・契約存続中・契約終了段階での課題、契約の完結性の修正等について確認する。 事後：契約の完結性とその意義、契約の個別性、契約の固定性、契約成立段階・契約成立後・契約存続中・契約終了段階での課題、契約の完結性の修正等について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	

11	契約の成立について概観する。契約の申込みと承諾による契約の成立、それ以外の方法による契約の成立、約款と定型約款、懸賞広告等について概説する。	事前：契約の申込みと承諾による契約の成立、それ以外の方法による契約の成立、約款と定型約款、懸賞広告等について確認する。 事後：契約の申込みと承諾による契約の成立、それ以外の方法による契約の成立、定型約款、懸賞広告等について確認し、ノートにまとめる。	講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。
12	契約の効力（その1）について概観する。同時履行の抗弁権、契約の効力（その1）について概観する。同時履行の抗弁権、危険負担について概説する。	事前：同時履行の抗弁権、危険負担、第三者のためにする契約について確認する。 事後：同時履行の抗弁権、危険負担、第三者のためにする契約について確認し、ノートにまとめる。	講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。
13	契約の効力（その2）、契約譲渡について概観する。第三者のためにする契約、契約譲渡（契約上の地位の移転）について概説する。	事前：第三者のためにする契約、契約譲渡（契約上の地位の移転）について確認する。 事後：第三者のためにする契約、契約譲渡（契約上の地位の移転）について確認し、ノートにまとめる。	講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。
14	契約の解除（その1）について概観する。契約の解除とその種類、解除権の行使について概説する。	事前：契約の解除とその種類、解除権の行使について確認する。 事後：契約の解除とその種類、解除権の行使について確認し、ノートにまとめる。	講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。
15	契約の解除（その2）について概観する。解除の効果、解除権の消滅等について概説する。	事前：解除の効果、解除権の消滅等について確認する。 事後：解除の効果、解除権の消滅等について確認し、ノートにまとめる。	講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。
教本：「ポケット六法」または「デイリー六法」等、六法は必ず準備してください。 参考文献：初回講義日に伝えます。			
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（25%）、小テスト・レポート等（25%）、定期試験（50%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 授業への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心掛けてください。予習・復習もお願いします。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。			

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	契約法Ⅰ (Contract Law Ⅰ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	新城 将孝								
履 修 条 件	前提科目	私法学Ⅰ、私法学Ⅱ、ビジネス法Ⅰ、ビジネス法Ⅱ (同時履修も含め、好ましい。)							
	そ の 他								
授業概要： 民法典の中に点在する個々の法制度および概念を契約の成立から終了まで流れに沿って集約し、契約に関する基本的な知識等を修得できるようにします。									
授業目標： 契約法についての概要の理解および法的ものの見方を身に付けることを目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)			事前・事後学習 (学習課題)				授業形態	
1	ガイダンス：開講にあたり、ガイダンスを行う。受講における約束、テスト、評価等の説明等を行う。契約法の特徴 (概要) を示し、契約法Ⅱを学んでいくうえでの心構え等を説明する。			事前： 事後：次回講義のための準備六法・テキスト等の購入、ビジネス法分野についての事前のチェックをする。契約法とは何かについて考える。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	
2	民法 (債権法) のガイダンスを行う。民法の構成、債権の発生原因、諸制度の趣旨と目的について概説する。			事前：民法の構成、債権の発生原因、諸制度の趣旨と目的について確認する。 事後：民法の構成、債権の発生原因、諸制度の趣旨と目的について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	
3	契約法理解のため、物権と物権変動について概観する。物権の意義、物権の種類、物権変動、二重譲渡等について概説する。			事前：物権の意義、物権の種類、物権変動、二重譲渡等について確認する。 事後：物権の意義、物権の種類、物権変動、二重譲渡等について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	
4	民法の改正と契約現象について概観する。民法の諸改正、債権法の改正について概説する。			事前：民法の諸改正、債権法の改正、契約現象について確認する。 事後：民法の諸改正、債権法の改正、契約現象について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	
5	契約法の構成について概観する。契約総則、契約各則について概説する。			事前：契約総則、契約各則について確認する。 事後：契約総則、契約各則について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	
6	契約の種類について概観する。典型契約と非典型契約、双務契約と片務契約、有償契約と無償契約、諾成契約と要物契約、単発契約と継続契約、事業者契約と消費者契約、二当事者契約と多当事者契約等について概説する。			事前：典型契約と非典型契約、双務契約と片務契約、有償契約と無償契約、諾成契約と要物契約、事業者契約と消費者契約、二当事者契約と多当事者契約等について確認する。 事後：典型契約と非典型契約、双務契約と片務契約、有償契約と無償契約、諾成契約と要物契約、事業者契約と消費者契約、二当事者契約と多当事者契約等について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	
7	契約の意義と契約法の形成と思想について概観する。契約の意義、近代契約法の形成と思想、現代契約法の形成と思想について概説する。			事前：契約の意義、近代契約法の形成と思想、現代契約法の形成と思想について確認する。 事後：契約の意義、近代契約法の形成と思想、現代契約法の形成と思想について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	
8	契約の自由の原則とその制限について概観する。契約の自由の原則と現実のずれ、契約自由の原則と制限等について概説する。			事前：契約の自由の原則と現実のずれ、契約自由の原則と制限等について確認する。 事後：契約の自由の原則と現実のずれ、契約自由の原則と制限等について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	
9	意思自治の原理 (契約の拘束力) について概観する。契約の意義と契約の拘束力、稀薄な意思による拘束 (約款取引)、合意による拘束の限界 (事情変更の原則) 等について概説する。			事前：契約の意義と契約の拘束力、稀薄な意思による拘束 (約款取引)、合意による拘束の限界 (事情変更の原則) 等について確認する。 事後：契約の意義と契約の拘束力、稀薄な意思による拘束 (約款取引)、合意による拘束の限界 (事情変更の原則) 等について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	
10	契約の完結性について概観する。契約の完結性とその意義、契約の個別性、契約の固定性、契約成立段階における課題、契約成立後の課題、契約存続中の課題、契約終了段階での課題、契約と他の契約と関連性 (個別性・相対性の例外)、契約の完結性の修正等について概説する。			事前：契約の完結性とその意義、契約の個別性、契約の固定性、契約成立段階・契約成立後・契約存続中・契約終了段階での課題、契約の完結性の修正等について確認する。 事後：契約の完結性とその意義、契約の個別性、契約の固定性、契約成立段階・契約成立後・契約存続中・契約終了段階での課題、契約の完結性の修正等について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	
11	契約の成立について概観する。契約の申込みと承諾による契約の成立、それ以外の方法による契約の成立、約款と定型約款、懸賞広告等について概説する。			事前：契約の申込みと承諾による契約の成立、それ以外の方法による契約の成立、約款と定型約款、懸賞広告等について確認する。 事後：契約の申込みと承諾による契約の成立、それ以外の方法による契約の成立、定型約款、懸賞広告等について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	

12	契約の効力（その１）について概観する。同時履行の抗弁権、危険負担について概説する。	事前：同時履行の抗弁権、危険負担、第三者のためにする契約について確認する。 事後：同時履行の抗弁権、危険負担、第三者のためにする契約について確認し、ノートにまとめる。	講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。
13	契約の効力（その２）、契約譲渡について概観する。第三者のためにする契約、契約譲渡（契約上の地位の移転）について概説する。	事前：第三者のためにする契約、契約譲渡（契約上の地位の移転）について確認する。 事後：第三者のためにする契約、契約譲渡（契約上の地位の移転）について確認し、ノートにまとめる。	講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。
14	契約の解除（その１）について概観する。契約の解除とその種類、解除権の行使について概説する。	事前：契約の解除とその種類、解除権の行使について確認する。 事後：契約の解除とその種類、解除権の行使について確認し、ノートにまとめる。	講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。
15	契約の解除（その２）について概観する。解除の効果、解除権の消滅等について概説する。	事前：解除の効果、解除権の消滅等について確認する。 事後：解除の効果、解除権の消滅等について確認し、ノートにまとめる。	講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。
教本： 「ポケット六法」または「デイリー六法」等、六法は必ず準備してください。 参考文献： 初回講義日に伝えます。			
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（25％）、小テスト・レポート等（25％）、定期試験（50％）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 授業への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心掛けてください。予習・復習もお願いします。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。			

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	契約法Ⅱ (Contract Law Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	新城 将孝								
履 修 条 件	前提科目	私法学Ⅰ・Ⅱ、ビジネス法Ⅰ・Ⅱ 契約法Ⅰ (同時履修も含め、好ましい。)							
	そ の 他	なし							
授業概要： 民法典の中に点在する個々の法制度および疑念を契約の成立から終了まで流れ沿って概説します。また、契約に関する基本的な知識等を修得できるようにし、契約実務等を強く意識したものとします。契約法各論の分野となります									
授業目標： 契約法について、その概要の理解および法的ものの見方を身に付け、実務への応用を図りうることを目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)			事前・事後学習 (学習課題)				授業形態	
1	ガイダンス：開講にあたり、ガイダンスを行う。受講における約束、テスト、評価等の説明等を行う。契約法の特色 (概要) を示し、契約法Ⅱを学んでいくうえでの心構え等を説明する。			事前： 事後：次回講義のための準備六法・テキスト等の購入、ビジネス法分野についての事前のチェックをする。契約法とは何かについて考える。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	
2	贈与契約について概観する。贈与の意義、贈与の成立、贈与の効力、特殊の贈与について概説する。			事前：贈与の意義、贈与の成立、贈与の効力、特殊の贈与について確認する。 事後：贈与の意義、贈与の成立、贈与の効力、特殊の贈与について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	
3	売買契約 (その1) について概観する。売買契約の意義、売買契約の成立、売買契約の効力について概説する。			事前：売買契約の意義、売買契約の成立、売買契約の効力について確認する。 事後：売買契約の意義、売買契約の成立、売買契約の効力について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	
4	売買契約 (その2) について概観する。買い戻し、特殊の売買について概説する。			事前：買い戻し、特殊の売買について確認する。 事後：買い戻し、特殊の売買について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	
5	消費貸借契約について概観する。消費貸借の意義、消費貸借の成立、消費貸借の効力について概説する。			事前：消費貸借の意義、消費貸借の成立、消費貸借の効力について確認する。 事後：消費貸借の意義、消費貸借の成立、消費貸借の効力について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	
6	賃貸借契約 (その1) について概観する。賃貸借契約の意義、賃貸借契約の効力、当事者の交替 (転貸)、賃貸借契約の機関と終了について概説する。			事前：賃貸借契約の意義、賃貸借契約の効力、当事者の交替 (転貸)、賃貸借契約の機関と終了について確認する。 事後：賃貸借契約の意義、賃貸借契約の効力、当事者の交替 (転貸)、賃貸借契約の機関と終了について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	
7	賃貸借契約 (その2) について概観する。借地の法律関係、借家の法律関係について概説する。			事前：借地の法律関係、借家の法律関係について確認する。 事後：借地の法律関係、借家の法律関係について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	
8	使用貸借契約について概観する。使用貸借契約の意義、使用貸借契約の効力、使用貸借契約の終了について概説する。			事前：使用貸借契約の意義、使用貸借契約の効力、使用貸借契約の終了について確認する。 事後：使用貸借契約の意義、使用貸借契約の効力、使用貸借契約の終了について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	
9	雇用契約について概観する。雇用契約の意義、雇用契約の効力、雇用契約の終了について概説する。			事前：雇用契約の意義、雇用契約の効力、雇用契約の終了について確認する。 事後：雇用契約の意義、雇用契約の効力、雇用契約の終了について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	
10	請負契約について概観する。請負契約の意義、請負契約の効力、請負契約の終了について概説する。			事前：請負契約の意義、請負契約の効力、請負契約の終了について確認する。 事後：請負契約の意義、請負契約の効力、請負契約の終了について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	
11	委任契約について概観する。委任契約の意義、委任契約の効力、委任契約の終了について概説する。			事前：委任契約の意義、委任契約の効力、委任契約の終了について確認する。 事後：委任契約の意義、委任契約の効力、委任契約の終了について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	
12	寄託契約について概観する。寄託契約の意義、寄託契約の効力、寄託契約の終了について概説する。			事前：寄託契約の意義、寄託契約の効力、寄託契約の終了について確認する。 事後：寄託契約の意義、寄託契約の効力、寄託契約の終了について確認し、ノートにまとめる。				講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。	

13	組合契約（その１）について概観する。組合契約の意義、組合契約の成立、組合の業務執行について概説する。	事前：組合契約の意義、組合契約の成立、組合の業務執行について確認する。 事後：組合契約の意義、組合契約の成立、組合の業務執行について確認し、ノートにまとめる。	講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。
14	組合契約（その２）について概観する。組合の財産関係、組合員の変動、組合の解散および清算について概説する。	事前：組合の財産関係、組合員の変動、組合の解散および清算について確認する。 事後：組合の財産関係、組合員の変動、組合の解散および清算について確認し、ノートにまとめる。	講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。
15	終身定期金契約、和解契約について概観する。終身定期金の契約の意義、終身定期金の効力、和解契約の意義、和解契約の効力等について概説する。	事前：終身定期金の契約の意義、終身定期金の効力、和解契約の意義、和解契約の効力等について確認する。 事後：終身定期金の契約の意義、終身定期金の効力、和解契約の意義、和解契約の効力等について確認し、ノートにまとめる。	講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。
教本：「ポケット六法」または「デイリー六法」等、六法は必ず準備してください。 参考文献：初回講義日に伝えます。			
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（25％）、小テスト・レポート等（25％）、定期試験（50％）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 授業への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心掛けてください。予習・復習もお願いします。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。			

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	原価計算論Ⅰ（Cost AccountingⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川口 修								
履 修 条 件	前提科目	簿記原理Ⅰ、Ⅱ							
	そ の 他	なし							
授業概要： 工業簿記は、資本の調達・運用・返還についての記帳は商業と同じであるが、製造過程という内部活動を有していることが特徴である。その製造現場での価値移転の記録計算が必要とされる。すなわち、原価計算の領域である。原価計算では、原価を材料費・労務費・経費の3つに分類して計算把握し、その消費額を製品（給付）と関連づける計算を行う。この原価計算と財務会計との関連について論じ、具体的な計算例を使用して講義する。									
授業目標： 工業の簿記会計の理解がテーマである。簿記検定2級工業簿記の範囲を理解することを目標として講義を行う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	序、工業簿記の特色					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
2	原価計算基準と原価の一般概念					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
3	原価の要素・種類					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
4	原価の態様、非原価項目					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
5	原価計算の意義と目的、原価計算の種類					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
6	工業簿記の構造、材料費の計算Ⅰ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
7	材料費の計算Ⅱ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
8	労務費の計算Ⅰ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
9	労務費の計算Ⅱ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
10	経費の計算					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
11	製造間接費の配賦計算Ⅰ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
12	製造間接費の配賦計算Ⅱ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
13	製造間接費の配賦計算Ⅲ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
14	部門別計算					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
15	個別原価計算					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
教本： 柳田 仁編著『原価計算ガイダンス』中央経済社、¥2,600＋税									
参考文献： 岡本清・廣本敏郎編著 新検定『簿記講義（2級工業簿記）』									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（20％）定期試験（80％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 簿記原理Ⅰ・Ⅱを理解していることが前提となる。簿記を学んでから履修することを希望する。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	原価計算論Ⅱ（Cost AccountingⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川 口 修								
履 修 条 件	前提科目	原価計算論Ⅰ							
	そ の 他	なし							
授業概要： 工業簿記は、資本の調達・運用・返還についての記帳は商業と同じであるが、製造過程という内部活動を有していることが特徴である。その製造現場での価値移転の記録計算が必要とされる。すなわち、原価計算の領域である。原価計算では、原価を材料費・労務費・経費の3つに分類して計算把握し、その消費額を製品（給付）と関連づける計算を行う。この原価計算と財務会計との関連について論じ、具体的な計算例を使用して講義する。「工業簿記Ⅰ」で学んだことを基礎にさらに総合原価計算・標準原価計算などを学ぶ。									
授業目標： 工業の簿記会計の理解がテーマである。簿記検定2級工業簿記の範囲を理解することを目標として講義を行う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	工業簿記Ⅰの復習					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
2	総合原価計算Ⅰ（総合原価計算の意義）					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
3	総合原価計算Ⅱ（単一工程単純総合原価計算、平均法と先入先出法）					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
4	総合原価計算Ⅲ（特級別計算・組別計算）					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
5	総合原価計算Ⅳ（工程別計算）					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
6	総合原価計算Ⅴ（仕損品の処理）					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
7	標準原価計算Ⅰ（意義）					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
8	標準原価計算Ⅱ（材料費差異・労務費差異）					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
9	標準原価計算Ⅲ（間接費差異Ⅰ）					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
10	標準原価計算Ⅳ（間接費差異Ⅱ）					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
11	CVP分析（損益分岐点分析）					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
12	直接原価計算Ⅰ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
13	直接原価計算Ⅱ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
14	営業費計算					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
15	まとめ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
教本： 柳田 仁編著『原価計算ガイダンス』中央経済社、¥2,600＋税									
参考文献： 岡本清・廣本敏郎編著 新検定『簿記講義（2級工業簿記）』									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（20％）、定期試験（80％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 工業簿記Ⅰを履修・理解していることが前提となる。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	言語学 (Linguistics)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	松浦 恵津子								
履 修 条 件	前提科目	日本語概論							
	そ の 他	なし							
授業概要： 第1回～第6回で言語の特性や言語の類型について扱ったあと、分野別に中心的な項目について考える。そして、ふだん使っている身近な存在である言語が、学問の対象として豊かで奥深い内容を擁していることに気づいていく。									
授業目標： 1. 諸言語から共通して取り出せる言語の特徴を理解し、どのようなしくみで人が言語を産出・理解しているのかを学ぶ。 2. 言語学の基礎的な考え方、言語を客観的に観察するための方法について学ぶ。 3. 中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 世界の言語（分布・系統）について知り、日本語を相対的に把握する。					事前：世界の言語を調べる 事後：ノート・プリントの整理		オリ30分 講義40分 考察20分	
2	言語の特性①（記号性・恣意性・分節性）を理解し、具体例を示しながら説明できるようにする。					事前：言語の特性を調べる 事後：プリントの確認		講義50～60分 練習問題・ 考察30～40分	
3	言語の特性②（生産性・体系性等）を理解し、具体例を示しながら説明できるようにする。					事前：言語の特性を調べる 事後：プリントの確認		講義50～60分 練習問題・ 考察30～40分	
4	言語の機能：言語は何のためにあるかを考える。					事前：言語の機能について考える 事後：プリントの確認		講義50～60分 練習問題・ 考察30～40分	
5	言語学の対象（ラング・パロール・共時態・通時態）：言語学は、どのような言語を考察の対象とするのかについて考える。					事前：キーワードを調べる 事後：プリントの確認		講義50～60分 練習問題・ 考察30～40分	
6	言語の類型：異なる言語間で、共通した特徴や相違点について考える。					事前：2つ以上の言語の比較 事後：プリントの確認		講義50～60分 練習問題・ 考察30～40分	
7	言語学の諸分野：言語はどのような側面から考察できるのかを考える。					事前：言語学の諸分野を調べる 事後：プリントの確認		講義50～60分 練習問題・ 考察30～40分	
8	形態論①（形態素）：意味をもつ最小単位について考える。					事前：形態論、形態素を調べる 事後：プリントの確認		講義50～60分 練習問題・ 考察30～40分	
9	形態論②（文法的意味をもつ形態素）：どの「形」がどんな文法的意味を表し、語形の中にどう現れるのかについて考える。					事前：文法的な意味とは 事後：プリントの確認		講義50～60分 練習問題・ 考察30～40分	
10	形態論③（文法的カテゴリー）：文法的意味の領域ごとに、対立する語形がどのような意味を表すのかについて考える。					事前：文法的カテゴリーとは 事後：プリントの確認		講義50～60分 練習問題・ 考察30～40分	
11	形態論④（語構成）：単語は、意味をもつ単位によってどう構成されているかを考え、例をあげ説明できるようにする。					事前：語構成について調べる 事後：プリントの確認		講義50～60分 練習問題・ 考察30～40分	
12	統語論（文の構造・日本語文法における統語論）：1つの文の構造について分析する。日本語の文構造について考える。					事前：統語論とは 事後：プリントの確認		講義50～60分 練習問題・ 考察30～40分	
13	意味論：単語の意味を考える方法を学ぶ。					事前：意味論とは 事後：プリントの確認		講義50～60分 練習問題・ 考察30～40分	
14	社会言語学：年齢・職業・地域等による言葉のちがいについて考える。					事前：社会言語学とは 事後：プリントの確認		講義50～60分 練習問題・ 考察30～40分	
15	まとめ					事前：疑問点の洗い出し 事後：総復習、期末試験準備		質疑応答	
教本： 参考文献： プリントを配布する。 佐久間淳一、加藤重広、町田健（2004）『言語学入門』研究社 ￥1,980 唐沢伊都夫（2016）『日本語教師のための入門言語学－演習と解説』スリーエーネットワーク ￥1,980									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（15%）、提出物等（40%）、定期試験（45%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 人間の言語のしくみを考えます。日本語や知っている外国語を具体例として考えるので、興味がもてると思います。人間の言語の、機能的で精巧なつくりに驚かされるでしょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	現代家族論（Contemporary Family Studies）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	野川 智子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 家族や家庭の姿が多様化している現代において、家庭の意義や機能をあきらかにする。子どもが育つ環境としての家庭内の人間関係や家庭と社会の関わりについて考える。さらに、保護者のワークライフバランスや子育ての問題点を洗い出し、家族のつながり、家族を越えたつながりも含めて家族がよりよく生きる意味を探る。									
授業目標： 1. 子が育つ家庭の意義と機能や現代家族の人間関係について理解する。 2. 子育ての課題に対するさまざまな社会的な支援について調べたり、討議したりする。 3. 自身の将来におけるワークライフバランスやよりよく生きることを考える。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンスを行い、個人的な家族観から家族を客観視することができるようにする。 家族の定義を話し合う。					事前：なし 事後：課題をまとめる		講義（45 分） 討議（45 分）	
2	家族の人間関係の時代的变化を知り、現代家族の人間関係と子育てへの影響を考える。					事前：テキスト予習 事後：課題をまとめる		講義（90 分）	
3	子どもが育つ環境としての家庭が子どもの発達に及ぼす意義と機能について理解する。					事前：テキスト予習 事後：ノート整理		講義（90 分）	
4	戦後の夫婦関係（親）の変化から、小規模化した現在の子育て期の状況や課題を話し合う。					事前：テキスト予習 事後：課題をまとめる		講義（45 分） 討議（45 分）	
5	母親の子育て、父親の子育てを比較しながら、子どもの社会化、親になることの意味を話し合う。					事前：テキスト予習 事後：課題をまとめる		講義（45 分） 討議（45 分）	
6	親のワークライフバランスについてデータを読み取り、男女共同参画社会における仕事と子育ての意義を話し合う。					事前：テキスト予習 事後：ノート整理		講義（45 分） 討議（45 分）	
7	家族形態の変化に伴って、子育てに関して家庭支援が求められていることを理解する。					事前：テキスト予習 事後：ノート整理		講義（90 分）	
8	国や地方自治体の具体的な子育て支援策や次世代育成支援策等を調べてまとめる。					事前：情報収集 事後：発表資料作成		講義（20 分） 演習（70 分）	
9	子育て支援策や次世代育成支援策等の報告を聞き合い、現状を話し合いまとめる。					事前：発表資料作成 事後：課題をまとめる		演習（90 分）	
10	子どもが育つ地域社会の変容に目を向けて、地域と家庭のつながりや地域の役割、地域支援について話し合う。					事前：テキスト予習 事後：課題をまとめる		講義（45 分） 討議（45 分）	
11	保育者としての子育て家庭支援の原理を学び、保育の専門性を活かした視点をもつことの意味と限界を理解する。					事前：テキスト予習 事後：ノート整理		講義（90 分）	
12	家族間の問題についてテーマを選んでレポートする。（ドメスティックバイオレンス、虐待、障碍児、母子・父子家庭等）					事前：情報収集 事後：発表資料作成		講義（20 分） 演習（70 分）	
13	レポートを聞き合い、感想交流をして問題意識を共有し、視野を広げる。					事前：発表資料作成 事後：課題をまとめる		演習（90 分）	
14	日本における結婚の実情から、これからの家族のつながりや家族を超えたつながりと幸せについて考える。					事前：テキスト予習 事後：課題をまとめる		講義（45 分） 討議（45 分）	
15	「人生100年年表」（仕事、結婚、子ども、介護等）を作成しながら、自分の生き方や人間関係を考える。					事前：ワークシート記入 事後：「人生100年年表」提出		演習（90 分）	
教本： 「コンパクト保育者養成シリーズ 新版家庭支援論」 谷田貝公昭・石橋哲成監修 一藝社 ￥2,000					参考文献： 適宜資料配布				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 家族に対して社会的な視点を持ち、保育者として子育ての家族問題へ視野を広げていきましょう。 また、課題への答えは一つではないですからいろいろな意見を交流していきましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	現代文学（散文）（Study of Contemporary Japanese）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中村 龍一								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： (1) 現代小説を「第三項 語り論」の「〈読み〉の原理」で読む。 (2) 現代文学の世界観認識を読み解き、現代を生きる人間の問題の認識を深める。									
授業目標： (1) 現代小説の代表的作品を講読し、語り合う。 (2) 現代人の生きる課題を追究し、自らの生き方を問い直す。 (3) レポートディスカッションの表現力、対話力の向上を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	・現代小説の作家たちを紹介し、自分の読書経験を話し合う。					事前：なし 事後：感想200字		講義60分、話し合い30分	
2	・「第三項 語り論」とは何か？ 村上春樹「運転手は吸血鬼」を例に検討する。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
3	・物語と小説の峻別を学ぶ。あまんきみこ童話「おにたのぼうし」を例に検討する。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
4	・江國香織「デューク」を読み、感想交流をする。少年はデュークか？ 現代小説を読むことは「謎解き」である。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
5	・再読という考え方を学び、「デューク」の謎を話し合いで解いてみる。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
6	・「メディアミックス」という概念を学び、映画「デューク」を鑑賞し、原作と比較し話し合う。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		講義20分、映画鑑賞40分、話し合い30分	
7	・吉本ばなな「みどりのゆび」を読み、感想交流をする。この小説の謎を考える。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
8	・再読で「みどりのゆび」の謎を解く。〈みどりのゆび〉とは何か。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
9	・岩波少年文庫「みどりのゆび」を読み、」吉本ばなな「みどりのゆび」と比較する。物語原型を学ぶ。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		作品を読む60分、話し合い30分	
10	・川上弘美「神様」を読み、感想交流をする。ファンタジーを考える。小説は全てファンタジーである。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
11	・再再読で「神様」謎を解く。なぜ、題名が「神様」か？					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
12	・続編「草上の昼食」を読み、私と熊の愛の結末を語り合う。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		作品を読む45分、話し合い45分	
13	・村上春樹「象の消滅」を読み、感想交流する。この小説の謎、象と調教師の消滅を考える。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
14	・「象の消滅」の謎を解く。ノーベル賞と村上春樹について考えてみる。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		作品を読む30分、話し合い30分、講義30分	
15	・まとめ「現代小説と〈他者〉」について文章でまとめる。					事前：なし 事後：感想1,200字		講義30分、まとめ60分	
教本： 『語り論』が拓く文学の授業』（中村龍一著 ひつじ書房）					参考文献： ・授業時に紹介する				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（40%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： レポート課題をしっかりと提出する。									
オフィスアワー： 水曜日昼休み									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	現代文学（韻文）（Study of Contemporary Japanese）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	徳本 善彦								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： (1) 戦後文学における詩の流れを学び、代表的詩人の作品を鑑賞する。 (2) 作品を精読し、声に出して読むことで言葉の新しい価値を見出し、詩の世界をより深く理解する。									
授業目標： (1) 戦後詩史を踏まえ、現代詩人の代表的作品を鑑賞する。 (2) 基本的な詩の「読み」かたを習得し、レポート課題を通して自分なりの作品論を書く。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1	オリエンテーションとして「詩のことは」について考えます。様々な日常的な言葉と詩的な言葉の違いを話し合います。					事前：詩の言葉を考える 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
2	現代詩の始まりとして、戦争と詩の関わりを戦中・戦後を通じて学びます。問題点を整理し話し合います。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
3	原民喜の詩などを題材にして原爆詩について学びます。原爆ちという大きな災禍を詩がどのように描いたのか考えます。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
4	鮎川信夫の詩を基にして、戦争で生き残った詩人が戦死した仲間に対して残した言葉について話し合います。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
5	田村隆一の詩を題材にして、戦後から立ち直りつつある時期の日本社会と詩の関わりを議論します。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
6	谷川俊太郎の詩を扱いながら、高度経済成長期に向かいつつある日本を詩の言葉から捉えます。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
7	まどみちおの詩「ぞうさん」などを基に、子供向けの詩について考えます。問題点を考え話し合います。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
8	入沢康夫「未確認飛行物体」を題材に、非現実的なモノを空想する人間の想像力と詩を結び付けて考えます。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
9	石牟礼道子の詩を題材にして、水俣病について学びます。社会の問題に対して詩の果たす役割を議論します。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
10	川崎洋の詩を題材にして、方言や挨拶などの日本語の面白さを扱った詩について考えます。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
11	茨城のり子と石垣りんという二人の詩人の作品を扱い、それぞれの特徴をとらえ言葉を読み比べます。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
12	伊藤比呂美の詩「カノコ殺し」を題材にして、社会の中で生命が管理されてきた問題について議論します。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
13	1968年に起こった出来事について学び、詩と関連付けて捉えなおします。問題点をあぶり出して議論します。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
14	現代の短歌（ライトヴァース）を扱います。社会の中で生きる個人から生み出される詩の言葉について話し合います。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
15	現代詩という視点からヒップホップの歌詞を精読します。意味とリズムに加え、同時代の文脈を探して議論します。					事前：課題作を読んでくる 事後：レポート準備		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
教本： 授業で資料を配布します。					参考文献： 教室で提示します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（50％）、定期試験（50％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業で詩をじっくり読んで、レポート課題に取り組みましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	現代文学研究 A（散文）(Study of Contemporary Japanese Literature A)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中村 龍一								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： (1) 現代小説を「第三項 語り論」の「〈読み〉の原理」で読む。 (2) 現代文学の世界観認識を読み解き、現代を生きる人間の問題の認識を深める。									
授業目標： (1) 現代小説の代表的作品を講読し、語り合う。 (2) 現代人の生きる課題を追究し、自らの生き方を問い直す。 (3) レポートディスカッションの表現力、対話力の向上を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	・現代小説の作家たちを紹介し、自分の読書経験を話し合う。					事前：なし 事後：感想200字		講義60分、話し合い30分	
2	・「第三項 語り論」とは何か？ 村上春樹「運転手は吸血鬼」を例に検討する。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
3	・物語と小説の峻別を学ぶ。あまきみこ童話「おにたのぼうし」を例に検討する。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
4	・江國香織「デューク」を読み、感想交流をする。少年はデュークか？ 現代小説を読むことは「謎解き」である。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
5	・再読という考え方を学び、「デューク」の謎を話し合いで解いてみる。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
6	・「メディアミックス」という概念を学び、映画「デューク」を鑑賞し、原作と比較し話し合う。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		講義20分、映画鑑賞40分、話し合い30分	
7	・吉本ばなな「みどりのゆび」を読み、感想交流をする。この小説の謎を考える。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
8	・再読で「みどりのゆび」の謎を解く。〈みどりのゆび〉とは何か。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
9	・岩波少年文庫「みどりのゆび」を読み、」吉本ばなな「みどりのゆび」と比較する。物語原型を学ぶ。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		作品を読む60分、話し合い30分	
10	・川上弘美「神様」を読み、感想交流をする。ファンタジーを考える。小説は全てファンタジーである。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
11	・再再読で「神様」謎を解く。なぜ、題名が「神様」か？					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
12	・続編「草上の昼食」を読み、私と熊の愛の結末を語り合う。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		作品を読む45分、話し合い45分	
13	・村上春樹「象の消滅」を読み、感想交流する。この小説の謎、象と調教師の消滅を考える。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
14	・「象の消滅」の謎を解く。ノーベル賞と村上春樹について考えてみる。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		作品を読む30分、話し合い30分、講義30分	
15	・まとめ「現代小説と〈他者〉」について文章でまとめる。					事前：なし 事後：感想1,200字		講義30分、まとめ60分	
教本： 『語り論』が拓く文学の授業』（中村龍一著 ひつじ書房）					参考文献： ・授業時に紹介する				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（40%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： レポート課題をしっかりと提出する。									
オフィスアワー： 水曜日昼休み									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	現代文学研究 B（韻文）(Study of Contemporary Japanese Literature B)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	徳本 善彦								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： (1) 戦後文学における詩の流れを学び、代表的詩人の作品を鑑賞する。 (2) 作品を精読し、声に出して読むことで言葉の新しい価値を見出し、詩の世界をより深く理解する。									
授業目標： (1) 戦後詩史を踏まえ、現代詩人の代表的作品を鑑賞する。 (2) 基本的な詩の「読み」かたを習得し、レポート課題を通して自分なりの作品論を書く。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーションとして「詩のことは」について考えます。様々な日常的な言葉と詩的な言葉の違いを話し合います。					事前：詩の言葉を考える 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
2	現代詩の始まりとして、戦争と詩の関わりを戦中・戦後を通じて学びます。問題点を整理し話し合います。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
3	原民喜の詩などを題材にして原爆詩について学びます。原爆ちという大きな災禍を詩がどのように描いたのか考えます。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
4	鮎川信夫の詩を基にして、戦争で生き残った詩人が戦死した仲間に対して残した言葉について話し合います。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
5	田村隆一の詩を題材にして、戦後から立ち直りつつある時期の日本社会と詩の関わりを議論します。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
6	谷川俊太郎の詩を扱いながら、高度経済成長期に向かいつつある日本を詩の言葉から捉えます。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
7	まどみちおの詩「ぞうさん」などを基に、子供向けの詩について考えます。問題点を考え話し合います。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
8	入沢康夫「未確認飛行物体」を題材に、非現実的なモノを空想する人間の想像力と詩を結び付けて考えます。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
9	石牟礼道子の詩を題材にして、水俣病について学びます。社会の問題に対して詩の果たす役割を議論します。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
10	川崎洋の詩を題材にして、方言や挨拶などの日本語の面白さを扱った詩について考えます。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
11	茨城のり子と石垣りんという二人の詩人の作品を扱い、それぞれの特徴をとらえ言葉を読み比べます。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
12	伊藤比呂美の詩「カノコ殺し」を題材にして、社会の中で生命が管理されてきた問題について議論します。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
13	1968年に起こった出来事について学び、詩と関連付けて捉えなおします。問題点をあぶり出して議論します。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
14	現代の短歌（ライトヴァース）を扱います。社会の中で生きる個人から生み出される詩の言葉について話し合います。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
15	現代詩という視点からヒップホップの歌詞を精読します。意味とリズムに加え、同時代の文脈を探して議論します。					事前：課題作を読んでくる 事後：レポート準備		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
教本： 授業で資料を配布します。					参考文献： 教室で提示します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（50％）、定期試験（50％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業で詩をじっくり読んで、レポート課題に取り組みましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	憲法（Constitutional Law）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	高橋 基樹								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 国家の基本法である憲法は、私たちの人権をよりよく保障するために、国家機関に権力を授け、かつそれが暴走しないように一定の制限を定めている。本科目では、こうした国民の「人権」を保障した憲法の意義を学んで理解し、基礎的な法的知識および法的思考を身につけてもらうことをねらいとして講義する。									
授業目標： 1. 「憲法」とはどのような法であるのか、その特徴を理解し、「人権保障」の意義を認識すること 2. 人権保障のために「憲法」に定められたシステムに関する基本的知識を修得し、それを具体的に説明できるようになること									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	憲法とは何か					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義	
2	人権とは何か・人権保障のための裁判所					事前：教科書 1・18・23・24 事後：教科書 1・18・23・24		講義	
3	人権の享有主体					事前：教科書 2 事後：教科書 2		講義	
4	幸福追求権①（自己情報コントロール権）					事前：教科書 3 事後：教科書 3		講義	
5	幸福追求権②（生命に対する権利）					事前：教科書 3 事後：教科書 3		講義	
6	法の下での平等と平等原則					事前：教科書 4 事後：教科書 4		講義	
7	精神的自由①（内心の自由）					事前：教科書 5・6 事後：教科書 5・6		講義	
8	精神的自由②（表現の自由）					事前：教科書 7・8 事後：教科書 7・8		講義	
9	経済的自由（職業選択の自由・財産権）					事前：教科書11・12 事後：教科書11・12		講義	
10	社会権・生存権					事前：教科書13 事後：教科書13		講義	
11	環境権・平和的生存権					事前：教科書 3・13・28 事後：教科書 3・13・28		講義	
12	人身の自由					事前：教科書17 事後：教科書17		講義	
13	国民主権					事前：教科所18 事後：教科書18		講義	
14	選挙制度と参政権					事前：教科書16 事後：教科書16		講義	
15	国会と内閣					事前：教科書19～22 事後：教科書19～22		講義	
教本： 斎藤一久・堀口悟郎(編)『図録 日本国憲法 第2版』 (弘文堂) ¥2,300+税					参考文献： 講義中に紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況・レポート提出等の通常講義回に基づいた平常点（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 本科目で取り上げるトピックスについては、受講者の希望をできる限り取り入れ、現在起きている社会問題について新聞記事などを活用して取り上げたいと考える。そのため、最近の憲法をめぐるニュースについて関心をもつことを期待する。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義										
授業科目(英文)	憲法学Ⅰ（Japanese Constitutional Law Ⅰ）						科目分類	専門科目											
担 当 教 員	高橋 基樹																		
履 修 条 件	前提科目	なし																	
	そ の 他	なし																	
授業概要： 国家の基本法である憲法は、私たちの人権をよりよく保障するために、国家機関に権力を授け、かつそれが暴走しないように一定の制限を定めている。 本科目では、こうした国民の「人権」を保障した憲法の意義を学び、日本国憲法における基本的人権保障の適切なあり方について理解することを目的とする。																			
授業目標： 1. 「憲法」とはどのような法であるのか、その特徴を理解し、「人権保障」の意義を認識すること 2. 日本国憲法に定められた人権保障の適切なあり方について、具体的に説明できるようになること																			
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）																			
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養												
			◎				○												
授業計画、事前学習・事後学習、形式																			
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態											
1	憲法とは何か					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義											
2	人権とは何か・人権保障の歴史と憲法裁判					事前：教科書 1・18・23・24 事後：教科書 1・18・23・24		講義											
3	人権の享有主体①（外国人・法人の人権）					事前：教科書 2 事後：教科書 2		講義											
4	人権の享有主体②（未成年・公務員の人権）					事前：教科書 2 事後：教科書 2		講義											
5	幸福追求権と人権の限界①（幸福追求と人権保障）					事前：教科書 3 事後：教科書 3		講義											
6	幸福追求権と人権の限界②（生命に対する権利）					事前：教科書 3 事後：教科書 3		講義											
7	法の下での平等（平等原則の意味）					事前：教科書 4 事後：教科書 4		講義											
8	精神的自由①（内心の自由）					事前：教科書 5・6 事後：教科書 5・6		講義											
9	精神的自由②（表現の自由の優越）					事前：教科書 7・8 事後：教科書 7・8		講義											
10	精神的自由③（表現の自由の限界）					事前：教科書 7・8 事後：教科書 7・8		講義											
11	経済的自由①（財産権）					事前：教科書11・12 事後：教科書11・12		講義											
12	経済的自由②（財産権）					事前：教科書11・12 事後：教科書11・12		講義											
13	社会権・生存権					事前：教科書13 事後：教科書13		講義											
14	人身の自由①（被疑者・被告人の権利）					事前：教科書17・23 事後：教科書17・23		講義											
15	人身の自由②（受刑者の処遇）					事前：教科書17・23 事後：教科書17・23		講義											
教本： 斎藤一久・堀口悟郎(編)『図録 日本国憲法 第2版』 (弘文堂) ¥2,300+税										参考文献： 講義中に紹介する。									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況・レポート提出等の通常講義回に基づいた平常点（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。																			
学生へのアドバイス： 本科目で取り上げるトピックスについては、受講者の希望をできる限り取り入れ、現在起きている社会問題について新聞記事などを活用して取り上げたいと考える。そのため、最近の憲法をめぐるニュースについて関心をもつことを期待する。																			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																			

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	憲法学Ⅱ（Japanese Constitutional Law Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高橋 基樹								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 国家の基本法である憲法は、私たちの人権をよりよく保障するために、国家機関に権力を授け、かつそれが暴走しないように一定の制限を定めている。本科目では、こうした国民の「人権」を保障した憲法の意義を学び、そのために存在する統治機構の役割についてを理解することを目的とする。									
授業目標： 1. 「憲法」とはどのような法であるのか、その特徴を理解し、「人権保障」の意義を認識すること 2. 人権保障のために「憲法」に定められた統治機構の役割を認識し、それを具体的に説明できるようになること									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	憲法と統治機構との関係性					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義	
2	日本国憲法史（大日本帝国憲法と日本国憲法）					事前：教科書29 事後：教科書29		講義	
3	立憲主義と国民主権					事前：教科所18 事後：教科書18		講義	
4	参政権の保障と日本の選挙制度					事前：教科書16 事後：教科書16		講義	
5	国会議員の拘束と一票の格差問題					事前：教科書16・20 事後：教科書16・20		講義	
6	国会と内閣の関係①（権力分立と立法権・行政権の区別）					事前：教科書19～22 事後：教科書19～22		講義	
7	国会と内閣の関係②（国会の地位）					事前：教科書19 事後：教科書19		講義	
8	国会と内閣の関係③（内閣・首相の地位）					事前：教科書21 事後：教科書21		講義	
9	裁判所の役割①（司法権の意味と範囲）					事前：教科書23・24 事後：教科書23・24		講義	
10	裁判所の役割②（裁判員制度）					事前：教科書23・24 事後：教科書23・24		講義	
11	裁判所の役割③（憲法訴訟）					事前：教科書23・24 事後：教科書23・24		講義	
12	地方自治					事前：教科書25 事後：教科書25		講義	
13	平和的生存権					事前：教科書 3・13・28 事後：教科書 3・13・28		講義	
14	憲法改正					事前：教科書30 事後：教科書30		講義	
15	国際社会と日本国憲法					事前：配布資料の予習 事後：配布資料の復習		講義	
教本： 斎藤一久・堀口悟郎(編)『図録 日本国憲法 第2版』 (弘文堂) ¥2,300+税					参考文献： 講義中に紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況・レポート提出等の通常講義回に基づいた平常点（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 本科目で取り上げるトピックスについては、受講者の希望をできる限り取り入れ、現在起きている社会問題について新聞記事などを活用して取り上げたいと考える。そのため、最近の憲法をめぐるニュースについて関心をもつことを期待する。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	行動観察法 (Behavior Observation Method)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	菅沼 憲治								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 一般論として観察にはメガネが必要である。先人の心理学者は、理論構築の枠組みを、メガネにし、行動観察の業績を残している。本講義は、ERIC BERNE により生み出された交流分析の基礎理論を学ぶ。									
授業目標： 交流分析 (TRANSACTIONAL ANALYSIS : TA) における行動観察のポイントを学習する。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	TA の発展に関する考察					事前：シラバスの精読 事後：復習する		講義	
2	自律性とはなにか					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
3	TA の定義と哲学 (基本理念)					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
4	脚本の起源					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
5	ストローク					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
6	値引き					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
7	4つの受動的行動					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
8	構造分析					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
9	交流の分析					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
10	脚本の発達					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
11	ラケット分析					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
12	ゲーム分析					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
13	社交上の時間の構造化					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
14	契約的手法					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
15	まとめ					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義	
教本：『TA ベイシックス』、深沢道子監修、日本 TA 協会 参考文献：『エリック・バーン 人生脚本のすべて』、江花昭一監訳、星和書店									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等 (60%)、小テスト・レポート等 (40%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 自己分析と他者及び状況観察への取り組みが大切な授業です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	行動観察法演習（Practical Training of Behavior Observation）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	菅沼 憲治								
履 修 条 件	前提科目	行動観察法を履修済みであること							
	そ の 他	なし							
授業概要： 行動観察は、心理学の有力な研究方法である以上に心理面接技法として発展している。本講義は、心理面接を対象にして行動記録を映像と音声で記録し検討することにより行動観察のスキルを習得する。									
授業目標： 心理面接のコミュニケーションの2側面であるプロセスとコンテツを理解することで行動観察リテラシーを習得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			○				◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの精読 事後：復習する		講義	
2	心理面接に関する包括的問題点とは					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
3	面接の始まりと守秘義務					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
4	ラポール、共感、リフレクション					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
5	主訴の歴史					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
6	病歴					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
7	精神状態の査定					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
8	インテーク面接のまとめ方					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
9	防衛的になることへの対処					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
10	多弁なクライアントに対処する					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
11	面接を終わらせる					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
12	いつ紹介するかを知る					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
13	治療ターゲットを定める					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
14	ケースフォーミュレーションの意味					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
15	まとめ					事前： 事後：復習		講義	
教本： 「ピアヘルパー ハンドブック」日本教育カウンセラー協会 編 図書文化					参考文献： 授業中に随時紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（60%）、小テスト・レポート等（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 記録した資料を分析し気づいた点を考察する姿勢を持ちつつ授業に参加する。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	行動分析学（Behavior Analysis）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	菅 沼 憲 治								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 私たちが日常生活で何気なくしている行動、どうしてもやめられない行動は、どのようにして形成されたものなのだろうか。行動分析学では、行動の原因を個体の内部ではなく環境との関係から理解する。その理論は、子どもの発達支援等、多くの分野に応用されている。本講義では、行動分析学に基づき、行動がどのように形成され、行動をどのような方法で変容させることができるのかについて学ぶ。									
授業目標： 行動形成のメカニズムを分析し、行動変容の手段を考えることができるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
2	行動とは何か					事前：資料確認・課題検討 事後：具体的な事例について考える		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
3	学習理論					事前：資料確認・課題検討 事後：具体的な事例について考える		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
4	行動随伴性					事前：資料確認・課題検討 事後：具体的な事例について考える		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
5	強化子出現による強化					事前：資料確認・課題検討 事後：具体的な事例について考える		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
6	弱化石消失による強化					事前：資料確認・課題検討 事後：具体的な事例について考える		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
7	弱化石出現による弱化					事前：資料確認・課題検討 事後：具体的な事例について考える		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
8	強化子消失による弱化					事前：資料確認・課題検討 事後：具体的な事例について考える		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
9	やめたいのにやめられない行動、しなくてはならないのにできない行動					事前：資料確認・課題検討 事後：具体的な事例について考える		グループディスカッション 60分、講義 30分	
10	行動をどのように変えるか①					事前：資料確認・課題検討 事後：具体的な事例について考える		講義 60分、ディスカッション 30分	
11	行動をどのように変えるか②					事前：資料確認・課題検討 事後：具体的な事例について考える		講義 60分、ディスカッション 30分	
12	行動分析学を用いた事例プレゼンテーション①					事前：資料確認・課題検討 事後：具体的な事例について考える		講義 20分、ディスカッション 30分、発表 40分	
13	行動分析学を用いた事例プレゼンテーション②					事前：資料確認・課題検討 事後：具体的な事例について考える		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
14	行動分析学を用いた事例プレゼンテーション③					事前：資料確認・課題検討 事後：具体的な事例について考える		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
15	まとめ					事前：授業全般の復習 事後：理解の補完		講義	
教本： 「行動分析学 行動の科学的理解をめざして」坂上貴之・井上雅彦 著、参考文献： 有斐閣アルマ									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、テスト（50%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 講義には、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れる。毎回の講義終了時には、コメントペーパーに講義内容から考えたことを書いて提出していただく。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	国語（子どもとコミュニケーション）（Japanese）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	古金 悦子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本授業では、母国語の特質とその役割について理解させ、そのうえで母国語の力を育むことの意味を考えさせる。また幼児期の言語力育成の観点から、「話す・聞く・読む・書く」に分けて概説し、幼児教育者に必要な知識・理論を身につけるよう授業を行う。幼児の言葉・コミュニケーション力の発達の過程を理解させ、幼児の母国語力を高めるために必要な知識・理論を教授する。授業形式は、講義と演習を組み合わせで実施する。									
授業目標： ・母国語の重要性を理解し、幼児の言葉の特質及び言葉の教育の持つ意味を理解する。 ・乳幼児の言語・コミュニケーション発達の発達過程を知る。 ・就学までに身につけさせたいコミュニケーション能力と、それを育む教育内容を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	母国語の特質について学び母国語力を育む意味を考える					事前：シラバスを読んでおく 事後：授業ポイントをまとめる		講義 50分、演習 40分	
2	幼稚園教育要領と小学校学習指導要領「国語」を比較し、母国語の教育について考える					事前：幼稚園教育要領を読んでおく 事後：課題レポートを作成する		講義 30分、演習 30分 発表 30分	
3	幼児の言葉の発達とコミュニケーション力の育ちについて学び、保育者の役割を考える					事前：前時の復習をしておく 事後：授業ポイントをまとめる		講義 40分、演習 40分 発表 10分	
4	言語の特徴－「話す」・「聞く」・「書く」・「読む」ことについて演習を通してその関わりを理解する					事前：関係資料を読む 事後：授業ポイントをまとめ、理解を深める		講義 20分、演習 70分	
5	会話表現について理解する幼児期の「話す」・「聞く」力をつけるために必要なことを考える					事前：前時の復習をしておく 事後：配布資料をまとめる		講義 20分、演習 70分	
6	乳幼児期の発達の特性を理解し、その会話と援助について考察する					事前：前時の復習をする 事後：授業ポイントの復習		講義 50分、演習 40分	
7	幼児が文字に接するとき日常生活の中でどのような文字との出会いがあるのか考え発表する					事前：関係資料を読む 事後：授業ポイントについて整理し、理解を深める		講義 30分、ペア・ワーク 40分、発表 20分	
8	児童文学に親しむ。様々な児童文化財の中から、絵本の読み聞かせや素話を取り上げ、実践を通して学んでいく					事前：前時の復習をする 事後：授業ポイントをまとめる		講義 30分、演習 60分	
9	幼児期に言葉で自分の気持ちを現すことを支援するために必要なことを考える					事前：配布資料を読んでおく 事後：授業ポイントをまとめる		講義 20分、グループ・ワーク 60分、発表 20分	
10	幼児が触れる美しい文字・正しい表記について演習を通して考える					事前：関係資料を読む 事後：授業ポイントについて整理し、理解を深める		講義 50分、演習 40分	
11	幼児と平仮名、片仮名、漢字表現の関わりについて考える					事前：関係資料を読む 事後：授業ポイントについて整理し、理解を深める		講義 50分、演習 40分	
12	保育者として必要な敬語の種類・敬語の働きについて考え発表する					事前：身の回りの敬語表現について考える 事後：授業ポイントについて整理し、理解を深める。		講義 30分、グループ・ワーク 40分、発表 20分	
13	幼児のコミュニケーション力と協調性・社会性の関係について事例から検討する					事前：前時の復習をする 事後：授業ポイントをまとめる		グループワーク 60分、全体討議 30分	
14	人的環境としての保育者の役割を理解しその必要な言語表現力を身に付ける					事前：資料を読んでおく 事後：授業ポイントをまとめる		講義 30分、演習 60分	
15	これまでの学びをもとに就学までに身につけたい言語力について考察し保育者の援助について自分の考えをまとめる					事前：前時までの資料を見直し 事後：これまでの総復習をする		グループワーク 30分、発表 60分	
教本： 必要に応じて資料を配布する。					参考文献： 幼稚園教育要領・小学校国語学習指導要領 保育者になるための国語表現 田神貞一郎著 萌文書林				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、発表・レポート等（20%）、授業内試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 日頃からニュースや新聞など身の回りの言葉に興味を持ち、過ごしてほしい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	国 際 開 発 経 済 論 I (International Economic Development I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	宮 崎 隆								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要： 先進国という分類がありますが、その対極に発展途上国ないしは低開発国があります。これらの国は一般に貧困国で、経済発展が困難です。国際開発経済論は主として、こうした貧困の要因と環境を分析するとともに、いかに経済発展の緒につくことができるかを論じます。なお、本講座は総論、「国際開発経済論 II」は各論を扱います。									
授 業 目 標： 1. 発展途上国の現状を理解する。 2. 発展途上国が経済成長・発展するためにどうするべきかを考える。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学 習 課 題）		授 業 形 態	
1	ガイダンス： (1) 講義の進め方と範囲について説明。(2) 予備資料の配布					事前：用語表の作成 事後：講義内容の要約		講義	
2	発展途上国について： いわゆる先進国と発展途上国、新興国の定義と分類。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
3	貧困の経済学 1：人口問題 (1) マルサスの「人口論」 (2) 途上国の人口問題					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
4	貧困の経済学 2：地理的要因 (1) 交通・物流の問題 (2) 低人口密度 (3) 疾病					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
5	貧困の経済学 3：教育と技術、人的要因 (1) 低所得と低い教育水準、識字率の低さ。(2) 困難な技術移転					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
6	貧困の経済学 4：社会・政治的要因 (1) 治安の悪化、テロ (2) 災害と自然環境の破壊。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
7	経済成長・発展論 1：W. ロストウの「5 段階発展論」 (1) なぜ「テイクオフ」できないか (2) 経済成長・発展の条件					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
8	経済成長・発展論 2：イノベーションとは (1) J. A. シュンペーターの「経済発展論」 (2) J. V. ノイマンのターンパイク理論					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
9	途上国と金融 (1) 累積債務問題にみる途上国の経済発展の難しさ (2) 途上国への直接投資					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
10	途上国の国際経済学 1：資源と貿易 (1) 途上国に偏在する資源の輸出入 (2) エネルギー資源のシフト					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
11	途上国の国際経済学 2：教育と栄養 飢餓対策として途上国に資金援助しても摂取カロリーは増加しないと言われている。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
12	途上国から先進国へ 1：日本 日本は高度経済成長期を経て世界第三位の大国になった。日本モデルが途上国に应用可能か。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
13	途上国から先進国へ 2：中国 世界第二位の経済大国に成長した中国モデルが途上国に应用できるかを考察する。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
14	援助の経済学：なぜ支援するのか (1) 共通利益と自己利益 (2) 道義的理由他					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
15	持続可能な開発目標 (SDGs) の視点：新技術とインフラ整備、貧困と飢餓の撲滅、質の高い教育、ジェンダー平等					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
教 本： なし。(適宜、資料を配布します。)					参 考 文 献： なし。(随時情報源を提示します。)				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (80%) 等で総合評価する。なお、指定のレポートの他に追加の自主レポートの提出を認め、成績に加算します。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 本講座の理解を深め、経済(学)的に社会をとらえる訓練するためにメディア情報にふれてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	国 際 開 発 経 済 論 Ⅱ （International Economic Development Ⅱ）						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	宮 崎 隆								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	国 際 開 発 経 済 論 Ⅰ を 履 修 し て い る こ と が 望 ま し い。							
授業概要： 国際開発経済論Ⅰでは、発展途上国固有の問題を概説し、なぜ途上国が経済成長できないかを解説しました。本講座は前講座を基礎にして現代の国家間格差問題をさらに掘り下げて論じます。世界に遍在する発展途上国を取り上げ、どのような問題があるか。経済成長するためには何が必要か。何を变えればよいかを説明します。									
授業目標： 世界経済を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （ 詳 細 に 記 入 ）					事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題 ）		授 業 形 態	
1	ガイダンス： (1) 講義の進め方と範囲の説明 (2) 評価の方法 (3) 予備資料の配布					事前：用語表の作成 事後：講義内容の要約		講義	
2	貧困の経済地理学：発展途上国の地理的分布 「南北問題」とは何か。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
3	国連開発計画委員会による後開発途上国 1：アフリカ アンゴラ、ベナン、ブルンジ、中央アフリカ等					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
4	国連開発計画委員会による後開発途上国 2：アジア アフガニスタン、バングラデシュ、ブータン、カンボジア等					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
5	国連開発計画委員会による後開発途上国 3：大洋州 キリバス、ソロモン諸島、ツバル					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
6	世界銀行経済グループ分類 4：中南米 ハイチ					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
7	工業：途上国の工業化による経済成長 (1) 従属理論 (2) 多国籍企業					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
8	農業：飢餓をゼロに (1) 「緑の革命」 (2) 様々な支援策					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
9	エネルギー：電力 (1) 三つの L (Low Cost, Low Carbon, Low Risk) (2) エネルギー・アクセスの向上					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
10	投資：社会貢献型金融商品 (1) グリーン・ボンド、マイクロファイナンス、ワクチン債 (2) 途上国への直接投資					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
11	情報ネットワーク： (1) デジタル・デバイド (2) 政治問題としてのネットワーク化					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
12	貿易にみる途上国との関係：(1) わが国の産業を支える発展途上国 (2) わが国のエネルギーを支える発展途上国					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
13	日本企業の途上国への進出事例 1：TOWA JAPAN グループ 1995年ベトナムに、2003年中国上海に進出。					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
14	日本企業の途上国への進出事例 2：スズキ自動車 1981年インドに進出。シェア38%					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
15	海外進出と ODA：JETRO と JICA わが国の海外進出支援組織					事前：配布資料の精読 事後：講義の要約		講義 60分とディスカッション 15分、 発表 15分	
教本： なし。(適宜、資料を配布します。)					参考文献： 随時情報源を提示します。 DVD 映画『ホテル・ルワンダ』2004				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (80%) 等で総合評価する。なお、指定のレポートの他に追加の自主レポートの提出を認め、成績に加算します。									
学生へのアドバイス： 本講座の理解を深め、経済(学)的に社会をとらえる訓練するためにメディア情報にふれてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	国際関係論Ⅰ（International RelationsⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高橋 敏哉								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	そ の 他	世界史、日本史の基礎的な知識が必要です。							
授業概要： 国際関係論の入門を身近な素材を使いながら進めます。国際情勢を理解することから始め、国際関係の基本概念を学んでいきます。Ⅰにおいては現実主義の国際関係論のパースペクティブから国際関係を見る訓練を行います。									
授業目標： 1. 国際関係の諸問題への関心を高める。 2. 国際関係論のパースペクティブである現実主義の概略を知る。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：国際関係論はどのようなことを学ぶのか、なぜ生まれたのかを中心に話します。					事前：特になし 事後：配布物精読		講義（対話式を講義の半分に採用）	
2	分析のための視点とは？：現実主義、自由主義、構成主義の3つの視点の概要を紹介します。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 45分 対話式 45分	
3	国際関係とウェストファリア体制：ウェストファリア体制とは何か。また主権と内政不干渉の問題を扱います。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 45分 対話式 45分	
4	現実主義① 現実主義の思想：トゥキディデスの「歴史」の現実主義的思想の理解を深めます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 45分 対話式 45分	
5	現実主義② 現実主義の思想：マキャベリの現実主義的思想の理解を深めます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 45分 対話式 45分	
6	現実主義③ 現実主義の思想：ホッブスの現実主義的思想を見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 45分 対話式 45分	
7	現実主義④ 現実主義の思想・理論：カー、モーゲンソーの思想と現実主義の理論を見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 45分 対話式 45分	
8	現実主義⑤ 新現実主義の理論：ウォルトとミアシュミアーの現実主義の理論を見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 45分 対話式 45分	
9	現実主義⑥ 現実主義の理論：キッシンジャーの議論を紹介しながら、バランス・オブ・パワーの意味を理解します。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 45分 対話式 45分	
10	現実主義⑦ 現実主義の理論：近代ヨーロッパの国際関係を紹介しながら、バランス・オブ・パワーの意味を理解します。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 45分 対話式 45分	
11	第一次世界大戦とバランス・オブ・パワー：第一次世界大戦の原因としてのバランス・オブ・パワーの失敗について触れます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 45分 対話式 45分	
12	第二次世界大戦とバランス・オブ・パワー：第一次世界大戦の原因としてのバランス・オブ・パワーの失敗について触れます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 45分 対話式 45分	
13	冷戦とバランス・オブ・パワー：冷戦におけるバランス・オブ・パワーの意味の変化を見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 45分 対話式 45分	
14	ポスト冷戦とバランス・オブ・パワー：ポスト冷戦期における米中対立を見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 45分 対話式 45分	
15	国際関係の諸課題をどう見るか：国際関係を見るために我々が持つべき視点を整理します。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義 45分 対話式 45分	
教本： 毎回ハンドアウト（配布資料）に従って進めます。					参考文献： 各回の講義の中で必要に応じお知らせします。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（授業態度、講義中の質問への回答含む）（50％）、レポート・定期試験（50％）等を目安に総合評価する。授業参加状況等が基準に満たない場合は、レポート等の評価はしない。									
学生へのアドバイス： 国際関係論はこれからの時代にとっても重要なものです。講義の効果を上げるためには、普段からテレビ、新聞、ネットでの国際関係に関するニュースに気に留めておくことが大事です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	国際関係論Ⅱ（International RelationsⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高橋 敏哉								
履 修 条 件	前提科目	できれば国際関係論Ⅰを履修済であること。							
	そ の 他								
授業概要： 国際関係論の入門を身近な素材を使いながら進めます。国際情勢を理解することから始め、国際関係の基本概念を学んでいきます。Ⅱにおいては自由主義の国際関係論のパースペクティブから国際関係を見る訓練を行います。									
授業目標： 1. 国際関係の諸問題への関心を高める。 2. 国際関係論のパースペクティブである自由主義の概略を知る。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：講義全体の流れと、国際関係論の諸分野の概略をお話しします。					事前：特になし 事後：配布物精読		講義（対話式を講義の半分に採用）	
2	国際関係論の現実主義と自由主義：Ⅰで学んだ現実主義を復習しながら、自由主義のパースペクティブの概要を見ます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義50分、 ディスカッション40分	
3	自由主義 自由主義の思想①：政治学での自由主義の3つの伝統を学びます。国際関係の場面との違いを知ります。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義50分、 ディスカッション40分	
4	自由主義 自由主義の思想②：カント、ベンサムの国際関係思想を中心に、自由主義的国際主義を学びます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義50分、 ディスカッション40分	
5	自由主義 自由主義の思想③：コブデンの商業主義的自由主義とその歴史的背景を学び、今日での応用を考えます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義50分、 ディスカッション40分	
6	自由主義 自由主義の理論①：戦間期のアイデアリズムを学びます。とりわけ「法」による解決の場面を見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義50分、 ディスカッション40分	
7	自由主義 自由主義の理論②：戦間期のアイデアリズムを学びます。理性と教育、民主主義について見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義50分、 ディスカッション40分	
8	自由主義 自由主義の理論③：戦間期のアイデアリズムを学びます。集団的安全保障の仕組みを見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義50分、 ディスカッション40分	
9	自由主義 自由主義の理論④：自由主義的制度論を学び、機能主義から統合論の流れを見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義50分、 ディスカッション40分	
10	自由主義 自由主義の理論⑤：新自由主義を学び、アナキーの中の協力について学んでいきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義50分、 ディスカッション40分	
11	自由主義 自由主義の理論⑥：国際レジーム論、相互依存論を学びます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義50分、 ディスカッション40分	
12	自由主義 自由主義の理論⑦：民主的平和論を学び、その論理と限界を学びます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義50分、 ディスカッション40分	
13	自由主義 自由主義の理論⑧：安全保障共同体論を学び、その特徴を見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義50分、 ディスカッション40分	
14	第二次世界大戦後の自由貿易と安全保障：戦後の自由貿易体制の果たした安全保障、国際秩序での役割を見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義50分、 ディスカッション40分	
15	まとめ：学習した内容を踏まえ、自由主義の国際関係論の可能性を探っていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義50分、 ディスカッション40分	
教本： 毎回ハンドアウトを配布します。					参考文献： 毎回ハンドアウトを配布します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（授業態度、講義中の質問への回答含む）（50%）、レポート・定期試験（50%）等を目安に総合評価する。授業参加状況等が基準に満たない場合は、レポート等の評価はしない。									
学生へのアドバイス： 国際関係論Ⅰを更に深めます。日本の周りの国際環境は大きく変わろうとしています。この講義は国際関係を考えるための視点を養うことに力点を置いています。自ら考えていくことが将来の皆さんに重要なことです。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	国際観光論（International Tourism）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	田中 一郎								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 国際観光（国際観光）には、経済効果・雇用促進効果と国際相互理解（ひいては世界平和）への貢献という大きな意義があり、各国が国際観光の促進に力を入れている。日本も例外ではない。国際観光論Ⅰでは、国際観光とは何か、国際観光の意義、世界および日本における国際観光の現状、観光・マーケティング、日本の国際観光政策など、国際観光についての基礎を学ぶ。									
授業目標： 1. 国際観光（国際観光）の意義と世界における現状を理解すること 2. 日本における国際観光の現状を理解し、その重要性を認識すること									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	導入授業：授業の進め方と授業概要の説明					事前：なし 事後：今回の授業内容		講義	
2	第1章 観光（観光）とは何か：観光の定義、観光の形態、観光の構成要素、観光研究の方法等、まとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
3	第2章 国際観光の意義：経済効果と雇用促進、相互理解の増進による世界平和への貢献、まとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
4	第3章 世界の国際観光の動向と変遷：世界の国際観光の変遷					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
5	第3章 世界の国際観光の動向と変遷：世界の国際観光の動向（国際旅行客数と国際観光収入・支出）、まとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
6	第4章 日本の国際観光の動向と変遷：訪日外国人旅行（変遷、現状）					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
7	第4章 日本の国際観光の動向と変遷：訪日外国人旅行（現状）、日本人海外旅行、まとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
8	第5章 観光・マーケティング：デスティネーション・マーケティングとは、魅力あるデスティネーションづくり					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
9	第5章 観光・マーケティング：効果的な宣伝、ターゲット・マーケットの選定、まとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
10	小テスト					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
11	第6章 日本の国際観光政策と日本政府観光局：観光立国推進基本法、観光立国推進基本計画					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
12	第6章 日本の国際観光政策と日本政府観光局：日本の国際観光政策					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
13	第6章 日本の国際観光政策と日本政府観光局：日本の国際観光政策、ビジット・ジャパン事業					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
14	第6章 日本の国際観光政策と日本政府観光局：日本政府観光局、まとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
15	全体のまとめ：第1章～6章全体を振り返り、重要なポイントを説明					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
教本： 教科書は使用しない。プリントを配付する。					参考文献： 適宜、紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 世界の他の国々と同様に日本においても国際観光はますます重要な産業となってきた。授業を通してその重要性を理解してもらいたい。毎回出席するよう努めよう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	国際観光論Ⅰ（International TourismⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	田中 一郎								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 国際ツーリズム（国際観光）には、経済効果・雇用促進効果と国際相互理解（ひいては世界平和）への貢献という大きな意義があり、各国が国際ツーリズムの促進に力を入れている。日本も例外ではない。国際観光論Ⅰでは、国際ツーリズムとは何か、国際ツーリズムの意義、世界および日本における国際ツーリズムの現状、ツーリズム・マーケティング、日本の国際ツーリズム政策など、国際ツーリズムについての基礎を学ぶ。									
授業目標： 1. 国際ツーリズム（国際観光）の意義と世界における現状を理解すること 2. 日本における国際ツーリズムの現状を理解し、その重要性を認識すること									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	導入授業：授業の進め方と授業概要の説明					事前：なし 事後：今回の授業内容		講義	
2	第1章 ツーリズム（観光）とは何か：ツーリズムの定義、ツーリズムの形態、ツーリズムの構成要素、ツーリズム研究の方法等、まとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
3	第2章 国際ツーリズムの意義：経済効果と雇用促進、相互理解の増進による世界平和への貢献、まとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
4	第3章 世界の国際ツーリズムの動向と変遷：世界の国際ツーリズムの変遷					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
5	第3章 世界の国際ツーリズムの動向と変遷：世界の国際ツーリズムの動向（国際旅行客数と国際ツーリズム収入・支出）、まとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
6	第4章 日本の国際ツーリズムの動向と変遷：訪日外国人旅行（変遷、現状）					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
7	第4章 日本の国際ツーリズムの動向と変遷：訪日外国人旅行（現状）、日本人海外旅行、まとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
8	第5章 ツーリズム・マーケティング：デスティネーション・マーケティングとは、魅力あるデスティネーションづくり					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
9	第5章 ツーリズム・マーケティング：効果的な宣伝、ターゲット・マーケットの選定、まとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
10	小テスト					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
11	第6章 日本の国際ツーリズム政策と日本政府観光局：観光立国推進基本法、観光立国推進基本計画					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
12	第6章 日本の国際ツーリズム政策と日本政府観光局：日本の国際ツーリズム政策					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
13	第6章 日本の国際ツーリズム政策と日本政府観光局：日本の国際ツーリズム政策、ビジット・ジャパン事業					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
14	第6章 日本の国際ツーリズム政策と日本政府観光局：日本政府観光局、まとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
15	全体のまとめ：第1章～6章全体を振り返り、重要なポイントを説明					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
教本： 教科書は使用しない。プリントを配付する。					参考文献： 適宜、紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 世界の他の国々と同様に日本においても国際ツーリズムはますます重要な産業となってきた。授業を通してその重要性を理解してもらいたい。毎回出席するよう努めよう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	国際観光論Ⅱ（International TourismⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	田中 一郎								
履 修 条 件	前提科目	国際観光論Ⅰを修得していること							
	そ の 他	なし							
授業概要： 国際ツーリズム（国際観光）には、経済効果・雇用促進効果と国際相互理解（ひいては世界平和）への貢献という大きな意義があり、各国が国際ツーリズムの促進に力を入れている。日本も例外ではない。国際観光論Ⅱでは、主要訪日旅行マーケットの現状、国際会議誘致、地方における国際ツーリズムへの取り組み、ツーリズム産業における国際ツーリズムなど、国際ツーリズムに関する具体的かつ詳細な内容について学び、日本の国際ツーリズムを発展させるためにどのようなことができるかを考える。									
授業目標： 1. 訪日旅行マーケット、国際会議等、地方の取り組み、ツーリズム産業での国際ツーリズム、国際ツーリズムと環境を理解すること 2. 日本にとっての国際ツーリズムの重要性を認識し、日本の国際ツーリズムを発展させるためにはどうしたらよいかを考えること									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	導入授業：授業の進め方と授業概要の説明					事前：なし 事後：今回の授業内容		講義	
2	第1章 主要訪日旅行マーケットの規模と特性：韓国・台湾マーケット					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
3	第1章 主要訪日旅行マーケットの規模と特性：中国・香港マーケット					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
4	第1章 主要訪日旅行マーケットの規模と特性：タイ・シンガポール・豪州マーケット					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
5	第1章 主要訪日旅行マーケットの規模と特性：米国・カナダ・英国・フランス・ドイツマーケット、まとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
6	第2章 国際会議・インセンティブトラベル（報奨旅行）：MICEの意義、世界における国際会議、日本における国際会議					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
7	第2章 国際会議・インセンティブトラベル（報奨旅行）：インセンティブトラベル（報奨旅行）、MICEの誘致、まとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
8	第3章 地方における国際ツーリズムに対する取り組み、まとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
9	小テスト					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
10	第4章 国際ツーリズムと交通産業・宿泊業・旅行業：交通産業					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
11	第4章 国際ツーリズムと交通産業・宿泊業・旅行業：宿泊業					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
12	第4章 国際ツーリズムと交通産業・宿泊業・旅行業：旅行業、まとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
13	第5章 ツーリズム調査：ツーリズム調査とは、ツーリズム調査のプロセス、ツーリズム調査の方法、日本のツーリズム調査統計、まとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
14	第6章 国際ツーリズムと環境：エコツーリズム、持続可能な発展のための実践の現状、日本の取り組み、まとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
15	全体のまとめ：第1章～6章全体を振り返り、重要なポイントを説明					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
教本： 教科書は使用しない。必要に応じプリントを配布する。					参考文献： 適宜、紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 世界の他の国々と同様に日本においても国際ツーリズムはますます重要な産業となってきた。学生諸君も日本の国際ツーリズムの発展のために何ができるかを考えてみよう。毎回出席するよう努めよう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	国際経営論Ⅰ（International ManagementⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	佐久間 信夫								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	そ の 他								
授業概要： 市民の活動や企業の活動はグローバル化が進んでいる。国際化する社会で活動するためには国際経営についての知識が必要である。本講義では、国際経営についての基礎的な知識と理論および身近な事例について学習する。									
授業目標： (1) 学生が、国際経営を多国籍企業論との関係から体系的に把握し、これらに関する理論や学説などについて説明できる。 (2) 学生が、特定のケースに適した経営戦略のあり方はいかなるものであるかを考えることができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 授業の進め方、到達目標、成績評価基準などについて説明する。企業の事例を取り上げながら解説する。LTD とディスカッションについても説明する。					事前：テキストの確認 事後：講義計画の確認		講義 90分	
2	多国籍企業の概念と多国籍企業発展モデル① EPRG プロファイル ストップフォード＝ウェルズのモデル					事前：EPRG を下読み 事後：発展モデルをまとめる		講義 45分、LTD 45分	
3	多国籍企業の概念と多国籍企業発展モデル② 集権化、分権化、プロダクト・ライフ・サイクル					事前：PLC 理論の下読み 事後：集権化をまとめる		講義 90分	
4	多国籍企業の理論的発展過程① 産業組織論的アプローチ、内部化理論、市場の不完全性、取引コスト					事前：産業組織論的アプローチ 事後：取引コストをまとめる		講義 90分	
5	多国籍企業の理論的発展過程② 産業組織論的アプローチ、内部化理論、市場の不完全性、取引コスト					事前：プレゼンの準備 事後：プレゼンのまとめ		プレゼンテーション 90分	
6	多国籍企業と海外直接投資の歴史と現状 海外直接投資、資源開発型の海外直接投資、市場志向型の海外直接投資					事前：歴史と現状の下読み 事後：海外直接投資のまとめ		講義 45分、LTD 45分	
7	多国籍企業の集権化と分権化 本社機能と地域統括会社分化ネットワーク、地域統括会社					事前：地域統括会社の下読み 事後：分化ネットワーク		講義 90分	
8	多国籍企業と所有政策 非持分形態型進出、華人資本、商社参加型合併					事前：所有政策の下読み 事後：非持分形態型進出		講義 45分、LTD 45分	
9	多国籍企業の研究開発戦略 基礎研究、応用研究、開発研究、研究開発の分散と集中、研究者のマネジメント					事前：研究開発戦略 事後：研究者のマネジメント		プレゼンテーション 90分	
10	多国籍企業のロジスティックス戦略 QR、ECR、貨物追跡システム、集荷指令システム					事前：QR、ECR の下読み 事後：ロジスティックス戦略		講義 90分	
11	多国籍企業と企業倫理 企業倫理、倫理相対主義、企業倫理の制度化					事前：企業倫理の制度化 事後：倫理相対主義をまとめる		講義 90分	
12	EU 統合と多国籍企業の活動① EU 統合の歴史 欧州石炭鉄鋼共同体 EEC 通貨統合					事前：統合の歴史を下読み 事後：通貨統合をまとめる		プレゼンテーション 90分	
13	EU 統合と多国籍企業の活動② EU 統合、M&A 全型式認定、GSM 統一規格、公正さと調和の原則					事前：M&A を下読み 事後：公正さと調和の原則		講義 45分、LTD 45分	
14	NAFTA と多国籍企業の活動 NAFTA、米加自由貿易協定、原産地規則、米州自由貿易圏					事前：NAFTA を下読み 事後：FTA についてまとめる		プレゼンテーション 90分	
15	NAFTA と多国籍企業の活動 アセアン（ASEAN）、産業集積 メコン経済圏 経済特区 東西経済回廊					事前：東西経済回廊を下読み 事後：AEC をまとめる		LTD 90分	
教本： 佐久間信夫編著『現代の多国籍企業論』学文社 参考文献： 佐久間信夫責任編集『現代経営用語の基礎知識』学文社									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 企業活動がグローバル化を進める中で、日本企業の果たす役割の変化について学んでいきましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	国際経営論Ⅱ（International ManagementⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	佐久間 信夫								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	そ の 他								
授業概要： 今日、日本では中小企業にいたるまで、国際化が進展している。企業の国際的な取引はもちろん、人材の国際化により、外国人労働者も増加している。社会生活を営むうえでも国際経営の知識は不可欠になっている。									
授業目標： (1) 学生が、国際経営を多国籍企業論との関係から体系的に把握し、これらに関する理論や学説などについて説明できる。 (2) 学生が、特定のケースに適した経営戦略のあり方はいかなるものであるかを考えることができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 授業の進め方、到達目標、成績評価基準などについて説明する。企業の事例を取り上げながら解説する。LTDやディスカッションについても説明する。					事前：テキストの確認 事後：講義計画の確認		講義 90分	
2	国際経営の主要理論 フェアウェザーの国際経営の枠組み ダニングの折衷理論					事前：国際経営の次元 事後：EPRGをまとめる		講義 45分、LTD 45分	
3	グローバル組織の発展過程 国際事業部 グローバルな事業部 グローバルなマトリックス組織					事前：国際事業部の下読み 事後：地域統括会社をまとめる		講義 90分	
4	国際経営とグローバル人材の育成 国際人的資源管理とグローバル人材の育成 日本企業におけるグローバル人材育成					事前：国際経営環境の変化 事後：グローバル人事制度		講義 90分	
5	経営管理手法の国際移転 日本企業のグローバル化と生産システム 海外拠点の管理手法					事前：プレゼンの準備 事後：プレゼンのまとめ		プレゼンテーション 90分	
6	国際経営の立地展開と多国籍化 メコン地域における拠点立地環境 生産分野に関わる陸上交通網					事前：メコン地域の下読み 事後：消費の拡大のまとめ		講義 45分、LTD 45分	
7	グローバル・マーケティング戦略 グローバル・マーケティング戦略の枠組み マーケティング・マネジメント					事前：OEMについて下読み 事後：内部化理論をまとめる		講義 90分	
8	グローバル・アライアンス戦略 アライアンスの種類と目的 内部化理論とグローバル・アライアンス					事前：アライアンスの下読み 事後：内部化理論をまとめる		講義 45分、LTD 45分	
9	グローバルM&A戦略 成長戦略としてのクロスボーダーM&A 日本電産のM&A戦略					事前：プレゼンの準備 事後：プレゼンのまとめ		プレゼンテーション 90分	
10	EUの深化と国際経営 EU統合の歴史 EUの危機とドイツの躍進					事前：東方拡大の下読み 事後：ブレグジットをまとめる		講義 90分	
11	NAFTAにおける経済政策の変化と国際経営 NAFTAの創設とその内容 NAFTAの発展と国際分業					事前：NAFTAの下読み 事後：NAFTA再交渉		講義 90分	
12	アジアをつなぐAECと国際経営 ASEANの成立からAEC設立へ					事前：プレゼンの準備 事後：プレゼンのまとめ		プレゼンテーション 90分	
13	RCEPとインドの役割 ASEANの発展とRCEPの創設 AFTAとAFTAプラス					事前：RCEPを下読み 事後：AFTAプラスをまとめる		講義 45分、LTD 45分	
14	異文化マネジメント 国際経営と文化 組織における異文化マネジメント					事前：プレゼンの準備 事後：プレゼンのまとめ		プレゼンテーション 90分	
15	多国籍企業のCSR戦略 CSR戦略 CSRの歴史的展開と新パラダイム					事前：国際機関の指針を下読み 事後：企業の事例をまとめる		LTD 90分	
教本： 佐久間信夫編著『現代国際経営要論』創成社					参考文献： 佐久間信夫責任編集『現代経営用語の基礎知識』学文社				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 企業も市民の生活もグローバル化する中で、仕事や働き方がこれからどう変わっていくのか考えて行きましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	国際経済論Ⅰ（International EconomicsⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	宮崎 隆								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： マクロ経済学は消費や投資、経済政策などの相互関係を学びますが、これに貿易が加わった国際経済学はさらに多くの経済変数の相互依存関係を考えなければなりません。古くは国家間のモノの貿易だけでしたが、現在はサービス貿易の比率も上がり、円滑な取引を求めよりよい制度を模索しています。本科目は歴史と制度、理論の3分野を講義します。									
授業目標： メディア経済情報のリテラシーを高めて下さい。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス：(1)講義の進め方と情報収集法の説明。(2)経済学体系の概説と国際経済学のカテゴライズ。					事前：経済用語表を作成。 事後：講義内容の要約		講義	
2	世界の中の日本経済：“Japan as No.1” わが国は戦後23年でGNP 世界第二位まで成長する。この過程と要因とを解説する。					事前：資料の精読。 事後：講義内容の要約		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
3	ブレトンウッズ体制：国際通貨基金（IMF）と世界銀行、GATT。戦後の体制づくりとそのシステム。金本位制。					事前：資料の精読。 事後：講義内容の要約		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
4	固定相場制から変動相場制へ：ニクソン・ショック 米大統領R.ニクソンの「金とドルの兌換停止」宣言。					事前：資料の精読。 事後：講義内容の要約		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
5	為替レートの決定：為替リスクとは何か 円／ドル・レートは日々変動する。その理由と影響を説明する。					事前：資料の精読。 事後：講義内容の要約		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
6	国際収支とマクロ経済：「双子の赤字」とレーガノミクス 米大統領R.レーガンの経済政策とアメリカ経済。					事前：資料の精読。 事後：講義内容の要約		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
7	国際貿易の内訳：モノとサービス 近年はサービス収支（輸送や旅行、金融等）が増大している。その背景と動向を概説する。					事前：資料の精読。 事後：講義内容の要約		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
8	開放下の経済政策：マンデル・フレミング・モデル 閉鎖経済を前提としたケインズ・モデルを開放経済で拡張。					事前：資料の精読。 事後：講義内容の要約		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
9	貿易の基礎理論：なぜ貿易するのか。D.リカードによる比較優位論（1817）はその後の国際経済学の基礎となっている。					事前：資料の精読。 事後：講義内容の要約		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
10	貿易政策：貿易立国と呼ばれているが、行政が特定産業を誘導することを産業政策とよび日本経済の特徴となっている。					事前：資料の精読。 事後：講義内容の要約		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
11	貿易問題：品目と交渉の歴史 国際貿易は紛争の歴史でもある。(1)日米貿易摩擦 (2)繊維、家電、自動車他					事前：資料の精読。 事後：講義内容の要約		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
12	産業構造調整：貿易が産業に及ぼす影響 (1)衰退産業と保護政策 (2)産業のセッアップ					事前：資料の精読。 事後：講義内容の要約		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
13	世界貿易機関（WTO）について：GATTの後継機関 自由貿易を目的として1995年設立。歴史と設立の背景を解説。					事前：資料の精読。 事後：講義内容の要約		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
14	多国籍企業：複数の国で開発・生産・販売 (1)アメリカの多国籍企業 (2)日本の多国籍企業					事前：資料の精読。 事後：講義内容の要約		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
15	拡大する国際金融市場：バブル景気を契機としたリスク問題 (1)拡大の経緯 (2)ジャパン・マネーの拡大と衰退					事前：資料の精読。 事後：講義内容の要約		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
教本： なし。適宜、資料を配布します。					参考文献： なし。関連情報源を随時提示します。				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（20％）、定期試験（80％）等で総合評価する。なお、指定のレポートの他に追加の自主レポートの提出を認め、成績に加算します。									
学生へのアドバイス： 本講座の理解を深め、経済(学)的に社会をとらえるためにメディア情報にふれるようにしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	国際経済論Ⅱ（International EconomicsⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	宮崎 隆								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	国際経済論Ⅰを履修していることが望ましい。							
授業概要： 国際経済論Ⅰは主として国際経済学の制度と歴史、理論について扱いましたが、本講座は当該分野における近年のトピックスを取り上げます。また、国際経済学は国際政治と密接に関連していますので、随時政治問題にもふれます。									
授業目標： メディア経済情報のリテラシーを高めて下さい。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス：講義の進め方と範囲、評価の方法他を説明。予備資料の配布等。					事前：経済用語表の作成。 事後：講義内容の要約		講義	
2	世界の主要な経済連携1：ECC、EU マーストリヒト条約に基づいて設立された背景、イギリスの脱退等について概説					事前：経済用語表の作成。 事後：講義内容の要約		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
3	世界の主要な経済連携2：APEC 1989年発足のアジア太平洋経済協力。現在21か国加盟。					事前：経済用語表の作成。 事後：講義内容の要約		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
4	世界の主要な経済連携3：ASEAN 1967年発足の東南アジア諸国連合。現在10か国加盟。					事前：経済用語表の作成。 事後：講義内容の要約		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
5	世界の主要な経済連携4：TPP 2016年発足の経済連携協定。正式名称は「環太平洋パートナーシップ協定」					事前：経済用語表の作成。 事後：講義内容の要約		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
6	貿易の実態1：アメリカ 輸出・入相手国と貿易統計、特徴を解説。					事前：経済用語表の作成。 事後：講義内容の要約		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
7	貿易の実態2：中国 輸出・入相手国と貿易統計、特徴を解説。					事前：経済用語表の作成。 事後：講義内容の要約		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
8	貿易の実態3：欧州 輸出・入相手国と貿易統計、特徴を解説。					事前：経済用語表の作成。 事後：講義内容の要約		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
9	貿易の実態4：アジア他 輸出・入相手国と貿易統計、特徴を解説。					事前：経済用語表の作成。 事後：講義内容の要約		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
10	わが国の貿易1：特徴と動向 繊維から鉄鋼、船舶、家電、自動車他、いわゆる重厚長大から軽薄短小までの変遷。					事前：経済用語表の作成。 事後：講義内容の要約		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
11	わが国の貿易2：特徴と動向 サービス貿易の実態と動向。					事前：経済用語表の作成。 事後：講義内容の要約		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
12	エネルギー問題：原油と天然ガス他 次世代エネルギーの電力をつくるために貿易構造も変化する。経済成長とエネルギー。					事前：経済用語表の作成。 事後：講義内容の要約		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
13	自動車の大変革と国際経済：電気自動車 世界的に自動車がEV化する。これが世界経済をどうかえるか。					事前：経済用語表の作成。 事後：講義内容の要約		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
14	暗号資産（仮想通貨）問題：インターネット利用の通貨 仮想通貨は貨幣だろうか。貨幣的経済学から仮想通貨を考える。					事前：経済用語表の作成。 事後：講義内容の要約		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
15	インターネットと国際経済：GAFAの台頭と国際経済 巨大なITサービス企業が世界経済システムを変えつつある。					事前：経済用語表の作成。 事後：講義内容の要約		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
教本： なし。適宜、資料を配布します。					参考文献： なし。関連情報源を随時提示します。				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（20％）、定期試験（80％）等で総合評価する。なお、指定のレポートの他に追加の自主レポートの提出を認め、成績に加算します。									
学生へのアドバイス： 本講座の理解を深め、経済(学)的に社会をとらえるためにメディア情報にふれるようにしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	国際政治学Ⅰ（International PoliticsⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高橋 敏哉								
履 修 条 件	前提科目	特に限定はしませんが、できるだけ国際関係論Ⅰの履修が済んでいる方が望ましいです。							
	そ の 他								
授業概要： 国際政治学の入門を国際秩序の理論的な枠組みを学びながら行います。19世紀からの国際政治秩序を現代まで追っかけていきます。同時に戦争・平和、安全保障の話を時事的な問題にも触れながら探究していきます。									
授業目標： 1. 国際政治の背景にある秩序の変化を知る。 2. その変化の中で、国際経済・経営の現象を理解し考えることができる素地を作る。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：講義の概要や進め方について説明します。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
2	18世紀、19世紀の近代ヨーロッパ国際システム：近代ヨーロッパの国際関係秩序を概略します。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
3	第一次世界大戦：第一次世界大戦の原因、経緯、その結果について分析をしていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
4	ベルサイユの平和：第一次世界大戦後の平和体制であるベルサイユ体制について見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
5	戦間期とイデオリズム：集団的安全保障と戦争の違法化戦間期の理想主義であるイデオリズムを見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
6	イデオリズムの陥穽：戦間期のイデオリズムの失敗を、E.H.カーの『危機の20年』に触れながら見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
7	ミニテスト①：前半のまとめをします。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		テストと解説	
8	第二次世界大戦：第二次世界大戦の原因、経緯、その結果について分析をしていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
9	サンフランシスコの平和と冷戦の始まり：国連等を中心に第二次世界大戦後の国際関係秩序について見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
10	冷戦と東西の熱戦（朝鮮戦争・ベトナム戦争）：冷戦の仕組みと代理戦争であった朝鮮戦争、ベトナム戦争を分析します。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
11	冷戦と多極化：中ソ対立、欧州や日本の経済的台頭による国際秩序の変化に触れます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
12	冷戦の終焉：冷戦の終わりはなぜ起きたのか、その変化の原因について学びます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
13	冷戦後の世界秩序：アメリカ一極体制から、多極化あるいは米中2極と言われる変化を追います。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
14	ミニテスト②：後半のまとめをします。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		テストと解説	
15	民主主義の危機と国際政治における変化：ポスト・ファクト（事実）あるいはフェイクニュース、偏狭なナショナリズムの高揚と移民排斥の現象の中で、国際政治の秩序はどうなっていくのか、何をすべきか考えてみます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
教本： 資料を配布します。（オンライン配布も検討します）					参考文献： 各回の講義の中でハンドアウトを配ります。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価します。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 日本の周辺で起きている国際政治を理解し、自分なりの意見を持てるようにするための講義です。少しでも関心を持ってそうでしたら講義に参加してみてください。暗記より考えることを重視した講義になります。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	国際政治学Ⅱ（International PoliticsⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高橋 敏哉								
履 修 条 件	前提科目	特にないが、国際政治学Ⅰや国際関係論Ⅰの事前受講が望ましい。							
	そ の 他								
授業概要： 日本の経営や経済を深く見ていくには、国際政治での重要な事例での意思決定や日本の外交史の知識も必須です。本講義は国際関係論における意思決定論（外交政策）と日本外交の歴史を概略し、基本的な事例を通じ、意思決定の重要性と限界を見ていきます。									
授業目標： 1. 意思決定論の概要と重要な事例の背景を理解する。 2. 戦後日本経済を発展させてきた日本外交の流れを知る。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1	オリエンテーション：講義の概略を説明し、意思決定論と外交史の位置づけをします。					事前：特になし 事後：資料熟読		講 義	
2	歴史的な意思決定の事例①：キューバ・ミサイル危機の事例をアリソンの3つのモデルとともに紹介します。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
3	歴史的な意思決定の事例②：第1次世界大戦の始まりでの欧州列強諸国の意思決定の問題を見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
4	歴史的な意思決定の事例③：真珠湾攻撃への日本の意思決定の問題点を見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
5	戦前日本外交の意思決定①：日本の戦前の意思決定モデルにつき学術の議論を紹介し、満州事変の事例を見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
6	戦前日本外交の意思決定②：日中事変とノモンハン事件の事例を見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
7	戦前日本外交の意思決定③：なぜ太平洋戦争を途中で止められなかったか、日本の意思決定の仕組みの問題を見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
8	ミニテスト：前半の復習をします。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		テストと解説	
9	戦後日本外交①：戦後の経済中心・軽武装路線である吉田外交を、吉田の戦前・戦中のキャリアとともに見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
10	戦後日本外交②：戦後の再武装・独自外交路線である鳩山外交を鳩山の戦前・戦中のキャリアとともに見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
11	戦後日本外交③：戦後の再武装・独自外交路線である岸外交を岸の戦前・戦中のキャリアとともに見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
12	高度経済成長と日本外交：高度経済成長を支えた戦後日本の外交路線を見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
13	アジア太平洋での日本のリーダーシップと多国間主義外交：戦後日本の新たなアジア太平洋外交の流れを見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
14	米中対立の中の日本外交：米中対立の流れ、その本質、今後の展開につき視点を学びます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
15	まとめ：全体の総まとめをします。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
教本： 毎回ハンドアウト（配布資料）に従って進めます。					参考文献： 講義の中で必要に応じ紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 国際関係論より覚える知識を増やしている講義ですが、力点は単なる暗記より考える部分に置いています。ここで学ぶ知識は将来必ず役に立つものだから、是非、頑張って受講してみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	講習
授業科目(英文)	子育て支援（Child care support）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石橋 優子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援） について、その特性と展開を具体的に理解する。									
授業目標： 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション・子育て支援・保護者支援について考える。					事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復讐		講義（60分）・ グループ討議（30分）	
2	子育て支援の意義について考える。 （保護者への子育て支援と保育の特性、保育者の専門性）					事前： P 133～144予習 事後：学習範囲の復讐		講義（60分）・ グループ討議（30分）	
3	子育て支援の基本 1 （子どもの最善の利益と福祉の重視について考える。）					事前： P 151～159予習 事後：学習範囲の復讐		講義（60分）・ グループ討議（30分）	
4	子育て支援の基本 2 （子どもの成長・発達の喜びの共有について考える。）					事前： P 161～163予習 事後：学習範囲の復讐		講義（60分）・ グループ討議（30分）	
5	子育て支援の基本 3 （保護者の養育力の向上のための基本について考える。）					事前： P 164～175予習 事後：学習範囲の復讐		講義（60分）・ グループ討議（30分）	
6	子育て支援の基本 4 （信頼関係を基本とした対人援助の原則について考える。）					事前：指定資料の予習 事後：学習範囲の復讐		講義（60分）・ グループ討議（30分）	
7	子育て支援の基本 5 （地域資源の活用と関係機関との連携・協力について考える。）					事前： P 176～181予習 事後：学習範囲の復讐		講義（60分）・ グループ討議（30分）	
8	子育て支援の実際 1 （保育と保護者支援について考える。）					事前： P 183～186予習 事後：学習範囲の復讐		講義（60分）・ グループ討議（30分）	
9	子育て支援の実際 2 （子育て支援の内容・方法・技術について考える。）					事前： P 187～193予習 事後：学習範囲の復讐		講義（60分）・ グループ討議（30分）	
10	子育て支援の実際 3 （保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンスについて考える。）					事前： P 194～200予習 事後：学習範囲の復讐		講義（60分）・ グループ討議（30分）	
11	児童福祉施設における子育て支援 1 （保育所における子育て支援の実際について考える。）					事前： P 201～218予習 事後：学習範囲の復讐		講義（60分）・ グループ討議（30分）	
12	児童福祉施設における子育て支援 2 （特別な支援を必要とする家庭への支援について考える。）					事前： P 219～225予習 事後：学習範囲の復讐		講義（60分）・ グループ討議（30分）	
13	児童福祉施設における子育て支援 3 （要保育児童の家庭への支援）について考える。					事前： P 226～227予習 事後：学習範囲の復讐		講義（60分）・ グループ討議（30分）	
14	児童福祉施設における子育て支援 4 （障害児施設、母子生活支援等における支援について考える。）					事前： P 228～230予習 事後：学習範囲の復讐		講義（60分）・ グループ討議（30分）	
15	子育て支援の現状と課題について考える。					事前：指定資料の予習 事後：学習範囲の復讐		講義（60分）・ グループ討議（30分）	
教本：参考文獻： 相談援助 保育相談支援 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 著書：笠師知恵、小橋明子 株式会社中山書店									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（20%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 子どもや保護者を取り巻く社会情勢はますます厳しくなっており、その身近な支援者である保育者には特に大きな期待がよせられている。支援の実際を学ぶ中で、子どもに関わる専門職として何ができるか、何をしなければならないかを考える機会としてほしい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	古典文学（Classical Literature）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石上 七穂								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他								
授業概要： 日本の古典『源氏物語』に記された作品を対象として授業を行う。本文の的確な読み、解釈を行い、古代的な論理・信仰・習俗などを踏まえつつ、作品成立の背景や各神話の持つ意味)、伝承者の心を捉える。									
授業目標： ・中古の物語文学を読み、適切な解釈を行うことができる。 ・『源氏物語』の特質、研究について考察することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
◎				○					
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	物語文学の発生					事前：シラバスを読む 事後：授業の復習、次回の予習		講義 90 分	
2	源氏物語の概説					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 90 分	
3	桐壺の巻 1					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
4	桐壺の巻 2					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
5	桐壺の巻 3					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
6	桐壺の巻 4					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
7	桐壺の巻 5					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
8	桐壺の巻 6					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
9	桐壺の巻 7					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
10	桐壺の巻 8					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		講義 45 分、演習 45 分	
11	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
12	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
13	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
14	学生によるプレゼンテーション					事前：授業内容の予習 事後：授業の復習、次回の予習		演習 90 分	
15	纏め					事前：授業内容の事前纏め 事後：纏めの振り返り		講義 90 分	
教本： なし、プリントを配布 石上七穂著『古代伝承文芸序説』桜楓社									
参考文献： 石上七穂著『古代伝承文芸論』おうふう									
成績評価の方法、評価基準：到達目標に達成したかを評価する。 授業参加状況等（30％）、テスト・レポート等（20％）、定期試験（50％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 予習・復習をして休まずに出席すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	古典文学（散文）（Classical Literature（Prose））						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石上 七鞘								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 物語の発生からその展開について解説する。特に古代以来の言語伝承である神話、伝説等を理解する。長編物語と短編物語、男性の物語と女性の物語の比較、また日記文学や随筆について講義・演習を通じて古典文学を深く理解する。講義のほか、学生の研究発表の形式を採る。									
授業目標： 1．日本の古典文学（散文）について、時代別、ジャンル別・作品別にその特質を理解する。古典の形態や表現の特徴を理解し、理解に必要な方法や知識を習得する。古典の生成と展開を把握し、その全体像を理解する。古典の発生と歴史を作者や作品に即して理解する。 2．古典の理念と変遷を理解する。古典の背景としての歴史・環境・風土を理解する。古典の各分野（物語・和歌・随筆・日記等）の展開や価値を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	日本文学の発生、「古事記」を読む。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	「日本書紀」を読む。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	「風土記」を読む。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	「日本霊異記」を読む。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	「竹取物語」を読む。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	「伊勢物語」を読む					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	「源氏物語」を読む 1（概論、成立、作者紫式部、男源氏、女源氏）					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	「源氏物語」を読む 2（桐壺巻）					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	「平家物語」を読む。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	「大鏡」を読む。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	「土佐日記」を読む。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	「更級日記」を読む。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	「枕草子」を読む。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	「方丈記」「徒然草」を読む。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	散文文学のまとめを行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教本： 授業時にプリントを配布。					参考文献： 1．『日本の原点』石上七鞘著 マイナビ新書 ¥872 2．『日本文学史の基礎知識』秋山虔ほか著 有斐閣ブックス ¥2,520				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト（15%）、授業への参加度（25%）、試験（60%）									
学生へのアドバイス： 予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。									
オフィスアワー： 水曜日 昼休み。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	古典文学（韻文）（Classical Literature（Verses））						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石上 七 鞘								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 詩歌の発生や作品に見られる文学歌謡を理解する。講義のほか、学生によるテーマ発表を行う。									
授業目標： 1．日本の文学史について、時代やジャンル別・作品別理念とその特質を理解する。 2．古典文学の形態や表現の特徴を理解し、理解に必要な応報や知識を習得する。古典文学の生成と展開を把握し、その全体像を理解する。古典文学の発生と歴史を作者や作品に即して理解する。古典文学の理念と変遷を理解する。古典文学の背景としての歴史・環境・風土を理解する。古典文学の各分野（物語・和歌・随筆・日記等）の展開や価値を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	日本文学の発生、「古事記」歌謡を読む。神話と歌謡について考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	「日本書紀」歌謡を読む。郷土を探る。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	「風土記」歌謡を読む。土地柄を知る。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	「万葉集」を読む1（概論、成立、編者、部立、万葉仮名）。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	「万葉集」を読む2（巻一、巻二、巻十四、巻十六）。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	第6回：「古今和歌集」を読む。時代性を知る。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	第7回：「新古今和歌集」を読む。時代性を知る。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	第8回：「百人一首」を読む1（概論、成立、編者）。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	第9回：「百人一首」を読む2（天智天皇、持統天皇他）。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	第10回：「梁塵秘抄」を読む。民衆の気持ちを読む。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	第11回：「閑吟集」を読む。民衆の気持ちを読む。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	第12回：「奥の細道」を読む。江戸時代の人々の心を読む。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	第13回：学生の発表①					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	第14回：学生の発表②					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	第15回：韻文文学のまとめを行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教本： なし、プリント配付。					参考文献： 1．『日本古典文学史の基礎知識』秋山虔ほか著、有斐閣ブックス、¥2,520 2．『日本の原点』石上七鞘著 マイナビ新書 ¥830＋税 3．『日本古典文学大系』岩波新書 『日本古典文学全集』小学館				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト（15％）、授業内容への参加度（25％）、試験（60％）									
学生へのアドバイス： 予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。									
オフィスアワー： 水曜日 昼休み。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	古典文学研究 A（散文）（Classical Literature Research A（Prose））						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石上 七 穂								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 物語の発生からその展開について解説する。特に古代以来の言語伝承である神話、伝説等を理解する。長編物語と短編物語、男性の物語と女性の物語の比較、また日記文学や随筆について講義・演習を通じて古典文学を深く理解する。講義のほか、学生の研究発表の形式を採る。									
授業目標： 1．日本の古典文学（散文）について、時代別、ジャンル別・作品別にその特質を理解する。古典の形態や表現の特徴を理解し、理解に必要な方法や知識を習得する。古典の生成と展開を把握し、その全体像を理解する。古典の発生と歴史を作者や作品に即して理解する。 2．古典の理念と変遷を理解する。古典の背景としての歴史・環境・風土を理解する。古典の各分野（物語・和歌・随筆・日記等）の展開や価値を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	日本文学の発生、「古事記」を読む。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	「日本書紀」を読む。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	「風土記」を読む。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	「日本霊異記」を読む。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	「竹取物語」を読む。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	「伊勢物語」を読む					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	「源氏物語」を読む 1（概論、成立、作者紫式部、男源氏、女源氏）					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	「源氏物語」を読む 2（桐壺巻）					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	「平家物語」を読む。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	「大鏡」を読む。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	「土佐日記」を読む。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	「更級日記」を読む。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	「枕草子」を読む。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	「方丈記」「徒然草」を読む。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	散文文学のまとめを行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教本： 授業時にプリントを配布。					参考文献： 1．『日本の原点』石上七穂著 マイナビ新書 ¥872 2．『日本文学史の基礎知識』秋山虔ほか著 有斐閣ブックス ¥2,520				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト（15%）、授業への参加度（25%）、試験（60%）									
学生へのアドバイス： 予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。									
オフィスアワー： 水曜日 昼休み。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	古典文学研究 B（韻文）（Classical Literature Research B（Verses））						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石上 七 穂								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 詩歌の発生や作品に見られる文学歌謡を理解する。講義のほか、学生によるテーマ発表を行う。									
授業目標： 1．日本の文学史について、時代やジャンル別・作品別理念とその特質を理解する。 2．古典文学の形態や表現の特徴を理解し、理解に必要な応報や知識を習得する。古典文学の生成と展開を把握し、その全体像を理解する。古典文学の発生と歴史を作者や作品に即して理解する。古典文学の理念と変遷を理解する。古典文学の背景としての歴史・環境・風土を理解する。古典文学の各分野（物語・和歌・随筆・日記等）の展開や価値を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	日本文学の発生、「古事記」歌謡を読む。神話と歌謡について考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	「日本書紀」歌謡を読む。郷土を探る。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	「風土記」歌謡を読む。土地柄を知る。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	「万葉集」を読む 1（概論、成立、編者、部立、万葉仮名）。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	「万葉集」を読む 2（巻一、巻二、巻十四、巻十六）。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	第 6 回：「古今和歌集」を読む。時代性を知る。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	第 7 回：「新古今和歌集」を読む。時代性を知る。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	第 8 回：「百人一首」を読む 1（概論、成立、編者）。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	第 9 回：「百人一首」を読む 2（天智天皇、持統天皇他）。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	第10回：「梁塵秘抄」を読む。民衆の気持ちを読む。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	第11回：「閑吟集」を読む。民衆の気持ちを読む。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	第12回：「奥の細道」を読む。江戸時代の人々の心を読む。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	第13回：学生の発表①					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	第14回：学生の発表②					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	第15回：韻文文学のまとめを行う。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教本： なし、プリント配付。					参考文献： 1．『日本古典文学史の基礎知識』秋山虔ほか著、有斐閣ブックス、¥2,520 2．『日本の原点』石上七穂著 マイナビ新書 ¥830＋税 3．『日本古典文学大系』岩波新書 『日本古典文学全集』小学館				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト（15％）、授業内容への参加度（25％）、試験（60％）									
学生へのアドバイス： 予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。									
オフィスアワー： 水曜日 昼休み。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	言葉で遊ぶ（言語表現）（Play with Words（Expression in Language））						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	古金 悦子								
履 修 条 件	前提科目	保育内容（言葉）							
	そ の 他	なし							
授業概要： 乳幼児期の言語発達の道筋や特徴などについて学び、子どもの「言葉」を育てるための「言葉遊びや」言語表現を用いた様々な教材を体系的に理解する。保育者として表現技術指導の基礎的知識を身に着け、実際に活用するための基礎力を要請する。入門的言語表現教材の開発の理論と知識を学ぶ。									
授業目標： 乳幼児の言葉の獲得や発達の過程を知り、保育者として感性を豊かにすると共に、言語表現に関する教材や児童文化財の活用のための理論を理解し、指導力と実践力を身に付ける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 授業の進め方、概要、受講上の注意など					事前：シラバスの確認 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分	
2	乳児の言葉の発達と「言葉遊び」 言葉のリズムを楽しむわらべ歌の様々な遊び方を工夫する					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分	
3	乳児の言葉の発達と「言葉遊び」 話し言葉・書き言葉を育てる言葉遊びを知り、経験する					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分	
4	絵本と紙芝居 それぞれの特質を知り、活用の仕方を考える					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分	
5	パネルシアター ① パネルシアターの仕組みや活用の仕方を考える					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分	
6	パネルシアター ② パネルシアターの作り方を学び、実践できるようにする					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 10分、 作品制作 80分	
7	パネルシアター ③ 教材としてのパネルシアターの扱い方を身につける					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 20分、 作品発表70分	
8	様々な児童文化財を知る ① それぞれの特質を知り、活用の仕方を考える					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分	
9	様々な児童文化財を知る ② かるたについて学ぶ					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 30分、 グループワーク 60分	
10	素話の技術を身につけ。実践する① 言語表現の実際を知り、指導について考える					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分	
11	わらべうたの技術を身につけ。実践する① 年齢や発達に応じた遊び方や指導法を工夫する					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 30分、 発表 60分	
12	わらべうたの技術を身につけ。実践する②					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 30分、 発表 60分	
13	わらべうたの技術を身につけ。実践する③					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 30分、 発表 60分	
14	わらべうたの技術を身につけ。実践する④					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 30分、 発表 60分	
15	学修のまとめ					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分	
教本： 必要に応じて資料を配付します。					参考文献： 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園要領				
成績評価の方法、評価基準： 授業内発表等（50%）、小テスト・レポート等（30%）、作成教材（20%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 積極的に参加することで実践力を身に付けて下さい。子ども学科の学生は途中、幼稚園実習が入りますので、他の回は休まないようにして下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	子ども教育原理 (Principles of Childhood Education)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大沢 裕								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 教育の理念と意味、教育思想の歴史的変遷（我が国と欧米の場合）、教育の目的・内容・方法の関連、教育制度・法規の実際、生涯学習社会における教育のあり方、現代の教育の喫緊の課題などを、特に幼児の教育に視点を合わせて理解させる。この過程を通して、教育に関する基礎的・基本的概念の習得をさせ、教育活動における実践原理の体系的な理解を促す。教育現場との関連性を意識しながら教授する。授業形態は、講義の他に、グループ討論と発表、VTR視聴とその検討を含む。									
授業目標： 子どもの教育の意義、理念について理解し、教育の思想と歴史的変遷について学び、子ども教育の基礎的理論を理解する。子どもの教育の制度・法規について理解する。教育実践の様々なあり方を知る。生涯学習社会の教育の現状と課題について認識する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	子どもの教育の本質と意義					事前：教育の記事を読んでおく 事後：ノートを読み返す		講義 90分	
2	教育の目的・理念					事前：望ましい人間像を考える 事後：ノートを読み返す		講義 90分	
3	家庭教育（家族の教育）					事前：家庭で受けた教育を思い出しておく 事後：ノートを読み返す		VTR 視聴 45分、 グループ討論 45分	
4	学校教育					事前：家庭と学校の違いを考える 事後：ノートを読み返す		講義 90分	
5	社会教育					事前：地域の行事を考える 事後：ノートを読み返す		講義 90分	
6	諸外国の子どもの教育思想と歴史（古代）					事前：世界史を復習する 事後：ノートを読み返す		講義 90分	
7	諸外国の子どもの教育思想と歴史（中世とルネサンス期）					事前：世界史を復習する 事後：ノートを読み返す		講義 90分	
8	諸外国の子どもの教育思想と歴史（近代）					事前：世界史を復習する 事後：ノートを読み返す		講義 90分	
9	我が国の子どもの教育思想と歴史					事前：日本史を復習する 事後：ノートを読み返す		講義 90分	
10	子どもの人権教育					事前：人権に関する新聞記事を読む 事後：討論の結果を振り返る		グループ討論 60分 発表 30分	
11	近代の教育制度・教育法規の基礎					事前：教育法規を調べておく 事後：ノートを読み返す		講義 90分	
12	子どもの教育の内容					事前：望ましい経験について考えておく 事後：ノートを読み返す		講義 90分	
13	子どもの教育の方法					事前：教育方法について事前学習する 事後：ノートを読み返す		講義 90分	
14	子どもの教育実践の様々な取り組み					事前：PC で世界の教育を調べてみる 事後：討論の結果を振り返る		VTR 視聴 45分、 グループ討論 45分	
15	生涯学習と現代の教育課題					事前：教育の時事問題を調べてみる 事後：		グループ討論 45分 講義 45分	
教本：なし 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針』（最新版） 『教育の知恵 60』（大沢裕編著、一藝社）						参考文献： 適宜、授業時に指示する。			
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 幼児教育者として必須の、子どもの教育に関わる基礎的事項が理解でき、教育的なものの見方・考え方が身についているかを討論の発表内容、複数回提出させるレポートの内容、筆記試験によって総合的に評価する。									
学生へのアドバイス： 教育の時事問題に関心を持つこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	子ども教育社会学 (Sociology of Child Education)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	深谷 野亜								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： この授業では、現代の公教育を支える社会構造を理解した上で、学生一人一人が主体的に考え、答えを導き出す姿勢を身につけることを促していく。授業ではグループディスカッションやプレゼンテーションを多用し、参加型の授業を目指していきたい。									
授業目標： 教育がどのような制度／法律下でこどもの教育に携わるのかを理解し、各自が自らの見識を持てるようにすることを目的としている。具体的には以下の5つを目標とする。①学校教育に与える社会の影響を理解する②制度や法律と学校教育のかかわりについて理解する③学校改善のための取組について理解する④地域と学校の連携の重要性を理解する⑤安心・安全な学校作りへの取組を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	社会変化と学校 情報化を取り上げながら、社会変化が学校教育にどう影響を与えているかを考えていきます。					事前：なし 事後：次回の配布資料を読む		講義 70分・ ディスカッション 20分	
2	家族変化と学校： 少子化が子どもの成長・教育に対してどういう影響を与えているかを考えていきます。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分	
3	公教育の原理について考える 公教育としての学校について、日本の学校の特徴や学校教育における公共性の問題を考えていきます。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ グループワーク 30分	
4	日本の教育制度とは何か： 明治以降の教育制度の変遷をたどりながら、制度と教育の関連について考えていきます。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 70分・ グループワーク 20分	
5	諸外国の教育改革と課題を考える： 諸外国の教育改革を理解し、その上で日本の教育改革の現状と課題を理解します。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ グループワーク 30分	
6	教育政策と教育行政： 教育政策や教育行政の原理を理解し、課題と改善策を考えていきます。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 70分・ グループワーク 20分	
7	日本国憲法と教育基本法 日本国憲法と教育基本法の関係を理解すると共に、教育基本法がどう改正されたかを考えていきます。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 80分・ グループワーク 10分	
8	学校教育法と関連法規 学校に関連するさまざまな関連法規について理解します。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分	
9	学級経営とは何か 生徒たちが主体的に学習する組織にするために、学級経営の在り方について考えていきます。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ グループワーク 30分	
10	教育評価と学級経営 学級経営を評価し、次年度以降の改善にどうつなげているのか、その方法を理解していきます。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ グループワーク 30分	
11	評価というシステムーPDCA サイクルを理解するー PDCA サイクルを理解し、自ら実践できるようにします。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 20分・ グループワーク 50分・ 発表 20分	
12	チームとしての学校という視点 中教審答申を中心に、チームとしての学校という視点を理解します。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ グループワーク 30分	
13	開かれた学校Ⅰ（地域の教育力の活用） 学校・家庭・地域社会の連携の在り方を理解します。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分	
14	開かれた学校Ⅱ（学校評議委員・学社連携の模索） 地域から信頼できる学校作りのための実践例を学習し、課題について考えます。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分	
15	開かれた学校と安心・安全な学校作り 「開かれた学校」と生徒にとっての安全な学校作りの兼ね合いは非常に難しい。いくつかの実践例から、課題を考えていきます。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		発表 60分・講義 30分	
教本：なし 毎回、作成したプリントを配布し、それにそって授業をすすめていきます。					参考文献： 高妻紳次郎『新・教育制度論：教育制度を考える15の視点』ミネルヴァ書房、2014年。 その他授業中に適宜紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 社会学的思考を自ら実践できるようになることを目的としています。授業には積極的に参加してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	子 ども 教 育 制 度 論 (Childhood Education System)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	野 川 智 子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 現代の学校教育と幼児教育の法と制度の基礎を理解するとともに、教育を支える学校組織、教育行政、家庭や地域の実情と連携について相互に関連しながら教育や保育が実践されていることを理解する。また、今日的な課題について調べて発表することを通して望ましい教育や保育の在り方について考えを深める。									
授業目標： ①教育・保育の法と制度について変遷と現状を理解する。 ②教育・保育を支える仕組みを学校経営や家庭・地域の連携、行政の役割など多面的に理解し、教育・保育の在り方を考える。 ③特別支援教育、社会教育、教育の方法などを理解した上で、今日的な課題についてのプレゼンテーションを行う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （ 詳 細 に 記 入 ）					事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題 ）		授 業 形 態	
1	現行の教育の法と制度の概要について講義を聞いて理解する					事前：なし 事後：配布資料まとめ		講義(90分)	
2	明治以降の学校制度の変遷について講義を聞いて理解する 小学校の法と制度の資料をまとめる					事前：配布資料の下読み 事後：ノート整理		講義(45分) 演習(45分)	
3	教育基本法と学習指導要領から教育の目的・目標についてノートにまとめながら理解する					事前：教育法規を調べる 事後：テキストまとめ(4章)		講義(45分) 演習(45分)	
4	学校教育の内容について教育活動と教育課程の構成原理を講義で理解する					事前：テキスト下読み(6章) 事後：ノート整理		講義(90分)	
5	学校教育を支える教職員の組織、教員に求められる資質や能力、社会環境について討議する					事前：テキスト下読み(8章) 事後：レポート①		講義(45分) 討議(45分)	
6	学校教育を支える学級担任の役割、学級経営の充実のための諸課題について理解し、望ましい教師像を描く					事前：テキスト下読み(9章) 事後：ノート整理		講義(45分) 討議(45分)	
7	就学前教育・保育の現状と課題を出し合い、社会や家庭、園との関わりについて話し合う					事前：ニュースを調べる 事後：ノート整理		講義(45分) 討議(45分)	
8	少子化と家庭教育、幼児教育・保育の関係について現状を理解する 家庭の役割について話し合う					事前：少子化調べををする 事後：テキストまとめ(2章)		講義(45分) 討議(45分)	
9	保育所保育指針、幼稚園教育要領等から就学前教育の目標について「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」についてまとめる					事前：参考資料の下読み 事後：レポート②仕上げ		発表(20分) 講義(40分) レポート(30分)	
10	幼児期の教育の制度や幼稚園・保育所の歴史を理解して、幼児期の教育の課題を話し合う					事前：配布資料の下読み 事後：ノート整理		講義(60分) 演習(30分)	
11	特別支援教育制度の概要を理解し、現状の課題を明らかにしてこれからの特別支援教育を考える					事前：配布資料の下読み 事後：レポート③仕上げ		講義(60分) レポート(30分)	
12	学校保健安全法に基づいて子どもの健康と安全が守られていることを理解して、教員・保育者としての留意点を話し合う					事前：学校事故情報を収集 事後：ノート整理		発表(20分) 講義(40分) 討議(10分)	
13	学校保健安全法における災害に対する危機管理の内容を理解し、学校経営・学校組織との関係を考える					事前：配布資料の下読み 事後：ノート整理		講義(90分)	
14	国、地方公共団体が行う教育行財政の組織と機能から公教育としての義務教育、教育財政について理解する					事前：配布資料の下読み 事後：レポート③		講義(90分)	
15	現代の学校の課題（いじめ、保護者、教師普請等）についてレポートを発表する					事前：レポートの確認 事後：なし		演習(90分)	
教本：参考文獻： 「教育の法と制度」藤井穂高編著 ミネルヴァ書房 ￥2,200									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 専門科目なので初めての言葉や内容が多くあります。正しく理解して基礎知識を身につけていきましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	子ども教育相談（Educational Counseling of Children）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中村 淳子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本講座では、子ども・児童生徒が人として望ましく成長するための支援方法として保育・教育者が身につけるべき教育相談活動について基本的な理論や知識を学んでいく。さらには相談活動に必要なカウンセリングの方法をロールプレイやグループワークなどで体験的に学習していく。									
授業目標： 1．教育相談の基礎的な知識や理論等を学び、子ども・児童生徒の支援について考える。 2．子ども・児童生徒の悩みや問題行動について理解し、教育者として対処できる相談技術を習得する。 3．個別的な対応だけでなく集団への対応をも視野に入れた相談活動を習得し、各専門機関などとの連携を学ぶ。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
				○			◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	教育相談とは ―保育・教育相談の意義				事前： 事後：復習（教育相談の定義、まとめ）			講義 70分 振り返り 20分	
2	教育相談に関わる心理学の基礎理論				事前：予習（心理学と教育相談について考える） 事後：復習（教育相談と心理学基礎のまとめ）			講義 70分 振り返り 20分	
3	教育相談とカウンセリングマインド ―保育所・幼稚園、学校場面				事前：予習（カウンセリングマインドを調べる） 事後：復習（カウンセリングマインドまとめ）			講義 60分 グループワーク 30分	
4	カウンセリングの基礎 ―代表的なカウンセリング理論と技法（傾聴、受容、共感的理解）				事前：予習（カウンセリングについて調べる） 事後：復習（カウンセリング理論のまとめ）			講義 60分 討議 30分	
5	子ども・児童生徒の理解の方法(1) ―発達・成長を見据えた支援				事前：予習（子どもの成長について調べる） 事後：復習（子どもの成長への支援のまとめ）			講義 70分 振り返り 20分	
6	子ども・児童生徒の理解の方法(2) ―問題行動発生のメカニズム				事前：予習（問題行動について調べる） 事後：復習（問題行動のメカニズムのまとめ）			講義 70分 振り返り 20分	
7	子ども・児童生徒の理解の方法(3) ―アセスメントの方法―SOS（シグナル）を察知する力				事前：予習（アセスメントについて調べる） 事後：復習（アセスメントの方法のまとめ）			講義 70分 振り返り 20分	
8	教育（保育）相談活動の実際(1)発達障害への対応				事前：予習（発達障害について調べる） 事後：復習（発達障害への対応のまとめ）			講義 30分 発表 60分	
9	教育（保育）相談活動の実際(2)虐待、いじめへの対応				事前：予習（いじめについて考える） 事後：復習（虐待やいじめへの対応のまとめ）			講義 30分 発表 60分	
10	教育（保育）相談活動の実際(3)不登校（登園しぶり）、学業不振（知的晩稲）への対応				事前：予習（登園しぶりを調べる） 事後：復習（登園しぶりなど対応のまとめ）			講義 30分 発表 60分	
11	教育（保育）相談活動の実際(4)支援目標、立案、支援計画の策定				事前：予習（支援計画を調べる） 事後：復習（支援計画をなどのまとめ）			講義 30分 発表 60分	
12	保護者支援のあり方―保護者との連携と支援				事前：予習（保護者対応について考える） 事後：復習（保護者支援、連携のまとめ）			講義 70分 振り返り 20分	
13	教育相談に活かすグループ体験―グループ体験の基礎知識				事前：予習（グループ体験を調べる） 事後：復習（教育草案に活かすグループ体験のまとめ）			講義 20分 グループワーク 70分	
14	教育相談に活かす多職種及び他機関との連携(1)医療・福祉・心理職者との連携				事前：予習（多職種とは何か調べる） 事後：復習（多職種との連携についてまとめ）			講義 70分 振り返り 20分	
15	教育相談に活かす多職種及び他機関との連携 ―(2)地域、自治体の機関、児童相談所他 専門機関との連携				事前：予習（児童相談所について調べる） 事後：復習（様々な相談機関との連携についてまとめる）			講義 70分 振り返り 20分	
教本： 使用しない。適宜、参考資料を配布。					参考文献： 田中智志/橋本美保監修 羽田紘一編著 新・教職課程シリーズ 教育相談 一藝社 ￥2,200 他				
成績評価の方法、評価基準：評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業では、一方的な講義ではなく、学生に考えてもらいます。単位によっては発表者を決めておき、プレゼンテーションを行ってもらうこともあります。受け身な態度ではなく、自身の考えを表現できるように心がけてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	子 ども 教 育 方 法 論 (Curriculum Method of Teaching)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	野 末 晃 秀								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授業概要： 現代の我が国における教育、保育の現状及び子どもの実情を理解し、その状況に適合し合致するような、それぞれの機関における教育の方法に関する基礎的な理論や技術を学ぶ。その具体的な内容としては、年齢や学力に合わせた指導案（及びカリキュラム）の計画・立案方法を学び、それぞれが立案できるようにする。またその案を使用しての模擬保育にも発展させる。また現在不空している様々な最新の情報機器などの種類や活用方法についても学ぶ。それぞれが自分独自の教育方法を模索しながら、自分の教育・保育方法を立案し、展開ができるように展開していきたい。									
授業目標： 「幼稚園教育要領」及び「保育所保育指針」に示された内容を理解し、実践例を参考にしながら具体的な教育方法についての専門的な知識の習得、及び認識を深める。また各自が具体的な指導案の作成方法や、教材研究の方法の習得を目指す。さらに現在必須の情報通信機器も使用し、教育方法のひとつとして実際の教育現場において活用し、実践できる能力を身に付ける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）				事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）			授 業 形 態	
1	本授業のガイダンス 教育方法とは何か				事前：教育の様々な記事を読んでおく 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
2	「幼稚園教育要領」とは何か またそこに示される教育方法とは				事前：幼稚園とは何かを事前に知っておく 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
3	「保育所保育指針」に示される教育方法とは何か				事前：自分が受けた教育を思い出しておく 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
4	現在の保育施設における様々な教育方法の実践例				事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
5	幼稚園における年齢別の教育方法、環境構成の意義と、教育方法の種類				事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
6	現代の子どもに育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿				事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
7	興味・関心を促進するような教育方法、教育評価、評価方法				事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
8	幼稚園における様々な教育方法と、その活用方法				事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
9	幼稚園・保育所における理解者に対する基礎的な対応				事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
10	保育における遊びと環境を通した教育方法の実践例				事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
11	各地域における連携と特色のある教育方法とその実践例				事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
12	保育における計画の立案と指導案の重要性（日案、週案などの作成）				事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
13	教育現場における様々な情報機器の操作と活用方法（その諸注意、実践例など）				事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す			講義 90分	
14	情報機器を活用した教材の作成と実践				事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す			グループ討論 60分、 発表 30分	
15	良い教育方法とは何か、またその今後の課題について考える				事前：教育の時事問題を調べてみる 事後：ノート整理・復習			グループ討論 45分、 講義 45分	
教本： 谷田貝公昭 監修 大沢裕 藤田久美編著、保育士を育てる③ 『子どもの理解と援助』一藝社（ISBN 9784863592025）									
参考文献： ・文部科学省『幼稚園教育指導資料集第5集「指導と評価に生かす記録」』チャイルド本社・『幼稚園教育要領』文部科学省、『保育所保育指針解説書』厚生労働省、 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業時間だけではなく教育の時事的問題に関心を持ちインターネットで調べてみたりする習慣を身につけること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	子どもの健康と安全						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大脇淳子・大門明美・吉田裕子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 子どもの健康を保持増進するための保健活動の実践に必要な体調管理の方法、基本的養護と教育、病気や怪我の対応とその予防に関する基礎的な技術を修得し、子どもと家族の健やかな発育と発達を促進するための保育活動について考える。									
授業目標： 1. 子どもの健康の保持増進に必要な健康管理の方法を学修する。 2. 子どもの生活習慣の自立支援の方法を身に着ける。 3. 子どもの体調不良時の対応および応急処置の技術を身に着ける。 4. 子どもと家族の健やかな健康を保持増進するヘルスプロモーション活動における保育者の役割を学修する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）			授業形態
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法の説明					事前：シラバスの確認 事後：学習の流れの確認			講義
2	保育における健康と安全管理 子どもを養護するための基本技術 ・安全・安楽を考慮した技術：抱っこ・おんぶ、遊び					事前： テキスト第1章に該当する箇所の予習 事後：演習技術の復習			講義 演習
3	保育における保健的対応① ・子どもの生活に対する援助：オムツ交換、衣服の着脱					事前：第5章の該当する箇所の予習 子どもの発育の特徴の復習 事後：授業内容の復習			講義 演習
4	保育における保健的対応② ・子どもの生活に対する援助：食事援助（授乳・離乳食） 食習慣と食育、歯磨き					事前：第5章の該当する箇所の予習 子どもの発育の特徴の復習 事後：授業内容の復習			講義 演習
5	保育における保健的対応③ ・子どもの健康観察と発育評価：バイタルサイン測定、 身体計測、発育評価					事前：テキスト第5章の該当する箇所の予習 事後：授業内容の復習			講義 演習
6	子どもの安全な保育環境と安全管理 ・発達の特徴と起こりやすい事故、安全な保育環境					事前： 第2章の該当する箇所の予習 事後：授業内容の復習			講義 GW
7	子どもの体調不良への対応① 発熱・けいれん 脱水 ・主な疾患と観察点、脱水予防と対処方法					事前：第3章の該当する箇所の予習 事後：授業内容の復習			講義 GW
8	子どもの体調不良への対応② 下痢・嘔吐 ・主な疾患と観察点 ・清潔援助（臀部浴、陰部洗浄）					事前：第3章の該当する箇所の予習 事後：授業内容の復習			講義 演習
9	個別的な配慮が必要な子どもへの対応 ・アレルギー疾患：食物アレルギー、気管支喘息 ・子どもの薬の管理と与薬方法					事前：第3章の該当する箇所の予習 事後：授業内容の復習			講義 GW
10	子どもの感染症の特徴と衛生管理 ・子どものかかりやすい感染症と予防対策 ・感染予防のための手洗い方法、手袋・エプロンの脱着方法					事前：第2章、第4章の該当する箇所の予習 事後：授業内容の復習			講義 演習
11	子どもの応急手当① ・おもな怪我と重症度の分類、対応方法					事前：第3章の該当する箇所の予習 事後：授業内容の復習			講義 GW
12	子どもの応急手当② ・一次救命処置：心肺蘇生法、気道内異物除去					事前：第3章の該当する箇所の予習 事後：授業内容の復習			講義 演習
13	子どもと家族のヘルスプロモーション ・保護者への健康教育と支援のあり方					事前：第6章の該当する箇所の予習 事後：保護者への健康教育の復習			講義 GW
14	子どもの健やかな健康と保育に関するプレゼンテーション 保護者への健康教育					事前： 自己の課題の準備 事後：レポート課題のまとめ			講義 ワーク
15	子どもと家族の健やかな健康を保持増進するヘルスプロモーション活動における保育者の役割					事前：第14回の復習 事後：子どもと家族のヘルスプロモーション活動について考える			ワーク

教本： 鈴木美恵子著：これだけはおさえたい保育者のための「子どもの健康と安全」【改訂版】、創成社（最新版）	参考文献： これだけはおさえたい保育者のための「子どもの保健」最新版 *適宜提示する。
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（10%）、プレゼンテーション等（30%）、定期試験（60%）等で総合評価する。	
学生へのアドバイス： 子どもの健やかな健康を保持・増進するための支援方法を学びます。身近な子どもの反応や言動に関心を寄せ、子どもと家族がどのように日常を過ごしているか、子どもの言動や親の接し方に注目してみましょう。	
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。	

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必修(保育)	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演 習
授業科目(英文)	子どもの食と栄養 (Food and Nourishment for Children)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	山口 恭子								
履 修 条 件	前提科目	乳幼児の食事（講義）を修得していること							
	そ の 他	なし							
授業概要： 乳幼児期の食生活は、健全な発育・発達に大きな影響を及ぼすだけでなく、生涯にわたる食習慣の基礎を作る上でも重要なものである。保育者として、子どもや家庭を支援するための基本的な栄養学的知識と食育の意義、目的を理解するとともに、演習・実習を通して実践力、展開力を身につける。									
授業目標： 1. 食生活の意義や栄養に関する基本的な知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解し説明できる。 3. 保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解し実践できる。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. アレルギーや疾病、障害など特別な配慮を要する子どもの食と栄養について、ガイドラインや近年のデータ等を踏まえて理解を深める。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1・2	子どもの健康と食生活の意義（心身の健康と食生活、食生活の現状と課題） 子どもの発育・発達と食生活／栄養に関する基本的知識①（発育・発達の基本的知識）					事前：テキスト精読（pp.1-8、pp.9-15） 事後：授業内容復習		講義 90分 演習 90分	
3・4	子どもの発育・発達と食生活／栄養に関する基本的知識②（栄養の基本的知識）					事前：テキスト精読（pp.29-45） 事後：授業内容復習		講義 90分 演習 90分	
5・6	子どもの発育・発達と食生活／栄養に関する基本的知識③（消化器官・排泄機能の発達）					事前：テキスト精読（pp.16-19） 事後：授業内容復習		講義 90分 演習 90分	
7・8	子どもの発育・発達と食生活／栄養に関する基本的知識④（食べる機能の発達、食事と食品／献立作成と料理の基本）					事前：テキスト精読（pp.20-25、pp.49-52） 事後：授業内容復習		講義 90分 演習 90分	
9・10	子どもの発育・発達と食生活／栄養に関する基本的知識⑤（栄養状態の評価／小児の食事摂取基準食事摂取基準）					事前：テキスト精読（pp.26-28、pp.46-48） 事後：授業内容復習		講義 90分 演習 90分	
11・12	ライフステージ別の栄養と食生活（学童期、妊娠期、成人期・高齢期）					事前：テキスト精読（pp.101-110、pp.63-69） 事後：授業内容復習		講義 90分 演習 90分	
13・14	家庭や児童福祉施設における食事と栄養 特別な配慮を要する子どもの食と栄養①（疾病及び体調不良、障害）					事前：テキスト精読（pp.135-149、pp.155-170） 事後：授業内容復習		講義 90分 演習 90分	
15・16	特別な配慮を要する子どもの食と栄養②（食物アレルギー）					事前：テキスト精読（pp.171-186） 事後：授業内容復習		講義 90分 演習 90分	
17・18	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活① 【実習】調乳					事前：テキスト精読（pp.70-80） 事後：授業内容復習		講義 90分 演習 90分	
19・20	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活② 【実習】離乳食の基本 おかゆをつくる					事前：テキスト精読（pp.80-90） 事後：授業内容復習		講義 90分 演習 90分	
21・22	幼児期の心身の発達と食生活① 【演習】幼児のお弁当、おやつを考える					事前：テキスト精読（pp.90-100） 事後：授業内容復習		講義 90分 演習 90分	
23・24	幼児期の心身の発達と食生活② 【実習】だしの取り方					事前：テキスト精読（pp.90-100） 事後：授業内容復習		講義 90分 演習 90分	
25・26	食育の基本と内容① （保育における食育の意義・目的と基本的考え方、食育の内容と計画及び評価） 【演習】食育計画を立案する					事前：テキスト精読（pp.111-121） 事後：授業内容復習		講義 90分 演習 90分	
27・28	食育の基本と内容② （食育のための環境、地域の関係機関や職員間の連携） 【演習】行事食についてまとめる					事前：テキスト精読（pp.122-131） 事後：授業内容復習		講義 90分 演習 90分	
29・30	食育の基本と内容③ （食生活指導及び食を通した保護者への支援） 【演習】給食だよりを作成する 総括					事前：テキスト精読（pp.132-133） 事後：授業内容復習		講義 90分 演習 90分	

教本： 森脇千夏ら「イラスト 子どもの食と栄養」（東京教学社、2022年）	参考文献： 厚労省「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（2019年改訂版） 厚労省「保育所における食事の提供ガイドライン」（平成24年3月） 厚労省「授乳・離乳の支援ガイド」（2019年改訂版）ほか
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業、演習、実習への参加状況等（20%）、レポート提出（30%）、試験（50%）で総合評価する。	
学生へのアドバイス： 保育活動における食育の重要度は近年ますます高まっています。保育士を目指す学生として、身近な食の問題に関心を持ち、授業で身に付けた知識や技術を日常の食生活にも取り入れ活かしてください。	
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。	

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	子どもの保健（Child Health）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大脇淳子・大門明美・吉田裕子								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	そ の 他	特になし							
授業概要： 子ども期の心身の健康、発育と発達、病気や事故の予防など安全な保育環境について概説し、保育の専門家として、地域の多職種との連携と協働による子どもの健やかな発育・発達の支援に必要な基礎的知識を修得する。									
授業目標： 1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を学修する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と評価、心身の健康状態と把握の方法について学修する。 3. 子どもの疾病とその予防法及び子どもの安全を守るための適切な対応について学修する。 4. 配慮が必要な子どもと家族の理解と適切な対応について学修する。 5. 子どもの健やかな発育・発達の支援するための他職種間の連携・協働における保育者の役割について考える。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法の説明 子どもの心身の健康と保健の意義：健康の概念と保健活動					事前：シラバスの確認、第1章の予習 事後：学修の流れの確認		講義	
2	子どもの発育・発達と保健①：身体づくりと身体発育					事前：第2章の予習 事後：成長・発達の特徴の復習		講義	
3	子どもの発育・発達と保健②：生理機能・感覚器（視覚・聴覚）の発達					事前：第2回授業の振り返り 事後：生理機能、視覚・聴覚の発達の復習		講義	
4	子どもの発育・発達と保育③：精神機能の発達					事前：第3回授業の振り返り 事後：精神機能の発達の復習		講義	
5	子どもの発育・発達と保育④：発育・発達の評価と健康診断					事前：第4回授業の振り返り 事後：発達評価の方法を復習		講義	
6	子どもの栄養と食行動の発達：離乳食から幼児食へ					事前：第4章の予習 事後：子どもの栄養の意義を復習		講義	
7	子どもの病気とその対応①：免疫機能発達と感染症					事前：第5章の予習 事後：感染症の特徴を復習		講義	
8	子どもの病気とその対応②：衛生管理と感染予防対策、予防接種					事前：第7回授業の振り返り 事後：感染症予防対策を復習		講義	
9	子どもの病気とその対応③：発熱・かぜ					事前：第8回授業の振り返り 事後：呼吸器・消化器の病気の復習		講義	
10	子どもの病気とその対応④：アレルギー、特に食物アレルギーを中心に					事前：第9回授業の振り返り 事後：アレルギーの特徴を復習		講義	
11	子どもの事故と安全教育： チャイルドビジョン、チャイルドマウス（誤飲チェッカー）					事前：第6章の予習 事後：事故の特徴を復習		講義	
12	子どもの精神保健①：配慮が必要な子ども 発達障害の理解と対応					事前：第3章の予習 事後：発達障害の理解の復習		講義	
13	子どもの精神保健②：配慮が必要な子ども 児童虐待の理解と対応					事前：第3章の復習 事後：児童虐待と対応を復習		講義	
14	子どもの健康と安全を守る 地域との連携・協働、法律と政策					事前：第8章の予習 事後：地域との連携と協働を復習		講義	
15	子どもの健康と健やかな発育・発達の支援するための保育者の役割					事前：第8章の復習 事後：保育者の役割を考える		講義	
教本： 鈴木美恵子著：これだけはおさえてたい保育者のための子どもの保健Ⅰ、創成社（最新版）									
参考文献： 保育所保健指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（10%）、課題・レポート等（30%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 急速に進む少子化、養育に関する様々な社会問題の中で、発達ニーズをもつ乳幼児期の子どもたちが健やかに育つための発育支援の役割を担う役割を担う一員として保育者に何ができるか、一緒に考えましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	子どもの保健Ⅱ（Child HealthⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大脇淳子・大門明美・吉田裕子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 子どもの健康を保持増進するための保健活動の実践に必要な体調管理の方法、基本的養護と教育、病気や怪我の対応とその予防に関する基礎的な技術を修得し、子どもと家族の健やかな発育と発達を促進するための保育活動について考える。									
授業目標： 1. 子どもの健康の保持増進に必要な健康管理の方法を学修する。 2. 子どもの生活習慣の自立支援の方法を身に着ける。 3. 子どもの体調不良時の対応および応急処置の技術を身に着ける。 4. 子どもと家族の健やかな健康を保持増進するヘルスプロモーション活動における保育者の役割を学修する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法の説明					事前：シラバスの確認 事後：学習の流れの確認		講義	
2	保育における健康と安全管理 子どもを養護するための基本技術 ・安全・安楽を考慮した技術：抱っこ・おんぶ、遊び					事前：テキスト第1章に該当する箇所の予習 事後：演習技術の復習		講義 演習	
3	保育における保健的対応 ① ・子どもの生活に対する援助：オムツ交換、衣服の着脱					事前：第5章の該当する箇所の予習 子どもの発育の特徴の復習 事後：授業内容の復習		講義 演習	
4	保育における保健的対応 ② ・子どもの生活に対する援助：食事援助（授乳・離乳食） 食習慣と食育、歯磨き					事前：第5章の該当する箇所の予習 子どもの発育の特徴の復習 事後：授業内容の復習		講義 演習	
5	保育における保健的対応 ③ ・子どもの健康観察と発育評価：バイタルサイン測定、身体計測、発育評価					事前：テキスト第5章の該当する箇所の予習 事後：授業内容の復習		講義 演習	
6	子どもの安全な保育環境と安全管理 ・発達の特徴と起こりやすい事故、安全な保育環境					事前：第2章の該当する箇所の予習 事後：授業内容の復習		講義 GW	
7	子どもの体調不良への対応① 発熱・けいれん 脱水 ・主な疾患と観察点、脱水予防と対処方法					事前：第3章の該当する箇所の予習 事後：授業内容の復習		講義 GW	
8	子どもの体調不良への対応② 下痢・嘔吐 ・主な疾患と観察点 ・清潔援助（臀部浴、陰部洗浄）					事前：第3章の該当する箇所の予習 事後：授業内容の復習		講義 演習	
9	個別的な配慮が必要な子どもへの対応 ・アレルギー疾患：食物アレルギー、気管支喘息 ・子どもの薬の管理と与薬方法					事前：第3章の該当する箇所の予習 事後：授業内容の復習		講義 GW	
10	子どもの感染症の特徴と衛生管理 ・子どものかかりやすい感染症と予防対策 ・感染予防のための手洗い方法、手袋・エプロンの脱着方法					事前：第2章、第4章の該当する箇所の予習 事後：授業内容の復習		講義 演習	
11	子どもの応急手当① ・おもな怪我と重症度の分類、対応方法					事前：第3章の該当する箇所の予習 事後：授業内容の復習		講義 GW	
12	子どもの応急手当② ・一次救命処置：心肺蘇生法、気道内異物除去					事前：第3章の該当する箇所の予習 事後：授業内容の復習		講義 演習	
13	子どもと家族のヘルスプロモーション ・保護者への健康教育と支援のあり方					事前：第6章の該当する箇所の予習 事後：保護者への健康教育の復習		講義 GW	
14	子どもの健やかな健康と保育に関するプレゼンテーション 保護者への健康教育					事前：自己の課題の準備 事後：レポート課題のまとめ		講義 ワーク	
15	子どもと家族の健やかな健康を保持増進するヘルスプロモーション活動における保育者の役割					事前：第14回の復習 事後：子どもと家族のヘルスプロモーション活		ワーク	

教本： 鈴木美恵子著：これだけはおさえたい保育者のための「子どもの健康と安全」【改訂版】、創成社（最新版）	参考文献： これだけはおさえたい保育者のための「子どもの保健」最新版 *適宜提示する。
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（10%）、プレゼンテーション等（30%）、定期試験（60%）等で総合評価する。	
学生へのアドバイス： 子どもの健やかな健康を保持・増進するための支援方法を学びます。身近な子どもの反応や言動に関心を寄せ、子どもと家族がどのように日常を過ごしているか、子どもの言動や親の接し方に注目してみましょう。	
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。	

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	子ども保育者論（Childcare Workers）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大 沢 裕								
履 修 条 件	前提科目								
	そ の 他								
授業概要： 時代とともに変わる保育のさまざまな実態にも機敏に対応していける保育者について学ぶとともに、専門性とコンプライアンスに基づいた確固たる使命感と熱意を持ち、保育を行うことのできる実践の在り方について学ぶ。授業方法は、演習、話し合い活動、グループ学習等を設定する。									
授業目標： 教職の意義の意義、現代課題に基づく保育者の役割、職務内容、必要とされる資質能力ついて身に付ける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	我が国における教職の社会的意義について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義（60分）・グループ（30分）	
2	専門職としての幼稚園教諭、保育教諭、保育士の社会的責務について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義（60分）・グループ（30分）	
3	今日的課題を踏まえた幼稚園教諭、保育教諭、保育士の役割について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義（60分）・グループ（30分）	
4	幼稚園教諭、保育士、保育教諭の資質・能力などを育成していくための研修について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義（60分）・グループ（30分）	
5	チーム学校への対応と園における公務分掌について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義（60分）・グループ（30分）	
6	教職員研修の意義と制度について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義（60分）・グループ（30分）	
7	幼稚園教諭、保育教諭、保育士の服務と身分保障について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義（60分）・グループ（30分）	
8	幼稚園教諭、保育教諭、保育士のコンプライアンスについて考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義（60分）・グループ（30分）	
9	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園において求められる保育者の役割と職務内容について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義（60分）・グループ（30分）	
10	組織マネジメントと保育者の関連性について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義（60分）・グループ（30分）	
11	地域の中で子育てを支える保育者の役割について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義（60分）・グループ（30分）	
12	園長を招いて話を聞く（組織の一員としての責任と自覚）					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義（60分）・グループ（30分）	
13	幼稚園教諭を招いて話を聞く（園内における役割、保護者への支援）					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義（60分）・グループ（30分）	
14	ライフステージに応じたキャリア形成について考えるとともに自身のキャリアステージについて考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義（60分）・グループ（30分）	
15	これから求められる幼稚園教諭、保育教諭、保育士の役割と資質・能力について考える。							発表（90分）	
教本： 谷田貝公昭 編著『コンパクト版 保育者論』一藝社					参考文献： 『幼稚園教育要領』（最新版）文部科学省、 『保育所保育指針解説書』（最新版）厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）内閣府・文部科学省・厚生労働省				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20％）、小テスト・レポート（20％）、定期試験（60％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス：									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	コミュニケーション心理学 (Psychology of Communication)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	水本 深喜								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本講義では、私たちが日常的に行っているコミュニケーションに関する社会心理学の理論を学びながら、コミュニケーション場面で生じていることを理解し、より快適なコミュニケーションをとるためにはどうしたらよいのかについて演習を通して考える。									
授業目標： コミュニケーション場面で何が生じているのかについて心理学的に理解し、より円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	オリエンテーション				事前：シラバスの精読 事後：講義内容の復習			グループワーク 50分 講義 40分	
2	ワンウェイコミュニケーション、トゥーウェイコミュニケーション				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える			グループワーク 50分 講義 40分	
3	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーション				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える			グループワーク 50分 講義 40分	
4	説得的コミュニケーション				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える			グループワーク 50分 講義 40分	
5	自己開示と自己呈示				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える			グループワーク 50分 講義 40分	
6	インターネットによるコミュニケーション				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える			グループワーク 50分 講義 40分	
7	交流分析①				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える			グループワーク 50分 講義 40分	
8	交流分析②				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える			グループワーク 50分 講義 40分	
9	リフレーミング①				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える			グループワーク 50分 講義 40分	
10	リフレーミング②				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える			グループワーク 50分 講義 40分	
11	アサーション①				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える			グループワーク 50分 講義 40分	
12	アサーション②				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える			グループワーク 50分 講義 40分	
13	共感傾聴				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える			グループワーク 50分 講義 40分	
14	家族のコミュニケーション				事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える			グループワーク 50分 講義 40分	
15	まとめ				事前：授業全般の復習 事後：理解の補完			講義	
教本： なし。授業中に資料を配布する。					参考文献： 授業中に適宜紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、テスト（50%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 講義には、グループワーク、ディスカッション等を取り入れる。毎回の講義終了時には、コメントペーパーに講義内容から考えたことを書いて提出していただく。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	コンピュータグラフィックス (Computer Graphics)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	秋 廣 誠								
履 修 条 件	前提科目	情報基礎							
	そ の 他	PCの操作スキルを習得していない場合、必ず上記科目から履修すること							
授業概要： デジタル画像は現代のデジタルコンテンツの重要な基本要素である。デジタル画像に関する知識と編集技術について、PC／スマートフォンを利用した作品制作を通して学修する。									
授業目標： 1. デジタル画像に関する用語を理解し、説明ができる。 2. 視覚表現の意図に沿って、計画的にデジタル画像を編集することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	シラバスの説明／デジタル画像の分類を理解する					事前：シラバスを読む 事後：デジタル画像の分類を調べる		講義	
2	カメラの仕組みと撮影環境を理解する デジタル画像の仕組みの概要を理解する					事前：撮影機材の準備 事後：授業内で指示する		講義 60分 演習 30分	
3	講義内容を踏まえ、写真撮影を実践する					事前：撮影の計画を練る 事後：画像データを整理する		講義 60分 演習 30分	
4	標準的な画像編集ソフトの基本操作について理解する					事前：画像編集ソフトを準備する 事後：画像編集ソフトについて復習する		講義 60分 演習 30分	
5	画像にレタッチを施す／画像ファイルの管理方法を理解する					事前：教材となる画像データを準備する 事後：レタッチについて復習する		講義 60分 演習 30分	
6	画像編集におけるレイヤーの概念、使用方法とその応用を理解する					事前：教材となる画像データを準備する 事後：レイヤーについて復習する		講義 60分 演習 30分	
7	画像編集におけるフィルターの使用方法とその応用を理解する					事前：教材となる画像データを準備する 事後：フィルターについて復習する		講義 60分 演習 30分	
8	これまでの演習を踏まえコラージュを作成する／作例を鑑賞する					事前：コラージュについて調べる 事後：コラージュを作成する		講義 60分 演習 30分	
9	デジタル画像の諧調と色彩が、どのように保存されるかを理解する／色空間の概念を理解する					事前：教材となる画像データを準備する 事後：諧調と色彩の表現について復習する		講義 60分 演習 30分	
10	文字の要素による視覚効果を理解する／事例をもとに誘目性について検討する					事前：教材となる画像データを準備する 事後：文字要素と誘目性について復習する		講義 60分 演習 30分	
11	画像編集ソフトによる描画方法を理解する／多様な2次元グラフィックツールについて説明する					事前：グラフィックツールについて調べる 事後：ポスターの構成要素について調べる		講義 60分 演習 30分	
12	表現の意図に沿ってポスターを作成する（企画／計画）					事前：課題制作の準備をする 事後：作品を企画する		講義 30分 演習 60分	
13	表現の意図に沿ってポスターを作成する（素材準備）					事前：課題制作の準備をする 事後：課題制作の素材を準備する		講義 30分 演習 60分	
14	表現の意図に沿ってポスターを作成する（制作）					事前：課題制作の準備をする 事後：作品を完成させる		講義 30分 演習 60分	
15	作品相互レビュー／総括					事前：作品を提出する 事後：ポスターについて理解を深める		講義	
教本： 講義内で指示する					参考文献： 講義内で指示する				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業での演習（30%）、小テスト等（30%）、作品制作（40%）で評価する。									
学生へのアドバイス： 3304、2207以外の教室で実施される場合、ノートパソコンが必要となる。履修希望者が定員を超えた場合、初回授業にて抽選を行う。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	コンピュータプレゼンテーション（Computer Presentation）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	金 宰 都・鈴木秀顕								
履 修 条 件	前提科目	情報基礎							
	そ の 他	※「学生へのアドバイス」参照							
授業概要： プレゼンテーション能力はアカデミックのみならず、一般社会においても必要不可欠な能力となっている。とりわけ現代社会においては、PCを活用したプレゼンテーションが求められており、PCを効果的に活用したプレゼンテーションの手法について、演習を通して学習する。									
授業目標： 基礎的なプレゼンテーション手法について理解し、PCで情報を的確に伝えるスライドを作成し、それらを効果的に活用したプレゼンテーションを行うことが目標となる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	シラバスの確認、プレゼンテーションとPCの活用					事前：シラバスを読む 事後：PC操作の復習		講義 60分 演習 30分	
2	スライドファイルの作成と基本操作					事前：ID・パスワード、ファイル保存の準備 事後：プレゼン資料の作成		講義 60分 演習 30分	
3	プレゼンテーションの実践 ～個人での発表（1）					事前：発表練習 事後：発表の反省		講義 15分 演習 75分	
4	プレゼンテーションの実践 ～個人での発表（2）					事前：発表練習 事後：発表の反省		講義 15分 演習 75分	
5	効果的なスライドの作成					事前：プレゼンビデオの視聴 事後：資料の確認		講義 60分 演習 30分	
6	グループでのプレゼンテーション ～企画立案					事前：テーマについて考える 事後：メンバーと議論する		講義 45分 演習 45分	
7	グループでのプレゼンテーション ～リサーチと構成					事前：資料を集める 事後：メンバーと資料を検討する		講義 45分 演習 45分	
8	グループでのプレゼンテーション ～スライドの作成					事前：スライドのデザインを決める 事後：スライドを完成させる		講義 30分 演習 60分	
9	プレゼンテーションの実践 ～グループでの発表（1）					事前：発表準備 事後：発表の反省		講義 15分 演習 75分	
10	プレゼンテーションの実践 ～グループでの発表（2）					事前：発表準備 事後：発表の反省		講義 15分 演習 75分	
11	プレゼンテーション手法の研究					事前：プレゼンビデオの視聴 事後：資料の確認		講義 60分 演習 30分	
12	個人でのプレゼンテーション ～企画立案、リサーチ					事前：テーマについて考える 事後：資料を集める		講義 45分 演習 45分	
13	個人でのプレゼンテーション ～スライドの作成					事前：資料を検討する 事後：スライドを完成させる		講義 45分 演習 45分	
14	プレゼンテーションの実践 ～個人での発表（3）					事前：発表準備 事後：発表の反省		講義 15分 演習 75分	
15	プレゼンテーションの実践 ～個人での発表（4）					事前：発表準備 事後：発表の反省		講義 15分 演習 75分	
教本： 指定しない					参考文献： 講義内で指示する				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内での演習・発表（60%）、授業への取り組み（20%）、課題提出（20%）等で総合評価する。 講義の1/3以上欠席した場合、提出課題が不足している場合、発表を規定回数行わなかった場合等は単位を認定しない。									
学生へのアドバイス： 授業時間外での準備が非常に重要となります。やむを得ず欠席した場合は、必ず担当の先生に指示を仰ぐようにして下さい。欠席等でグループメンバーに迷惑をかけないよう心がけて行動して下さい。3304、2207以外の教室で実施される場合、ノートパソコンが必要となります。また、USBメモリ等、ファイルを保存する手段を各自用意して下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	コンベンションビジネス論（Convention Business）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	田中 一郎								
履 修 条 件	前提科目	ビジネストラベル論を履修していることが望ましい							
	そ の 他	なし							
授業概要： ビジネストラベル論で学んだMICEのうち、国際会議（conventions）とインセンティブトラベル（企業報奨旅行、incentive travel）に焦点を当てて詳しく学ぶ。									
授業目標： コンベンションビジネスの現状を理解し、その重要性を認識すること									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	導入授業：授業の進め方と授業概要の説明					事前：なし 事後：今回の授業内容		講義	
2	MICE の概要					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
3	国際会議（conventions）とは					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
4	世界における国際会議（1）					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
5	世界における国際会議（2）					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
6	日本における国際会議開催状況（1）					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
7	日本における国際会議開催状況（2）					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
8	日本における国際会議の事例					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
9	小テスト					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
10	インセンティブトラベル（1）					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
11	インセンティブトラベル（2）					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
12	国際会議とインセンティブトラベル誘致のための国の取り組み（1）					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
13	国際会議とインセンティブトラベル誘致のための国の取り組み（2）					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
14	国際会議とインセンティブトラベル誘致のための JNTO の取り組み					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
15	全体のまとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
教本： 教科書は使用しない。プリントを配付する。					参考文献： 適宜、紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 国際会議とインセンティブトラベルは MICE の中でも特に重要な分野であり、そのため日本や世界の国々が互いにしのぎを削って誘致合戦を行っている。授業を通してその重要性を理解してもらいたい。毎回出席するよう努めよう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									